

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

折り図のネーム表現は説明なのか解説なのか?

(実況なのか?) Part 2 立石浩一

Relevance of Explanations below Diagrams 2

Tateishi Koichi

折り図 Diagrams

アメリカン・コッカー・スパニエル

Cocker Spaniel

ゴールデン・レトリバー

Golden Retriever

神谷哲史

Kamiya Satoshi



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

コウモリ Bat

宮島 登 Miyajima Noboru

イベント情報 Event Information

第11回折紙探偵団
コンベンション情報

Information about 11th Origami
Tanteidan Convention

通巻 91 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

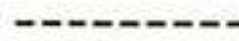
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

表紙作品解説

アメリカン・コッカー・スパニエル
ゴールデン・レトリバー
作: 神谷哲史 (P.22)

Cocker Spaniel, Golden Retriever
by Kamiya Satoshi (P.22)

■ 昨年のTVチャンピオンで見た時から折り図化をずっと待っていた、という
かたも多いはず。基本的な折り方を把握すれば、練習次第でさまざまな犬種に
応用して楽しめる作品となっています。身近な犬をじっくり観察したり図鑑を
眺めたり、自分なりのイメージをしっかりと組み立てておくこともお忘れなく。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Golden Retriever : Kamiya Satoshi

クローズアップ／Close-up

P.11 **折り図のネーム表現は
説明なのか解説なのか
(実況なのか)? Part 2**

Relevance of Explanations
below Diagrams 2

立石浩一
Tateishi Koichi

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22
**ゴールデン・レトリバー
アメリカン・コッカー・スパニエル**
 Golden Retriever, American Cocker Spaniel

神谷哲史
Kamiya Satoshi



P.34 **展開図折りに挑戦!**
 Crease Pattern Challenge!

コウモリ

Bat

宮島 登
Miyajima Noboru

カラーページ／Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
 Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 **やわらかユニット物語**
 The Stories of Mellow Units

川村みゆき
Kawamura Miyuki

糊の効能
Happy Glueing.

P.8 **おりがみ我楽多市**
 Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

正三角形からの花A,B,C
Flowers (A,B and C) from Right Triangles

読み物／Articles

P.14 **アフタヌーン・オリガミ**
 Afternoon Origami

デビッド・ブリル
David Brill

イスラエル日記
Israel Diary

翻訳：羽鳥公士郎
Translator : Hatori Koshiro

P.16 **おりがみ庵跳び歩き**
 Origamian's Quest for Origami Archives
 色刷り展開図 (その1)
 OColor-Painted Crease Patterns (1)

岡村昌夫
Okamura Masao

P.18 **相も変わらず折紙散歩**
 Doing Origami Sampo as (For)ever
 三つの教会
 Three Churches

前川 淳
Maekawa Jun

P.35 **ペーパーフォルダーの横顔**
 Paper Folders on File
 藤田文章さんご逝去
 Obituary: Huzita Humiaki

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

布施知子
Fuse Tomoko

コラム／Columns

P.10 **折り紙の周辺**
 Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 **おりすじ**
 Orisuzi ("Fold-Creases")

川島英明
Kawashima Hideaki

P.33 **折紙三昧**
 Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報／Information

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

オーストラリアコンベンション2005レポート
 Folding Australia 2005 Convention Report

第11回折紙探偵団コンベンション案内
 Information about 11th Origami Tanteidan Convention



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第13話 糊の効能

Happy Glueing.

接着することを前提とした創作では、とても繊細だったり、テンションが高すぎたりする作品も比較的簡単に作ることができます。糊はハサミと同様、使い方によって作品の可能性を広げるツールです。

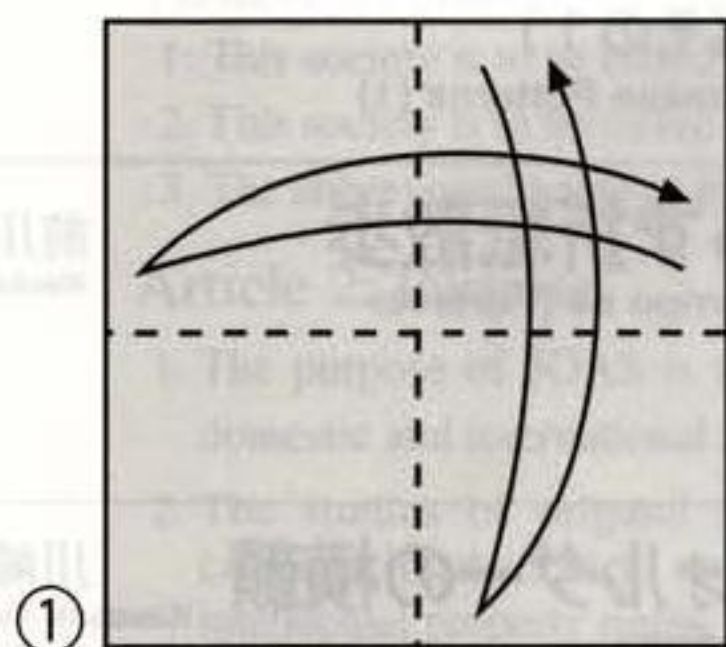
The work that is delicate and with very high paper tension can be completed by using glue. It is a tool that expands the possibility of origami work, like scissors.



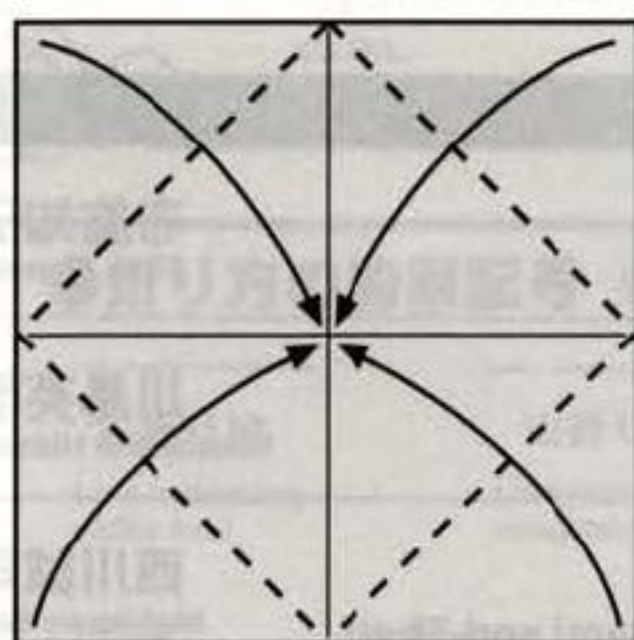
【ペア・ブレード】

©2005 Miyuki Kawamura
Created 20050412

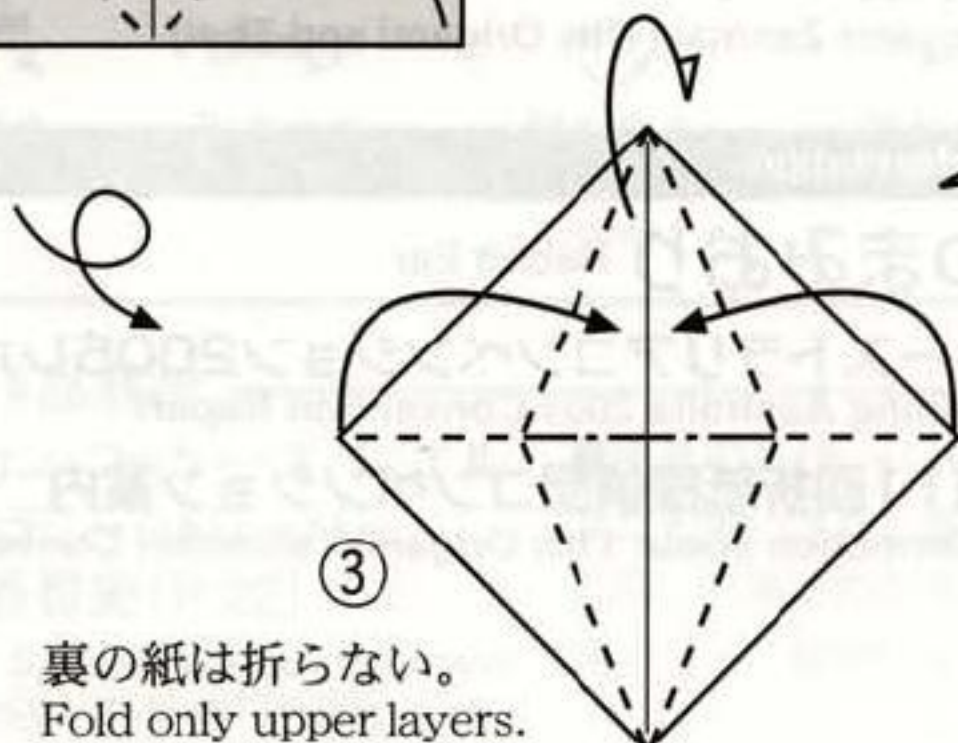
PAIR BLADE



①



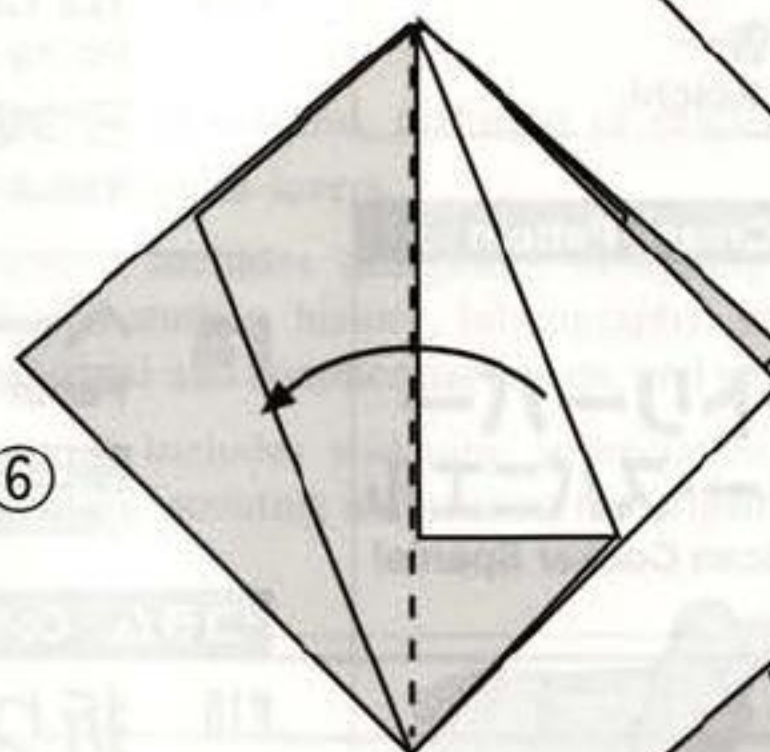
②



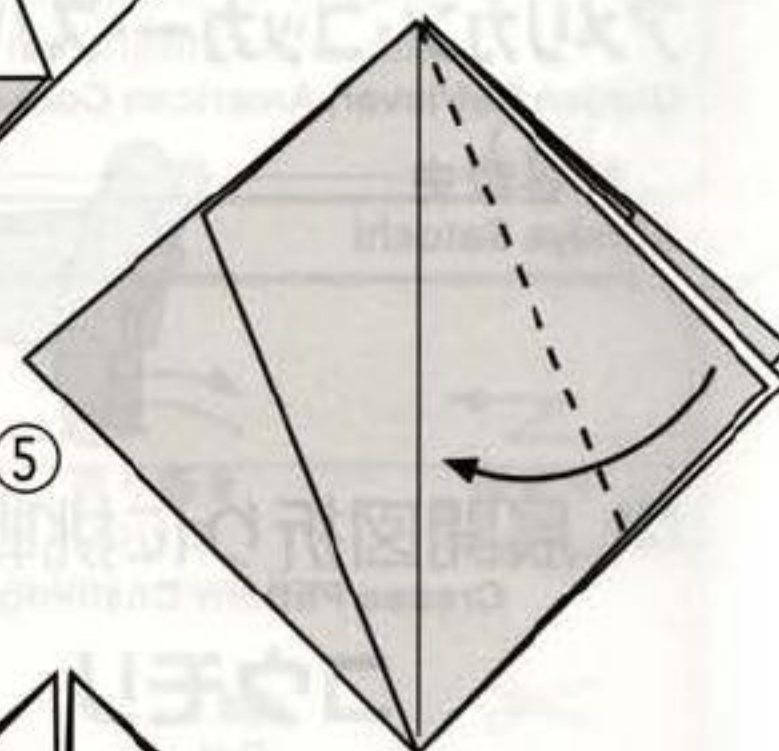
③

裏の紙は折らない。
Fold only upper layers.

⑥

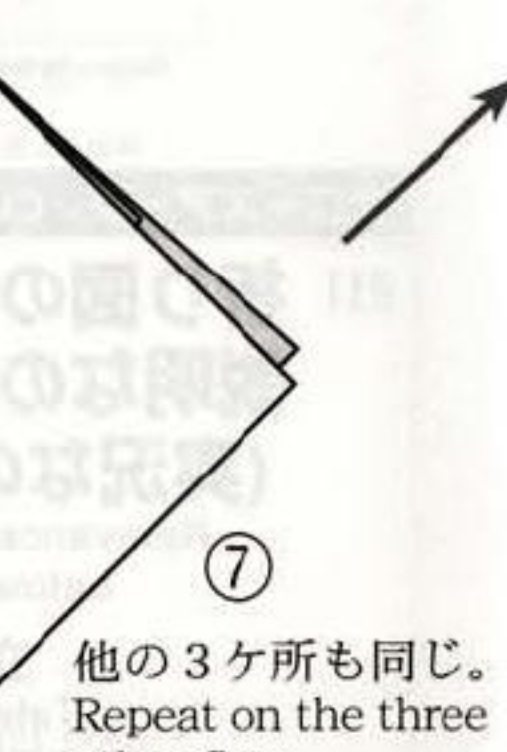


⑤



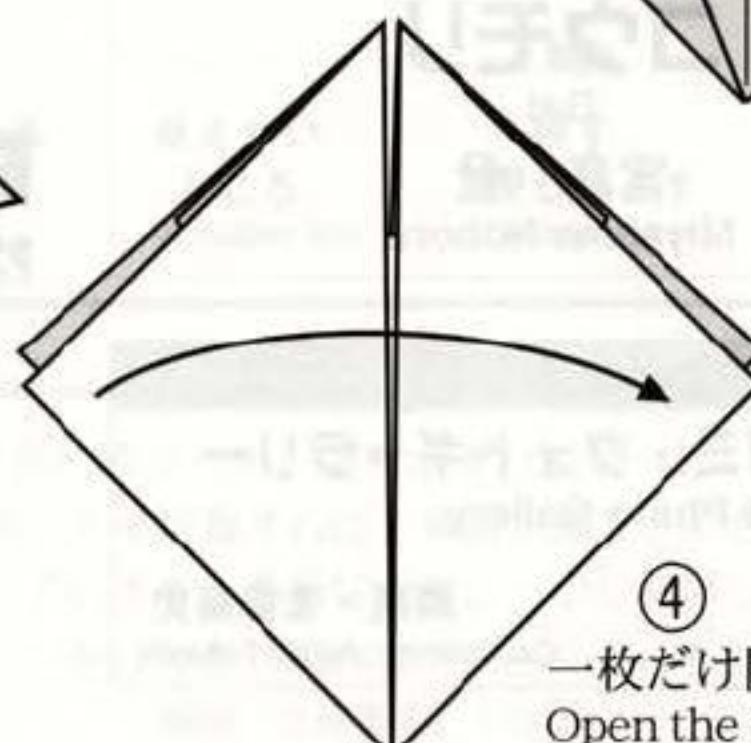
⑦

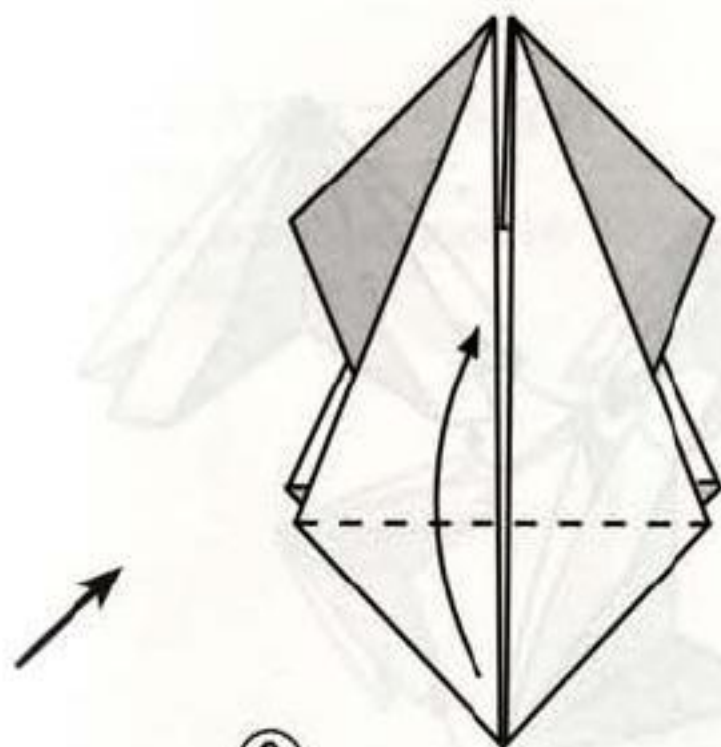
他の3ヶ所も同じ。
Repeat on the three other flaps.



④

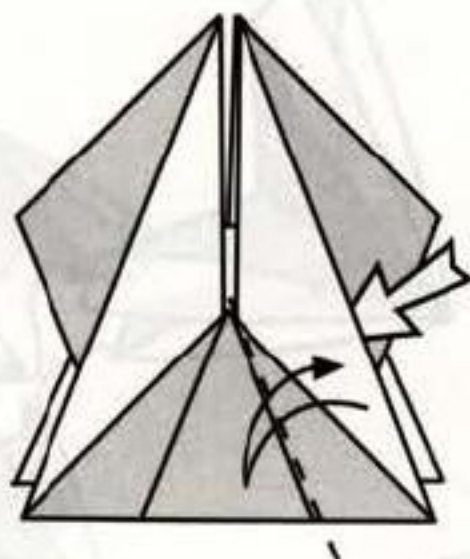
一枚だけ開く。
Open the top layer.





⑧

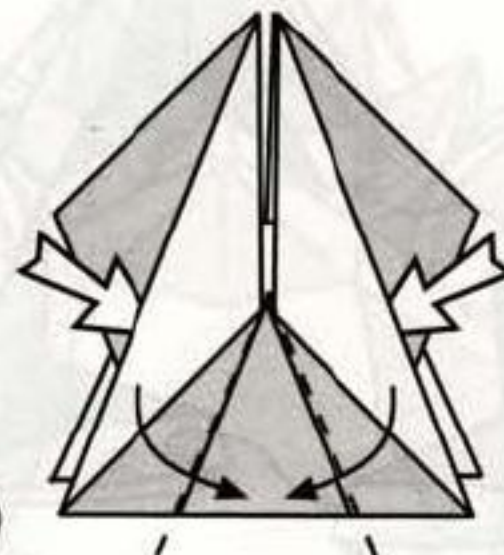
向こう側も同様に折る。
Do the same on the opposite side.



⑨

折り目をつける。
他の3ヶ所も同じ。

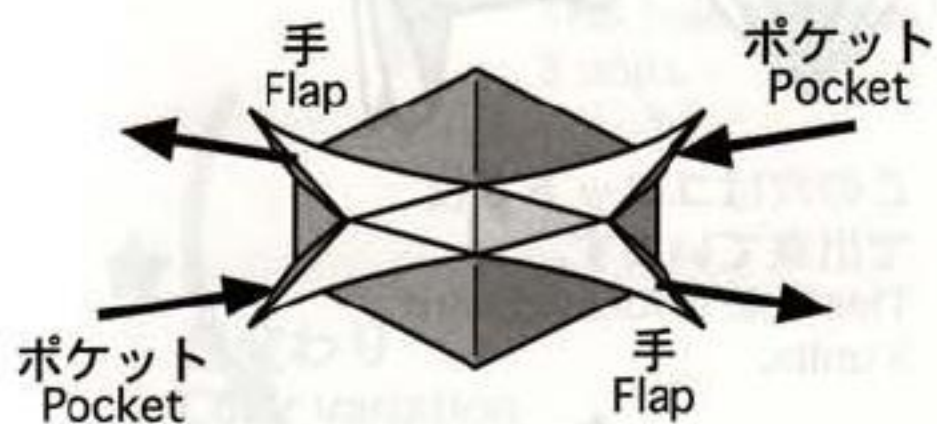
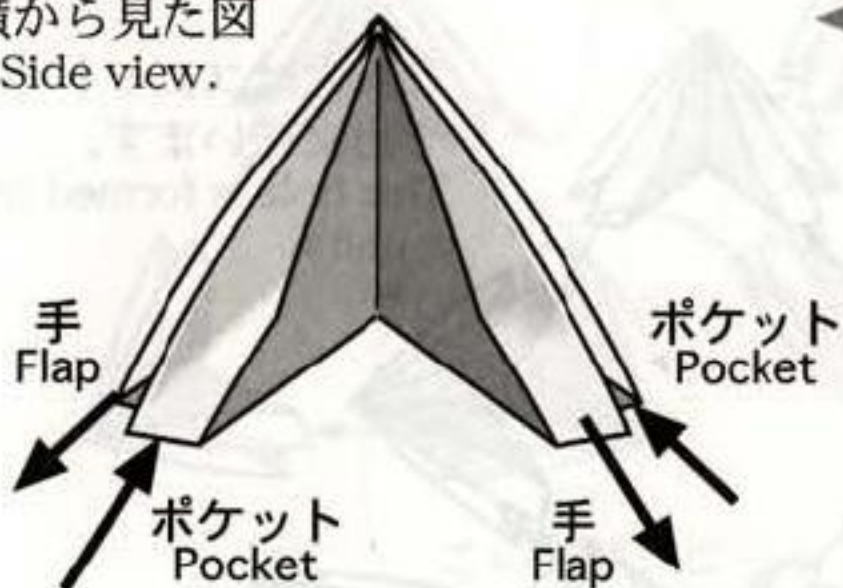
Fold and unfold.
Do the same on the three other flaps.



⑩

フラップを立てて立体的にする。反対側も同じ。
Stand the flaps and the model becomes 3-D. Repeat on the other side.

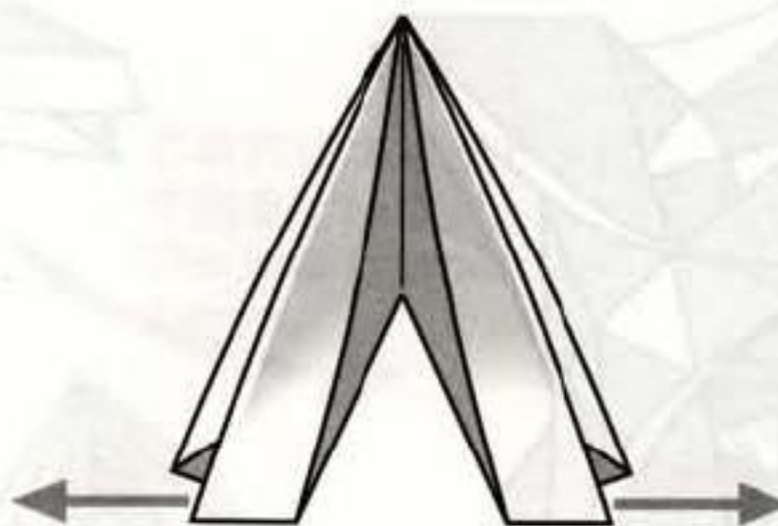
横から見た図
Side view.



上から見た図
Top view.

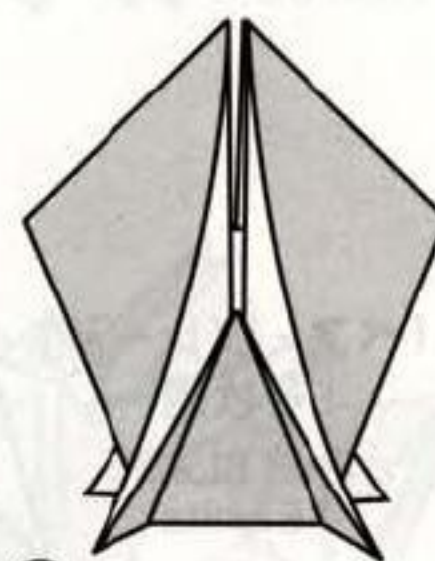
「ペア・ブレード」のユニット
The Pair blade unit

同じものを6枚作ります。
You need 6 units.



⑫

横から見た図。少し開く。
Side view. Open a bit.



⑪

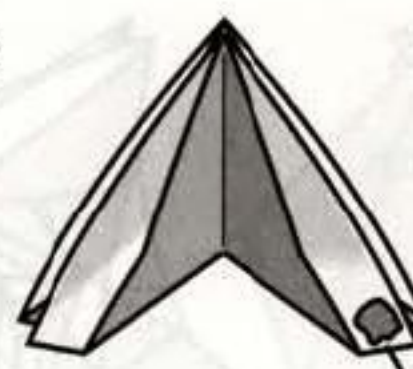
組み方 / Assembly

そのままでは結合が弱いので、
のりで接着します。
This model is unstable and will need
some glue to hold together.



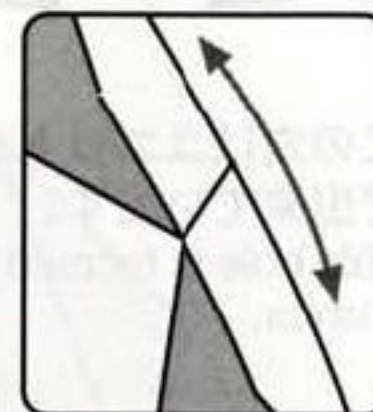
①

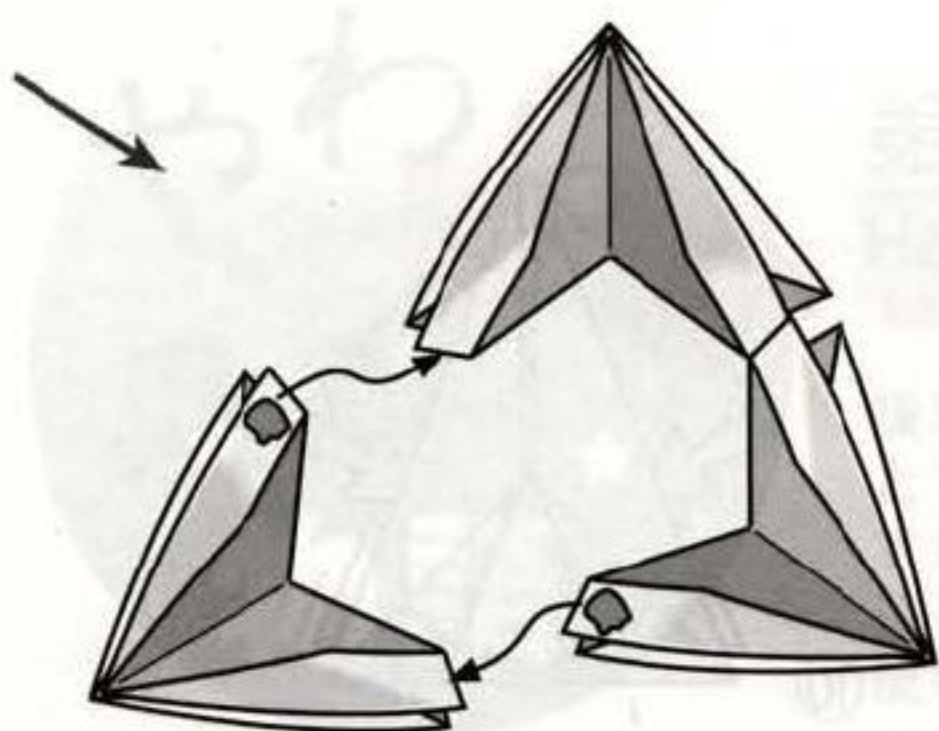
のり
glue



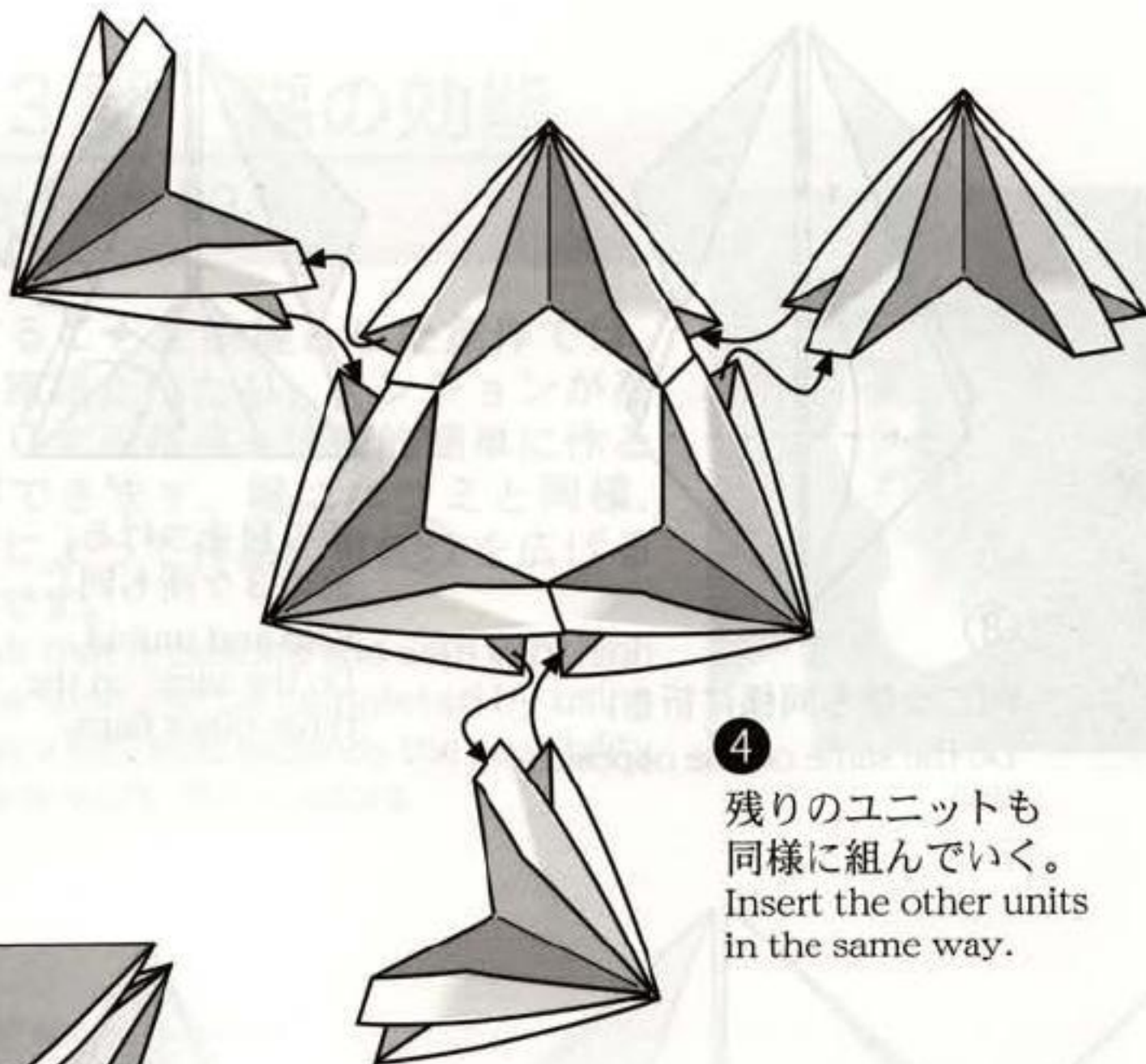
②

縁が一直線になるように差し込む。
Tuck the flap into a pocket and the edge makes a straight line.



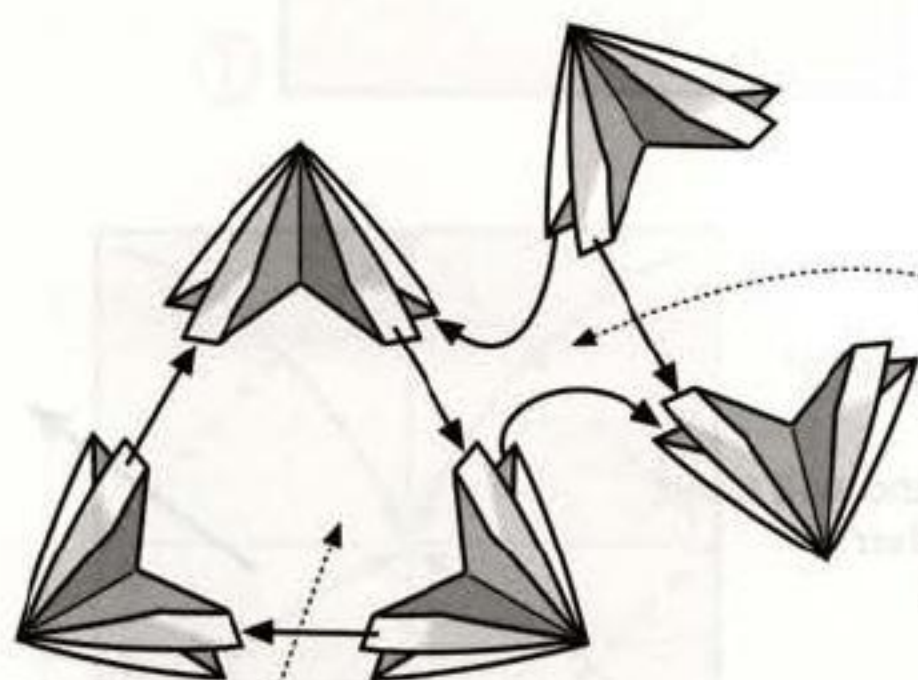
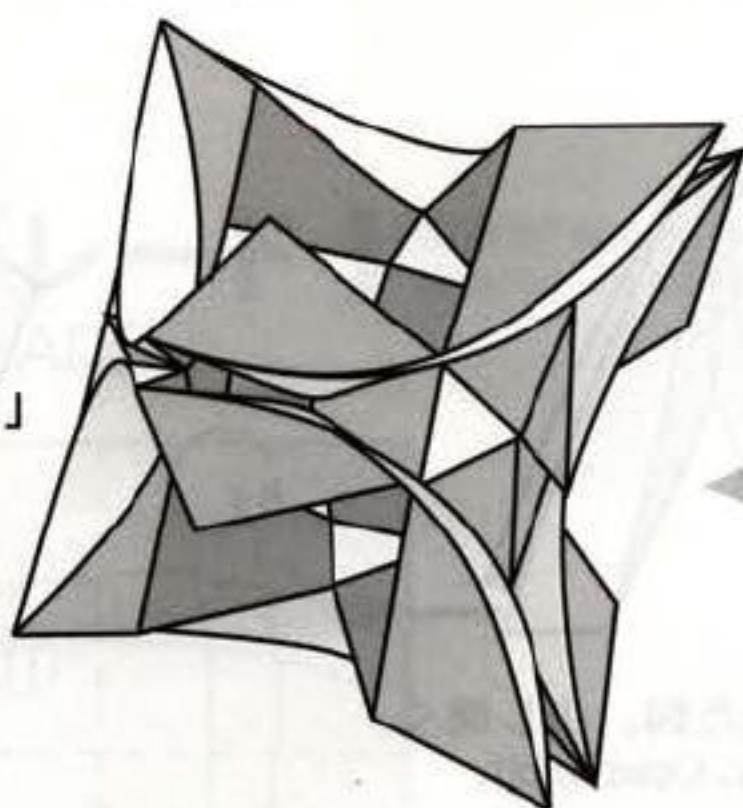


- 3 のりをつけて差し込む。
Glue and tuck the flaps
into the pockets.



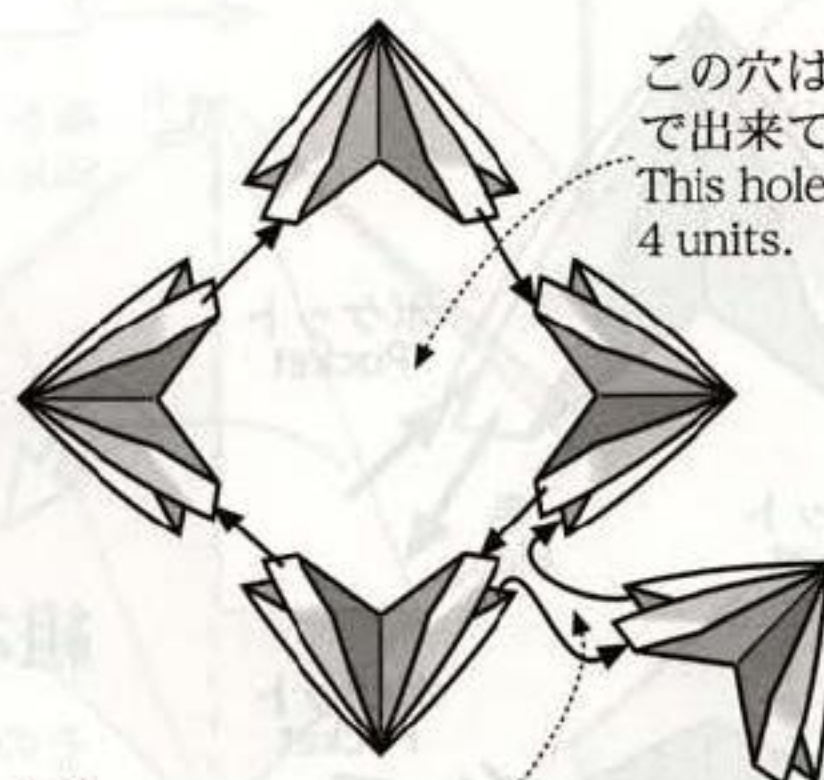
- 4 残りのユニットも
同様に組んでいく。
Insert the other units
in the same way.

「ペア・ブレード」
6 枚組
PAIR BLADE
6 units



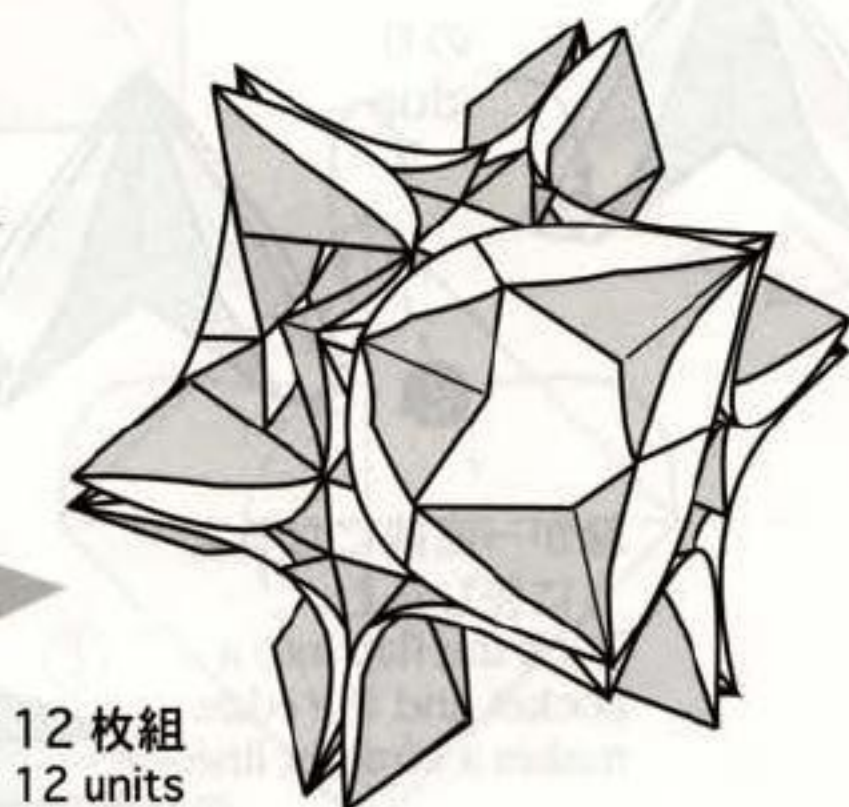
この穴はユニット 3 枚
で出来ています。
This hole is formed with
3 units.

この穴はユニット 4 枚
で出来ています。
This hole is formed with
4 units.

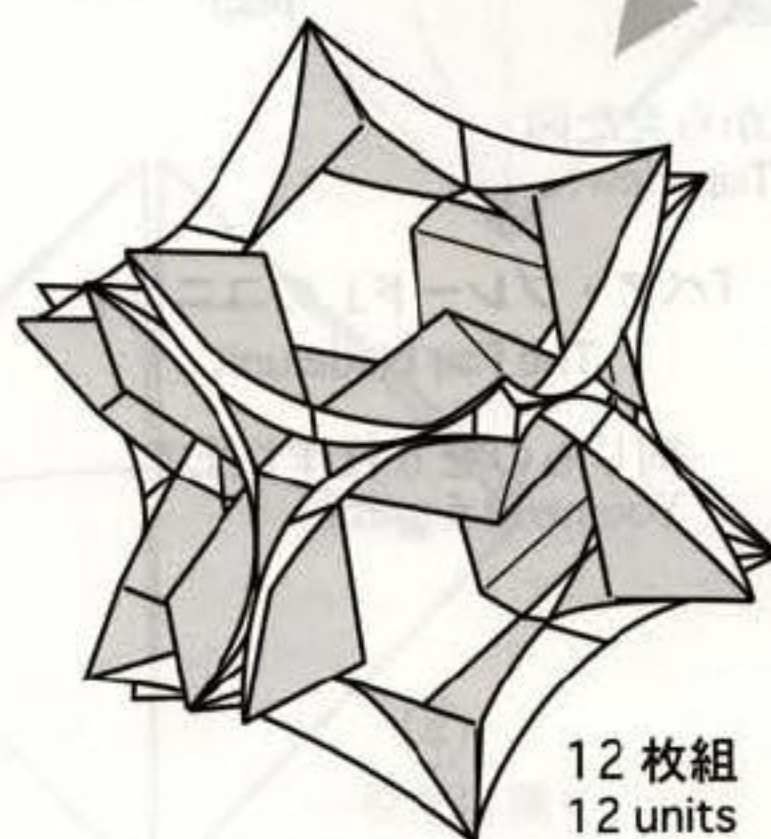


この穴はユニット 4 枚
で出来ています。
This hole is formed by
4 units.

この穴はユニット 3 枚
で出来ています。
This hole is formed with
3 units.

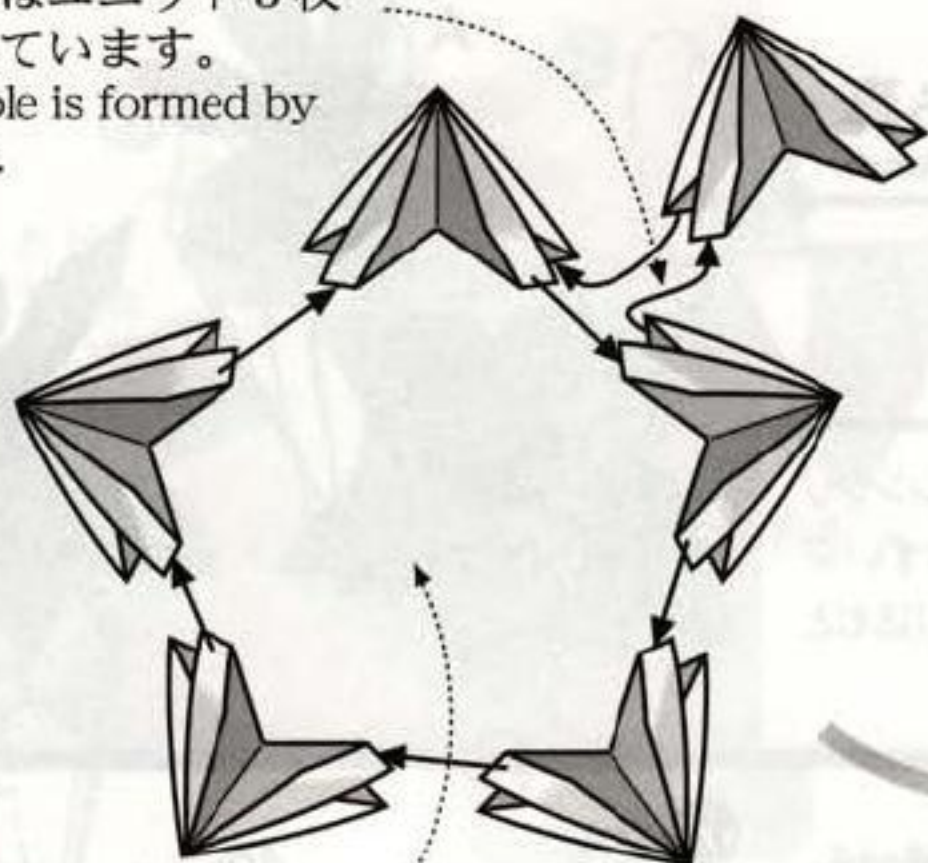


12 枚組
12 units

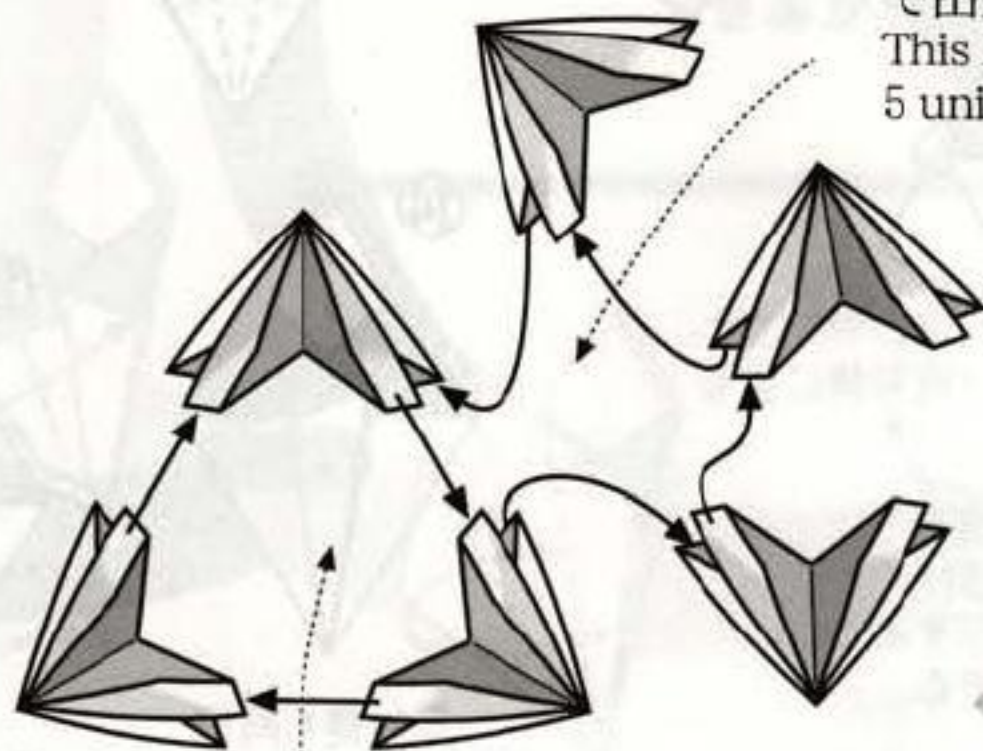


12 枚組
12 units

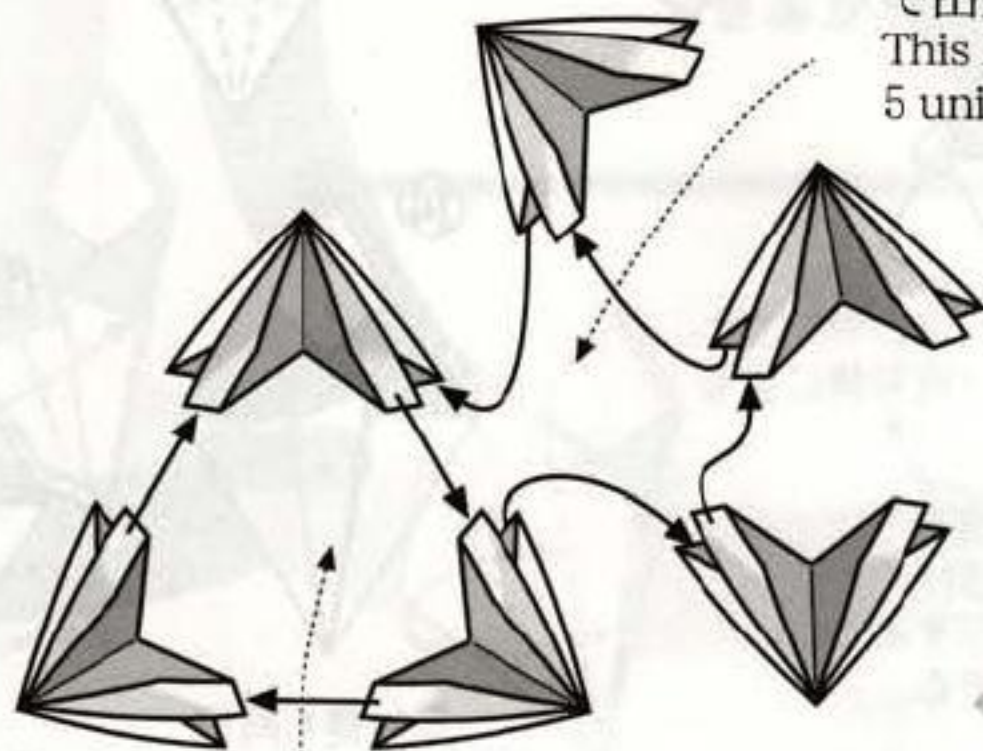
この穴はユニット 3 枚
で出来ています。
This hole is formed by
3 units.



この穴はユニット 5 枚
で出来ています。
This hole is formed by
5 units.



この穴はユニット 3 枚
で出来ています。
This hole is formed by
3 units.



この穴はユニット 5 枚
で出来ています。
This hole is formed by
5 units.



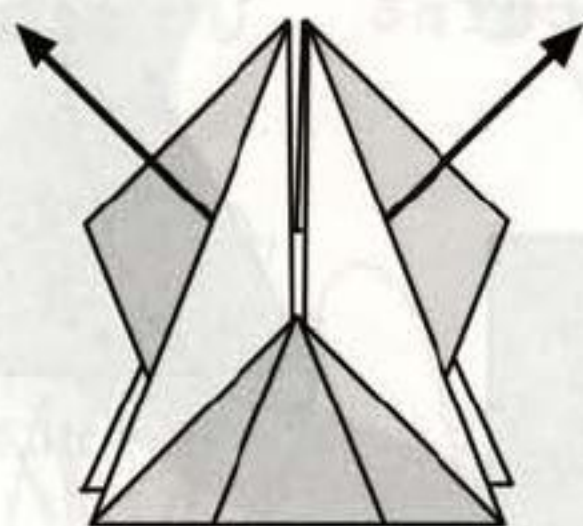
30 枚組
30 units



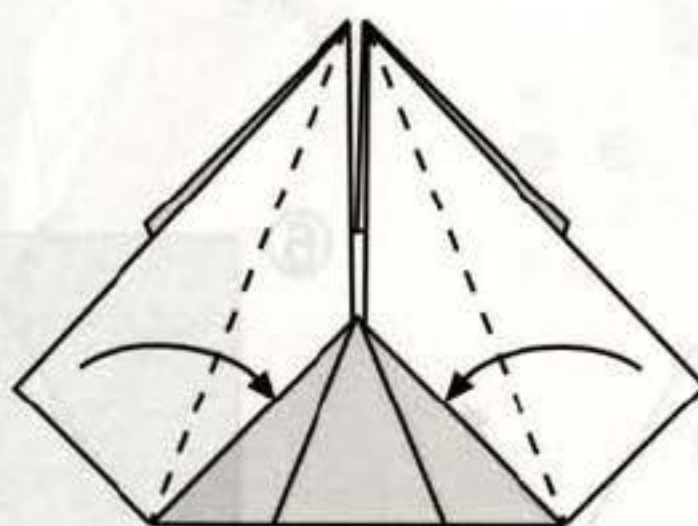
30 枚組
30 units



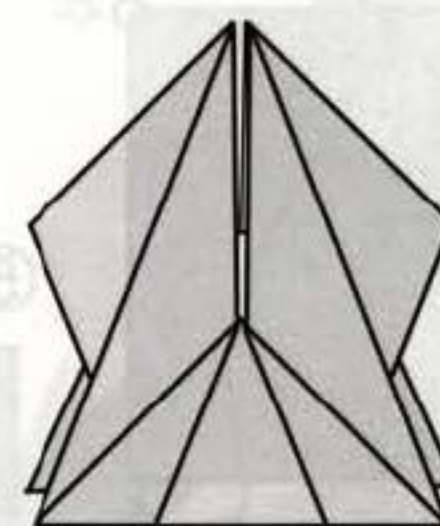
色変わり
Color variation



紙を引き出す。
Pull out the two flaps.



差し込む。
Tuck the flaps inside.



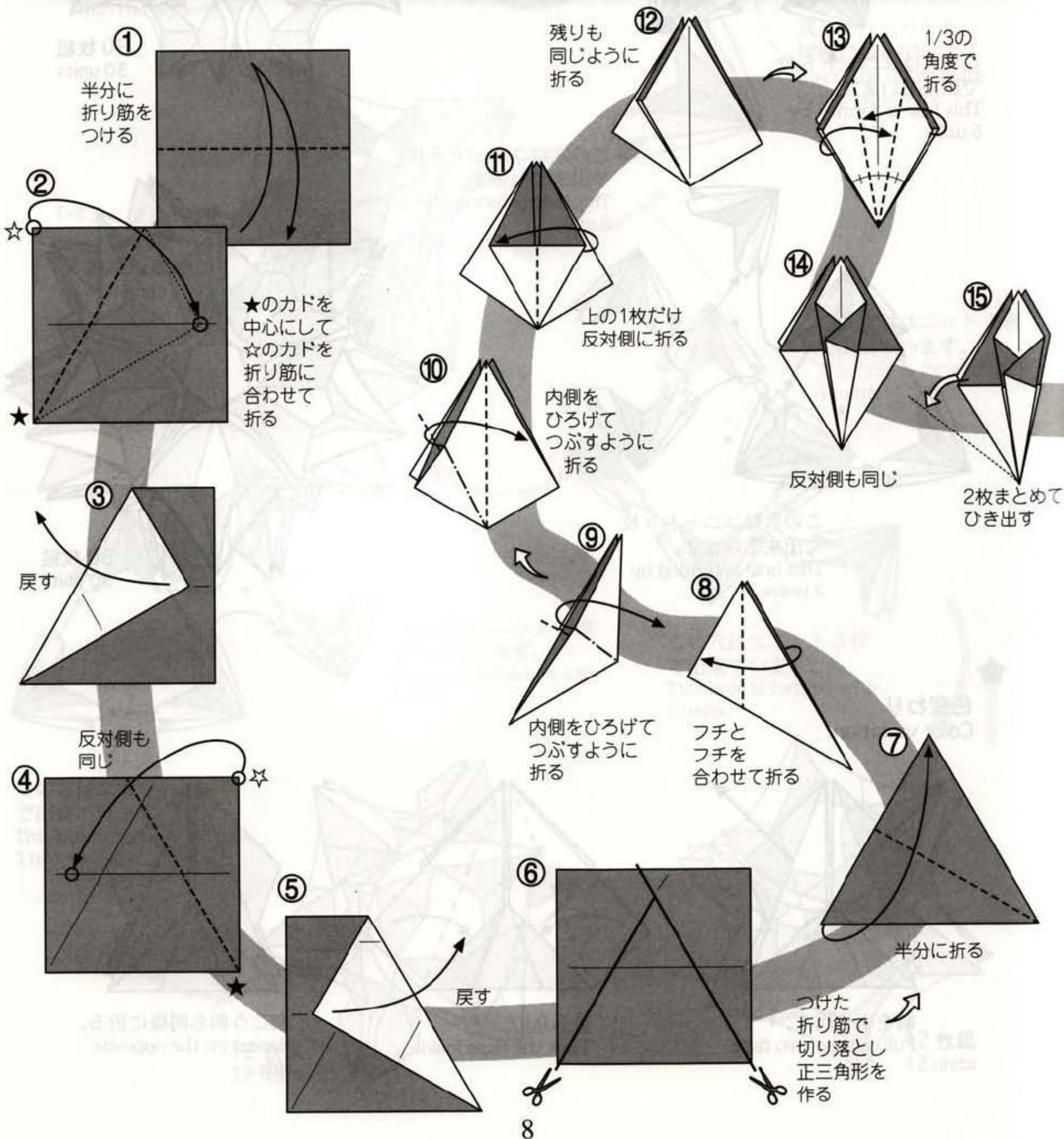
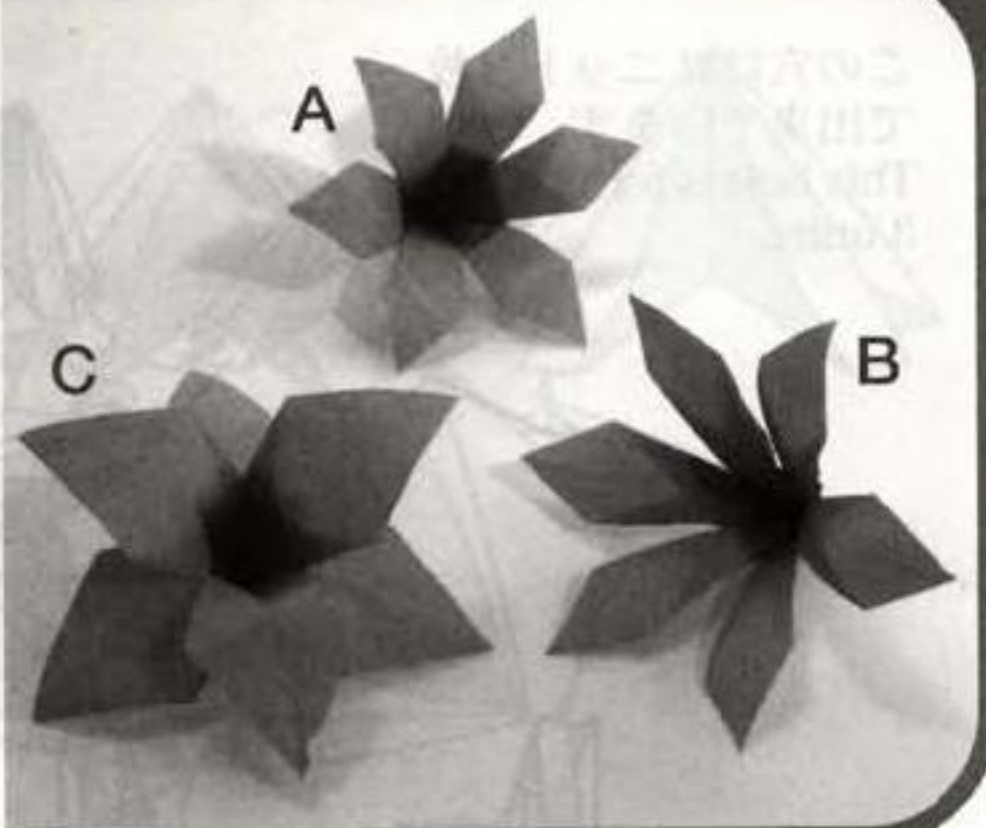
向こう側も同様に折る。
Repeat on the opposite
side.

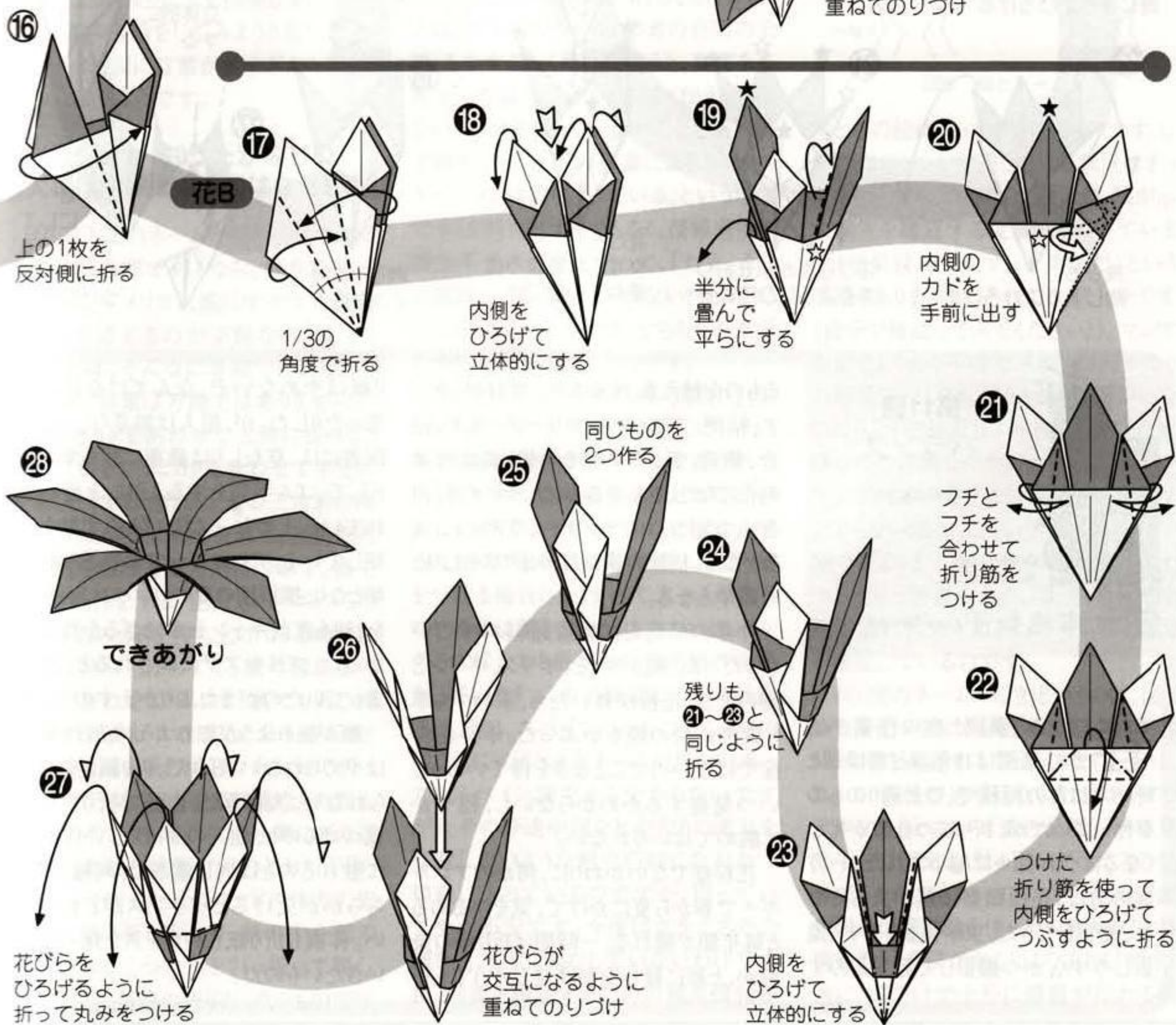
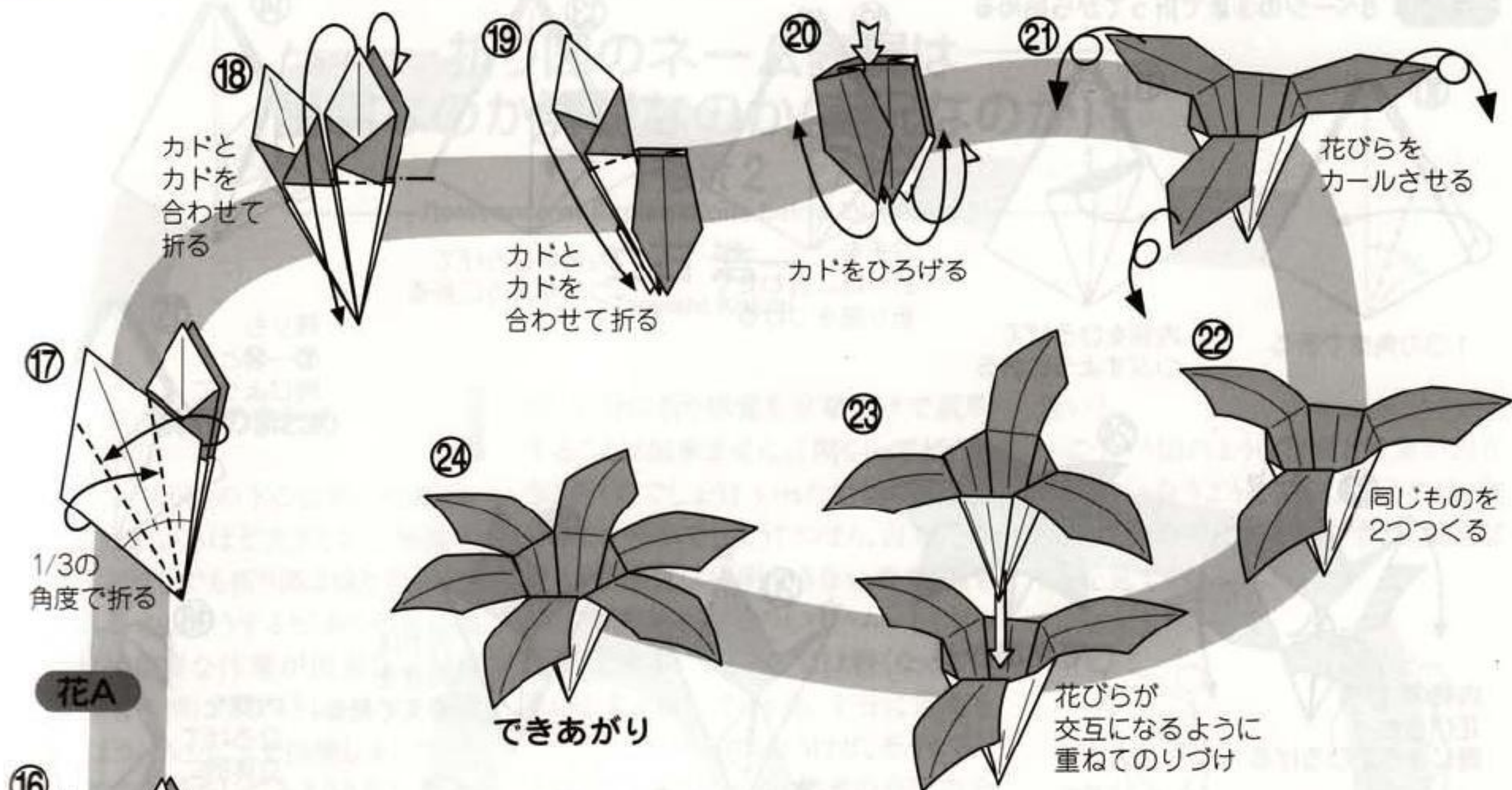
第13回

正三角形からの花A,B,C

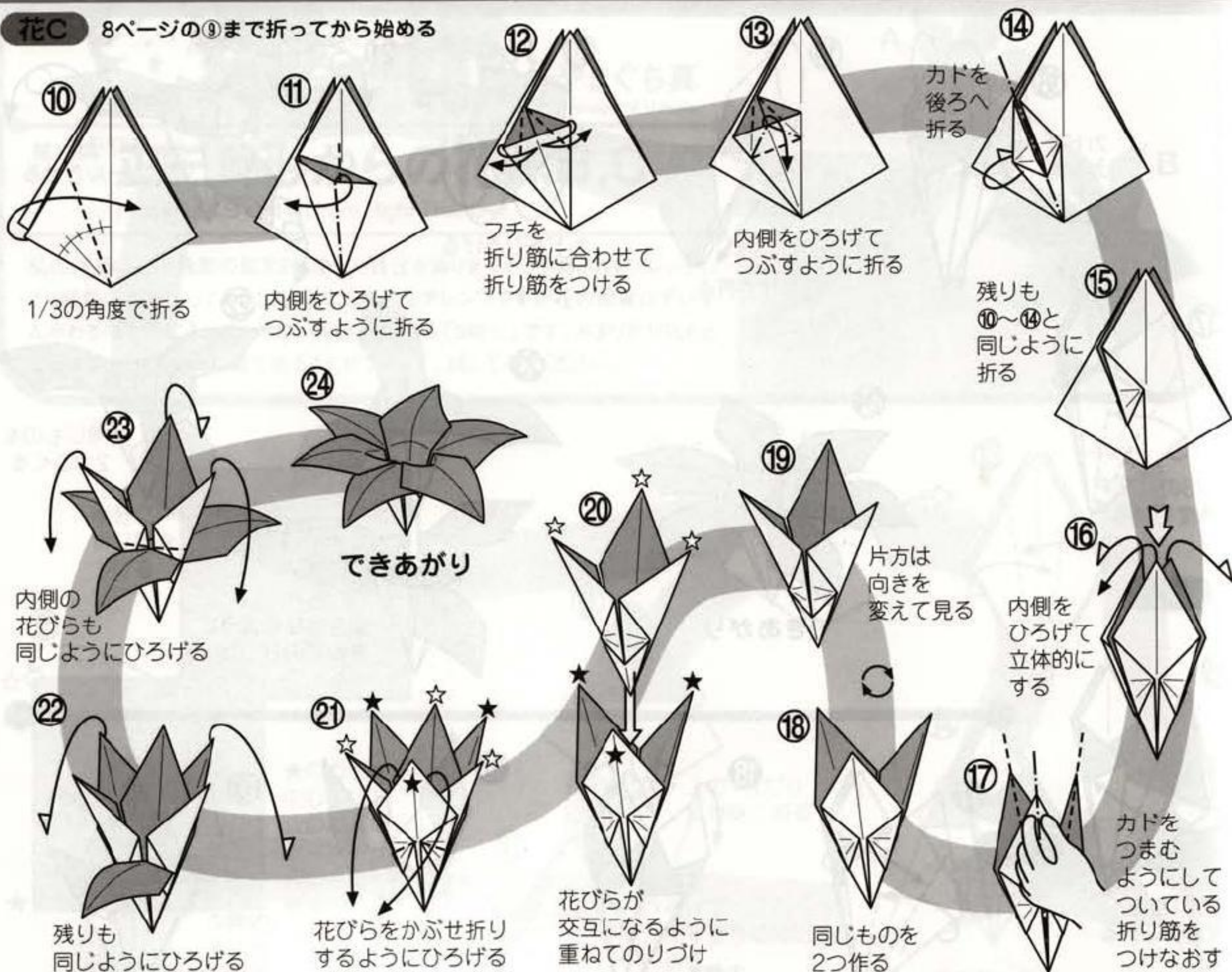
Flowers (A,B and C) from Right Triangles

私の作品に正三角形の紙を2枚使った百合がありますが、今回これをアレンジして3種類の花を作ってみました。とても単純なアレンジですが花の印象はずいぶんかわるので気に入っています。共通ポイントは「3等分」です。あまり折り込むところはないので、色々な紙で折ることができます。試してみてください。





花C 8ページの⑨まで折ってから始める



折り紙の
周辺

第11回
バランス

Balance

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

春になると菜園と庭の作業が始まる。菜園は15年ほど前は畑と呼べるほどの面積で、ひと通りのものを作っていたが、折り紙の仕事が忙しくなるにつれ徐々に縮小された。一方庭の方は、昆虫撮影に熱が入るにつれ、充実してきた。虫が集まりやすく撮影しやすく、かつ撮影して見栄えのす

るものを植える。すなわち、百日草、ダリア、桔梗、フロックス、マリーゴールド、百合、紫苑、菊、その他その他。虫は野菜の花にもたくさん来る。ニラ、チャイブ、パセリ、ゴボウ、コリアンダー、ラディッシュなどなど。植物の世話はつまり草むしりと競争となる。

今年の杉花粉は報道通りものすごいものだった。風が吹くと、ボワン、ボワンと煙のように花粉が舞いたち、家の中も車も黄色い粉の膜をかぶった。幸い花粉症ではないのでことなきを得ているが、いつ発症するかわからないし、穏やかに眺めてはられない。

花粉症でないかわりに、何かのアレルギーで春から夏にかけて、気をゆるめると毎年顔が腫れる。一時期は折り紙の染料か、と紙に疑いをかけ、もしそうでも折

り紙はやめないぞ、なんてけなげに思ったりした。が、犯人は雑草らしい。医者には、草むしりは嚴重に顔をガードして、ゴム手袋をするように、と言われている。しかし、しばしば知らず禁を犯している。アレルギーでお岩さんの顔となり、探偵団の夏のコンベンションを2回も直前キャンセルせざるを得なかった。ブヨやアブに刺されると、治まっていたのがまたぶりがえすのだ。

顔が腫れようが膨れようが、外作業はやめられない。好きだ。折り紙もやめられない。大好きだ。自分で折り方を見つけるのと、他人のすばらしい作品に触れるのとは同じ重さで、両輪。どちらかが欠けるとバランスがとれない。体調も折り紙もバランスを保っていきたいものだ。

折り図のネーム表現は 説明なのか解説なのか(実況なのか)?

Part 2

Relevance of Explanations below Diagrams 2

立石 浩一

Tateishi Koichi

前回のまとめ

前回は、折り図の下の説明の役割が、実は思っているほど大きくなく、極論すれば言葉無しでも折り図は成り立ってしまうこと、しかしそうすると「折り感覚の確認」という重要な作業が出来ないがゆえに、読者の側にフラストレーションを溜めてしまう、ということを指摘しました。今回は、逆の極論を試してみようと思います。つまり、折り図に言葉が多すぎたらどうなるか、ということです。

ラジオが、知ったかぶりの 大相撲中継をするのはなぜか?

もし折り図のネームが折り感覚の確認のために必要であるなら、前半で述べたように、アメリカ人風にすべての図にネームを添えるのが正解なのでしょう。実は、そんなに単純ではありません。まず、言葉は万能ではありません。

カドとカドをあわせて三角に折って、その三角をさらにカドを合わせて半分に折る。そうすると出来上がる三角形の縁のところの隙間に指を入れて、三角形の横の縁を広げて正方形につぶす。裏でも同じ操作をする。正方形のぺらぺらしている方のカドを持ち上げて、その時に一緒に持ち上がってくる横の縁を紙の中心に合わせてつぶす。裏でも同じ操作をする。真ん中で二又に分かれるカドの縁四箇所を紙の中心に合わせて折って、その二又のカドを紙の重なりの中を広げて、根元から反対側に折り返す。折り返した状態で元のとおりにならして、今折った二つのカドの片方の先端を内側に折り込んで、紙の中心部の表裏にある二つの角を引っ張って開く。というのは、折鶴の折り方(のつもり)です

が、十分に折り感覚を言葉だけで説明することは出来ません。「開く」ってどのように開くのでしょうか? いったいどの縁の話をしているのでしょうか? つまり、言葉だけでも折り感覚は説明できないのです。もし、これが神谷さんの「バハムート」だったら、文庫本一冊くらいには軽くなってしまうですね? そりゃあ、十分に言葉を尽くしたら出来るでしょうけど、そうすると人は、グライスという哲学者の会話の公理(ものすごく簡単に言うと、真実を必要十分な量だけ分かりやすく伝え、関係ないことは話さない、ということを暗黙の了解として、人間の言葉によるコミュニケーションは成り立っている、という理論です)を持ち出すまでもなく、情報過多で消化不良の感覚に陥って、「ねえ、その黒板に、図、描いてくれない?」ということになります。言葉と図、どちらも不十分だから、両方が必要なのです。

ラングさんの『折紙図鑑・昆虫II』(おりがみはうす)を日本語に訳していたときは、先にラングさんの英語で書かれた折り図があつて、それを私は日本語に翻訳したわけですが、どんなに図から明白な折りでも(例えば対角線上に折り筋をつける場合とか)すべてネームが入っているのに驚きました。このために、ラングさんはかなり厳密な折紙用語の定義をしています。これの問題については後ほど。逆に、スペインのシルゴさんの折り図などにはほとんどネームが無くて(あってもスペイン語だから分からないですが)、その分途中図などが折りの流れを邪魔しないような形で巧妙になおかつ精緻に入っているのですが、折っていてやや不安です。今度はグライスの公理を逆方向で満たしていないわけですね(情報を確認するための補足情報が

無い)。

こういう図のような視覚と言葉がお互いに補い合うような関係というのは、実は結構世の中にあるんですね。例えば図5を見てください。

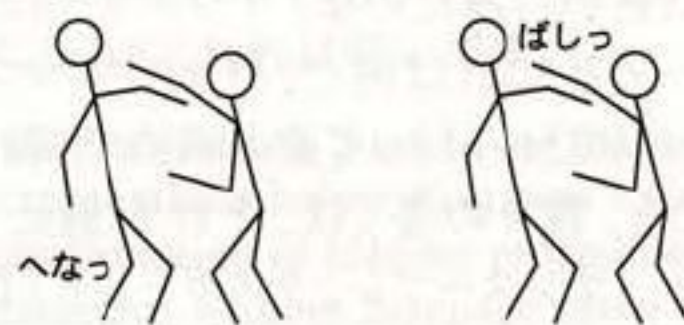


図5 絵とネーム

左と右の絵はまったく同一のものです。しかし、この2つが記述している状況はまったく違います。この場合、擬音が、絵が示す状況を確認する役割を果たしています(効果線(ああ、マンガ用語だ)という手段もありますが、それでは不十分です(自分で確認してみてください))。マンガなどでよくある手段ですね。また、かなりの相撲ファンでも、「ひっかけ」と「かいなひねり」と「内無双」と「外無双」のような地味な技の区別なんか付かない人の方が圧倒的に多いですね(旭鷲山の大ファンでもない限り)。こういう技は、本当に一瞬で決まりますから、我々は、実況のアナウンサーと解説の方の、「ああ、これは襷取り(あれ?)ですねえ。」の一言で、状況を確認しているのです。

折り図のネームの役割というのは、図という視覚メディアが提示している(らしい)情報を確認することなのです。それによって、情報が過不足なく満たされ、グライスが言うところの「量の公理」(情報量は十分に与えよ;私や別にグライスの信者でもなんでもありませんけど、他の言語表現の情報理論を使っても同様のことは言えます)を満たすことになるわけです。逆に、図だけで十分に情報が伝わる場

折り図のネーム表現は

説明なのか解説なのか(実況なのか)? Part 2

Relevance of Explanations below Diagrams 2

立石 浩一

Tateishi Koichi

合は、ネームは必要ありません。

「おーっと、神谷、ミウラ折りだぁ!」
「違うよ、あれは蛇腹折りだよ。」

でも、プロレスか何かの実況で、古館さん(古い!)みたいなアナウンサーに、「おーっと、これは何だ、バックドロップホールドだぁー!」って迫力満点で言われたら、我々の多くは、それが例え、「ジャーマンスープレックスホールド」でも、「バックドロップホールド」だって思いますよね? ここに、情報を補足する言葉、ネームの落とし穴があるのです。言葉による情報は、図と違って(図でもあります)、かなり微妙な間違いをすることがあるのです。そして、言葉による説明は、記号よりも説得力があって、人々に「思い込み」を引き起こします。例えば、図6のような折り図があった時

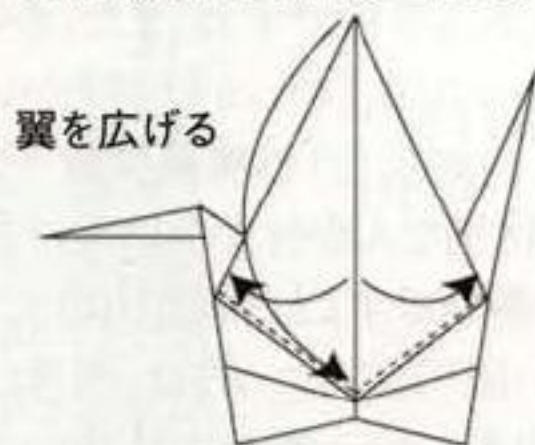


図6 あいまいではないのに
間違いやすい折り図

「翼を広げる」の一言を先に見たがために普通に折鶴を完成させてしまう人は少なくないと思います。この場合は、言葉による思い込みを無くすために、「翼の真ん中の縁を開いてつぶすように折る」とするか、あるいはいっそもネームが無い方が誤解を招かないですむわけですね(同じ意味で下向きの矢印もいらない)。その通りのことを言葉で二重三重に表現したために余分な誤解を招く。これは、同じ情報なので、二回目・三

回目はもう情報の伝達に関係が無い(グライスの「関連性の公理」の違反)に起こります。普通に会話している時でも、「念を押す」と、「しつこく繰り返す」の境界線の判断って、難しいですよ?

『神谷哲史作品集』(おりがみはうす)の英語化をする際にも、それに似た例がありましたので、最後にご紹介したいと思います。具体的には、図7の四種類の折り工程の表現の仕方に関わることです。

これらは、一般的に我々が「段折り」と呼んでいる折り方のバリエーションですが(右下のような折りの一種は、よく「二回中割り折り」と呼ばれますが、個人的にはこの用語も使うべきではないと思っています。折り工程として「二回」あるものを一つの図で表現するべきではないでしょうし、言葉自体も非常にあいまいだと思っからです)、神谷さんの本の中で、これらの折りに対して私は、実線の矢印のような訳をつけていました。つまり、pleatとcrimpの違いは、折り目の端がつながっているかないかである、ということです。ところが、作業を進めていく間に、Robert J. Lang『Origami Design Secrets: Mathematical Methods for an Ancient Art』(A.K. Peters)の巻末の折紙用語集の中で、これとは違う定義、つまり図7の点線の

矢印のような定義がなされていることを小松英夫さんにご指摘いただきました。つまり、ラングさんの定義では、pleatとcrimpの違いは、両面をまとめて折るか、それとも逆向きに折るか、ということだったのです(ラングさんの本にはまさにこのような定義のみ書かれています)。正直なところ、かなりの違和感を覚えました。私が定めた基準はいろいろな海外の折り図を見た末の経験則だったので、事実と違うぞ、という感じを持ちました。例えば、David Brillさんの『Brilliant Origami』(Japan Publications)には、いわゆる段折り(図7の左側)はあまりなく、図7の右側の折りが多用されているのですが、片面のものも両面のものもcrimpになってますし、「Crimp on either side.」(両側で段折り)と、わざわざ書かれていることから、crimpという用語に「両側を逆向きに」とか、「両側で」という概念が無いことは明白です。

そこで、この二つの単語について、『Oxford English Dictionary』、『Webster Unabridged Dictionary』などの権威ある大辞典を使い、調べてみました。それぞれの単語は、複数の意味を持っているので、単純に比較できるものではありませんが、大体表3のようなものです(pleat, crimpとよく似た折りの用語で、

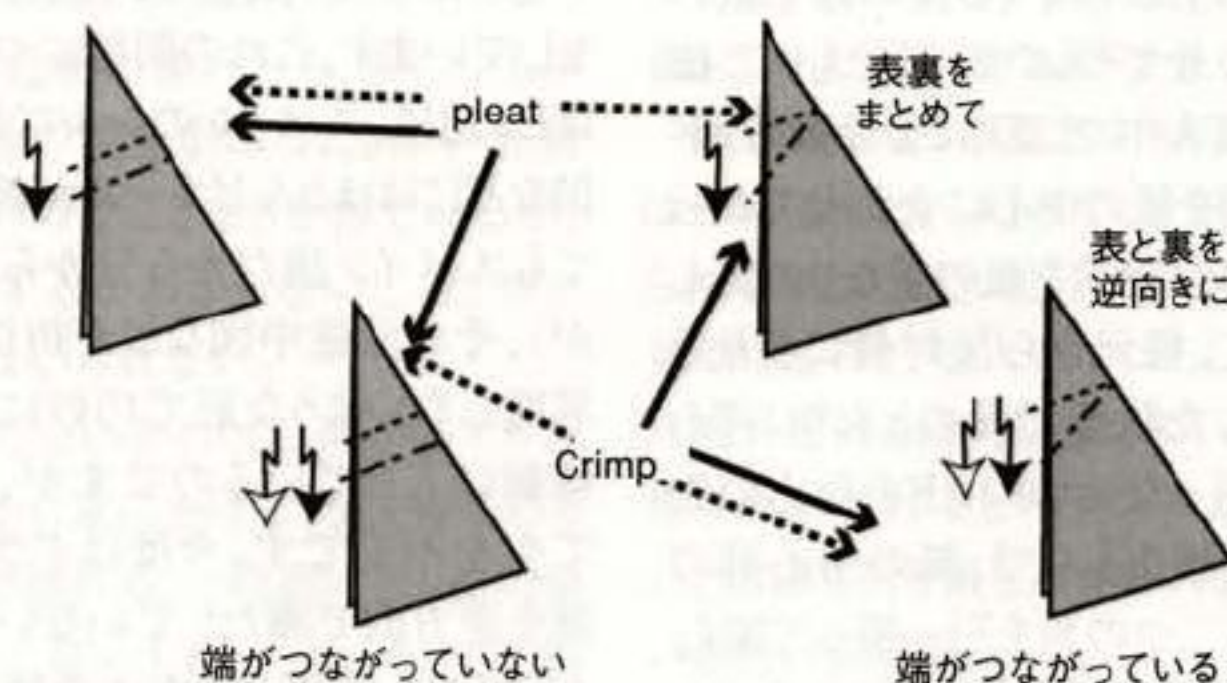


図7 段折りのいろいろ

立石浩一(たていし・こういち)＝新宿生まれ千葉育ちで神戸市在住。某お嬢様学校の英文科の教師(専門は言語学らしい)をしつつ、折紙本を英語にしたり、最初の意図とは明らかに異なるウェブページを管理したり、歌ったりの日々。Tulip、中島みゆきファン歴30年。折紙探偵団関西友の会運営事務担当使い走り。



wrinkleというのがありますので、それもついでに見てみました)。

pleat
意図的な折りの存在、反復された規則性、pleatには3つの布・紙の層が重なり合って存在する
crimp
しわ・ひだによる曲がり、髪の毛の曲がり、トタン板の波型、ペンキの缶などにある波上のしわ・ひだ
wrinkle
滑らかな表面を縮めたり、くしゃくしゃにしたときのしわ

表3 「段折り」の基本的意味

つまり、pleatには反復性、層が重なっている感じが必要である、が、crimpというのは別に層が重なっている必要は無く、あるものを形作るときに必要な成形である、ということのようです。最後にwrinkleは単なる成形ではなくて、縮れさせる必要があることになります。これは神谷さんの「ウィザード」のひげと顔の造形、北條高史さんの「弥勒菩薩」(『第4回折紙探偵団コンベンション折り図集』)の手の造形などに使える用語かもしれません(北條さんのはwrinkleとcrimpの間の微妙なところかな?)。

この定義は、私の基準とは適合します。図7の左側の段折りは、折りの紙の層が終始重なり合っている、pleatと言うことが出来ます。しかし、右側の折りは紙の重なりそのものより、それによって出来る新しい形に重点があるので、crimpである、ということです。ラングさんの定義にある、片側か両側か、というのは、この二つの用語の区別にはあまり関連性が無いことになります。

それでは、ラングさんの定義は、どこから来るのでしょうか? crimpというのは、

折紙作品の形作りにおいて、特に動物などの作品の胴体、首、足の微妙な角度調整などで使われることが多いです。完成された作品は、結果として表裏対称であることが多いので、片側で山折りのひだは、裏側から見ても山折りでなければいけないことが非常に多いのです。そのことから来る経験則として、片側性対両側性という規則付けがされたのではないかと推測されます。しかし、しつこく繰り返しますが、これはpleat/crimpという単語のもともとの意味とはかなり異なっています。

もちろん、こういうものには「正解」というものは無く、折り図を描いていらっしゃる方はそれぞれの方の基準で図やネームを使っている方が多いです。それはそれでいいのですが、極度に元の意味とかけ離れた用語の設定(「メタ言語化」といいます)は、かの有名な「E電」(覚えてます?)や、最近では「南セントレア市」のように忘れ去られるか、でなければ、「折り紙ってのは面白そうなんだけど、何だか難しいねえ。」(専門用語化が過ぎて、情報が伝わらない)ということになってしまう危険性があります(それでいい人はいいいんですけど)。

おわりに

二回にわたって、いろいろ書いてきましたが、この文章では、折り図を読む人の側の視点からの情報伝達としての折り図論を中心とし、いわゆる「折り図職人」を想定した書き方はしていません。ここに書かれていることの多くは、折り図描きのベテランにとってはすでに解決済みの問題である場合が多いです。そういう方の折り図には、伝達不能なんてこ

とはめったにありません(でも、たまにあるから世の中面白いんですけど)。しかし、老若男女初心者から大ベテランまでいろいろな方が折り図を描き、読んでいる現実の中で、「分かりやすい折り図」を目指す上での一助、あるいは反面教師になってくれれば幸いです。

In part I, it was pointed out that verbal explanations below diagrams exist for confirmation of folding procedures, so diagrams without language often make us insecure.

However, language is not omnipotent, either. Verbal explanations of folding procedures of a crane, for example, perhaps do not make sense for many of us. This is because language in its nature bears too much information the most amount of which is only redundant. In Figure 5, the different uses of onomatopoeia in the two pictures give us completely different interpretations. Visual and aural information pieces complement each other which together satisfies something like Grice's conversational axioms ("Give enough, true, relevant and explicit information pieces, and do nothing more").

Language sometimes obstruct understanding. For example, in Figure 6, the verbal instruction "Open wings." may make us complete an ordinary origami crane. Language sometimes ignores ordinary social conventions. Robert J. Lang's *Origami Design Secrets* gives the definitions of the terms *crimp* and *pleat* in its glossary, which perhaps is based on the author's conventional uses of the terms and corresponding techniques. However, the definitions therein do not match the original meanings of the words. This leaves us with a problem of how much technical terms (meta language expressions) can be detached from our ordinary uses of language. The risk is that such uses of the terms may make the world of origami remote from ordinary to-be-folders.

Afternoon Origami

第1回 イスラエル日記 Israel Diary

ポールの誘惑 「スペシャルゲストになってくれ」

私の古い友人であるポール・ジャクソンが5年ほど前にイスラエルに引っ越して以来、彼は何度も、イスラエルに彼と妻のミリ・ゴランを訪ねるようにと連絡してきました。彼は最後の切り札としてこう挑発してきました。「デイブ、加瀬三郎さんや布施知子さんがイスラエルに来られるのに、あなたが来られないわけがないだろう？ ガラリヤ湖畔の休暇村キブツでコンベンションをやるから、スペシャルゲストになってくれ。」これには負けました。

ポールの誘惑は続きます。

「テルアビブの画廊であなたの作品の展覧会をしようと思っている。なにか大がかりなことをやってくれ。幾何学的なものか、抽象的なものもいい。動物とか普通の折り紙では、イスラエルの業界人には低俗と思われるからね。」「あなたの折り図集も作ろう。題名は Dave Brill Selected Models 1997-2004 だ。」(この本はイスラエル折り紙センターから購入できます。連絡先は origami@netvision.net.il です。) 出発する前の3ヶ月間、ほとんどずっと折り続けて、出発の前夜にさまざまなユニットを平らにして(折り畳み折り紙?) スーツケースに詰め込みました。ところが荷物の重さが 20キロもオーバーしてしまったので、取り出してまた初めからやり直しました。

私の日記からの抜粋

3月10日(木)

到着した途端、ミリが私のぎゅうぎゅう詰めのスケジュールを詳しく話してくれた。イスラエル折り紙センターの有名な「イスラエルとパレスチナの子供たちのためのエルサレム平和プロジェクト」で折り紙を教え、彼女の養護学校でも教え、先生たちの会議でも教え、その上にコンベンションがあって、個展の準備をして観光もする。これは忙しくなるぞ! 午後には、個展の会場となるコンスタントギャラリーを訪れる。台座や展示用具には白いものを選んだ。



▲展示の準備

3月12日(土)

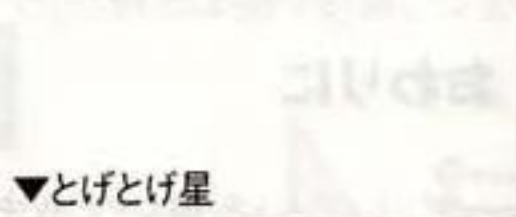
夕方、テルアビブはラマトガンのコンスタントギャラリーで個展のオープニング。来場者は 100 人ぐらい。



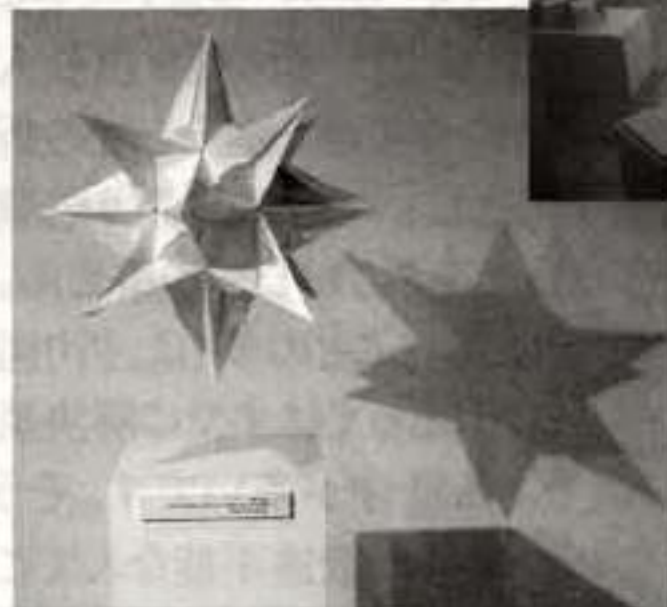
▲敷石ユニット



▲敷石インスタレーション



▼とげとげ星

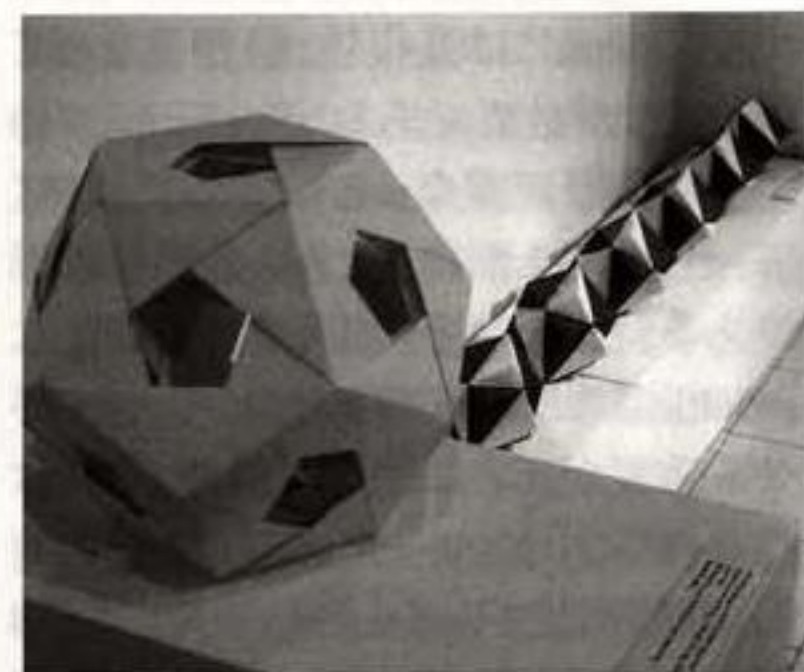


3月13日(日)

午前中、ミリと一緒にプロシム特別学校で教える。ここの生徒たちは何らかの学習障害を抱えているのだが、ミリが何年も定期的に折り紙を教えている。私は十数人の子供のクラス2つと、全校生徒にも教えた! 私には、彼らが聡明でごく普通の生徒に思えた。



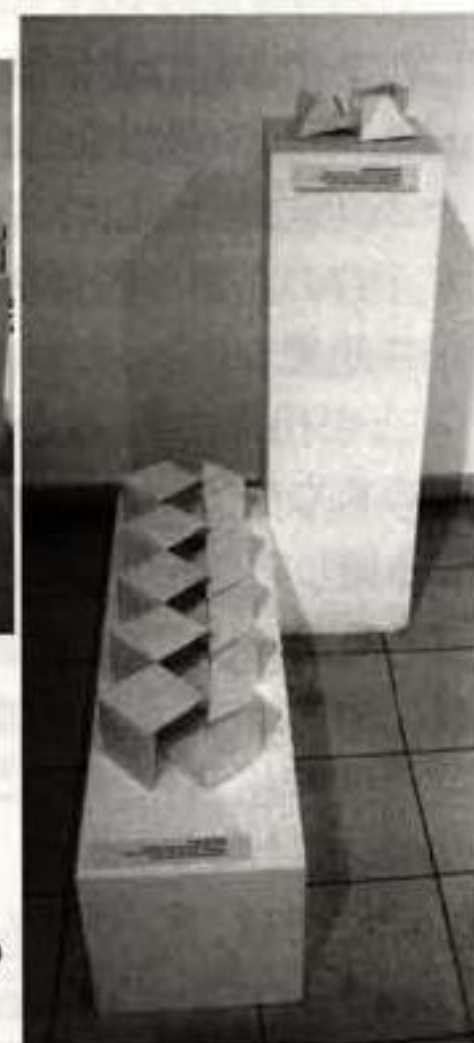
▲プロシム校の子供たちの前のミリと筆者



▲正十二面体とダブル・キューブ



▲展示ほぼ完成



▶連続する半分の立方体

○David Brill(デビッド・ブリル)=イギリスを代表する折り紙作家の1人。1975年よりBritish Origami Societyの活動に積極的に参加、代表も務めた。折り紙以外の趣味は油絵。



▲死海でウェットフォールディング(?)を楽しむ筆者

3月14日(月)

ミリとジョナサン(編注:ポール・ジャクソン氏子息)と私でエルサレム観光。吉澤章氏が亡くなったという知らせを聞いて、とても悲しかった。

「一緒に折ろう平和プロジェクト」でポールが加わる。吉澤氏の思い出と、愉快的イスラエルとパレスチナの子供たち。正反対の背景を持った子供たちが、その違いを忘れて折り紙で一緒に作業したり遊んだりしているのを見ていると、二重に感動する。何も知らない人には、彼らは普通の幸せな子供たちのように見えるはずだ。吉澤氏が見たら、きっと喜んだだろう。

3月17日(木)

ポールとミリの友人であるエリ・ランクマン氏に会いに、ハイファに向かう。彼は吉澤氏と親交があり、吉澤氏オリジナル作品のコレクションを見せてもらった。

その後ガレリア湖のクネレットに行き、コンベンションの準備をする。夕方にガレリアに向かう道はすばらしかった。そこそこに聖書ゆかりの地がある。



▲ガレリア湖からティベリアスを望む



▲半分の立方体ユニットを教える筆者

3月18日(金)

展示の準備をしながら折り紙を楽しむ。サアディアのマスク作品が印象的だ。昼食の後、コンベンションのオープニング。おなじみの、私が大好きな雰囲気。みんな、新作の折り紙を習ったり、古い友人や新しい友人と会ったりして、盛り上がって楽しそうに熱中している。それに周りの景色が最高!

ポールが吉澤氏について語り、彼のオリジナル作品を見せた。みんなで吉澤氏の蝶を折る。私の教室では「妖精」を教えた。

夜のパフォーマンスは、
・チームが輪になって羽ばたく鳥を折る。
・足折り。とても楽しかった。



▲一緒に折ろう: 吉澤氏の蝶



▶吉澤氏の猿を見せるジャクソン氏

3月19日(土)

マスクの講習で始まり(ちょっと大変だった!）、それからぶらぶらする(こっちは簡単)。コンベンションの閉会。



3月20日(日)

▲マスクの講習

昼にポール、ミリ、ジョナサンと車で死海に出かける。日没ごろエンゲディに到着。湖のはるか向こうにヨルダンの桃色の山。ここで去年のイスラエルコンベンションが行われ、ミリはまたここでイベントができないかどうか支配人と相談。

3月21日(月)

エルサレムに戻って平和プロジェクトを再訪。子供たちとマスクを折る。

3月23日(水)

帰りの飛行機に乗り込む。とても疲れたが楽しい旅だった。子供たちとの平和プロジェクトは特に素晴らしかった。

エリ・ランクマン氏はカリスマ的な人でした。吉澤氏とのつながりが一段と深くなったように感じます。

個展も大成功でした。たくさんの作品を折らなければならないというのは、私にとって刺激になりました。ポール、ミリ、ジョナサンとイスラエルの新しい友人たちにとっても感謝しています。また行きますよ!

▼サアディア・ステルンベルク氏のマスク作品



おりがみ庵

Origami-An's Quest for Origami Archives

第13回

Okamura Masao
岡村昌夫

飛び込み

色刷り展開図(その1) Color-Painted Crease Patterns (1)

偶然の重なり

日本人形玩具学会に有難い友人がいて、多忙な身にもかかわらず、いつも骨董市に出かけては発掘した折り紙資料を提供してくれているのだが、今回の珍品はネットオークションで競り落としたという。3月の中頃のことであった。箱入りの色刷り展開図で、折り上げた完成品も含まれている(本誌読者に競り負けた人がいたらご一報を)。

上の資料は次回に紹介する予定だが、「モモタロウ ヲリガミ」(第6集)という箱の文字を見て、昭和2、3年のころに使った覚えがあると証言してくれた人がある。内容は違うが、その10数年後に私が使ったのも、同じ形式のものであった。

ところで、この「モモタロウ ヲリガミ」を入手してから10日後のこと、東京のある古書店の豪華目録に似た様な箱入りの折り紙が写真付きで掲載されているのを発見して驚いた。即座に電話をして飛んで行ったのは言うまでもない。偶然は時に重なるものである。

値段が高価過ぎると思いつつも、この「立体折紙」箱入り39枚を購入したのは、これこそまさに私が幼少期に遊んだ覚えのある商品だという懐かしさからであった。実は、内容的にはほぼ変わらない戦後版のセット(袋入り)を先年高木智氏から頂戴していたので、その戦前版という程度の新資料に過ぎなかったのである。しかし2種揃ったことには意味があったと言えるだろう。

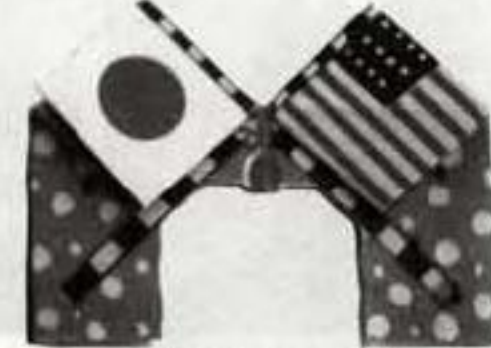
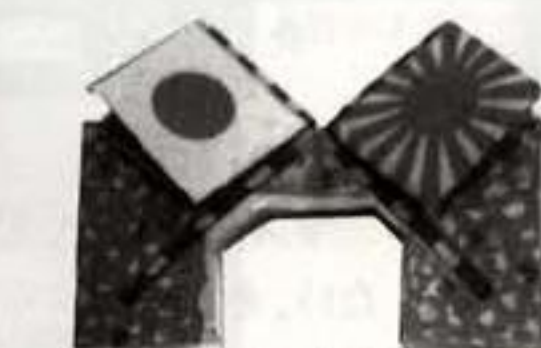
今回はこの最新入手の箱入り戦前版と、

袋入り戦後版について紹介することにした。

戦前版と戦後版

戦前版は箱に「チエノ立体折紙」「手工材料」「オリカタ図入」「実用新案」と書かれ、少女が折る横で弟らしい少年が見ているという、少女中心の古典的な図柄である。

戦後版の袋の表には「立体おりがみ遊び」「おりかた図入」、裏に「Rittai ORIGAMI Asobi」「新案特許出願中」「日本教育品玩具研究所」とあり、絵は男女同権の世になったという印象で、少年は少女と同格に描かれているが、折っているのは依然少女だけで、少年は「見る役」にとどまっている。しかし内容は、少女の好みというより少年の興味対象(例えば「お化け」「蛙」「鳥」「飛行機」など)が多いことに注意したい。このことは、いわゆる伝承折り紙全体に共通する事実なのであるが。



戦後版の「AAL」と胴に書いた飛行機が、戦前版には含まれていない。消耗してしまったのかも知れないので、元から入っていなかったと断定はできないが、ただ私の記憶では無かったように思われる。

両版とも、各用紙の裏面に解説図が印刷されているが、戦前版はカタカナで旧仮名遣い(誤り多し)、右横書きで、戦後版は、ひらがな、左横書きである。

日本的伝承折り紙

まず戦前版の内容を列記してみよう。順不同であるが、折鶴の基本形、または正方基本形、もしくはそれに準じるものとしては「ツル」「オバケ」「ユウビンフ」「カワズ(蛙)」「カラス」「カゴ」「ツバメ」「サンボ(三方)」「キツネ」「タビビト」「アーチ」の11種、ザブトン折りから始める「フクスケ」「ミ」「ボート」の3種、カンノン折りが「イエ」の1種、その他「カメ」「ジバン」の2種で、計17種である(上記「ボート」は実質的にはカンノン系)。

戦後版は「おばけ」「ゆうびんふ」「からす」「さんほ」「きつね」「あーち」「み」「いえ」が共通で「ひこうき」が加わり、計9種となる。

ほぼ標準的な伝承折り紙である(「アーチ」「ツバメ」などは新作に入るか? 「ひこうき」は異質)。

「立体折り紙」と銘打ってはいるが、「ふくすけ」や「ゆうびんふ」「たびびと」などを入

○岡村昌夫(おかむら・まさお)＝1934年
東京生まれ。都立高校の国語教師を11
年前に定年退職。折り紙以外の主な趣
味は能・歌舞伎を観ること。

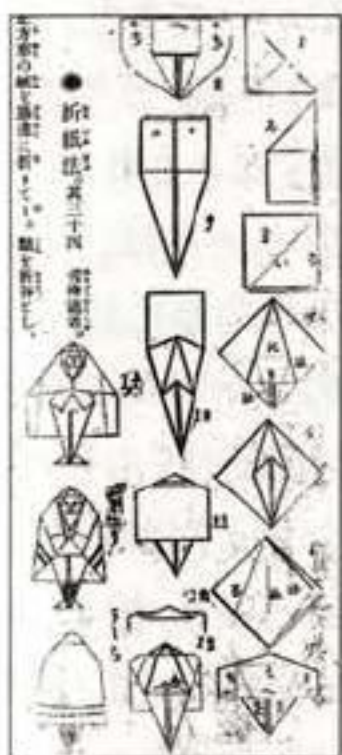


れているのだから、もっとほかにもある筈なのに、明治初期に輸入されたヨーロッパ系の、例えば「だまし船」「かざぐるま」「風船」「奴ばかま」「ちょうちんお化け」などの名作が含まれていないのは面白い事実であろう。正方基本形系を多く採ったからというだけでは説明しにくいと思う。ともかくも、明治以来の、幼稚園や小学校の折り紙のカリキュラムとは異質の作品選択である。

いくつかの作品について記しておこう。「ユウビンフ」は明治時代の新作の代表的名作だ。もともと、もとは顔の部分に切り込みを入れて丸い笠をかぶせていた。ここでは昭和風に帽子になっている。「タビビト」は明治初期には「雪降道者(ゆきふりどうしゃ)」と呼ばれていた。雪の降る中を旅する巡礼者などに見立てたものである



▲「タビビト」を折ったもの



▲明治28年「小国民」2号
赤ゲット姿の雪降道者

が、明治後期には「赤ゲット」と呼ばれるようになった。当時の「おのほりさん」が赤いブランケットを防寒具にして旅行したことからの呼び名である。侮蔑的な意味合いがあるのを避けて「旅人」と改称し



▲寛政6年(1794)山東京伝「絵兄弟」より 合羽姿の雪降道者

たのであろうが、彩色は「赤毛布」をそのまま残している。「アーチ」は大正以後の新作だろう。戦前版では大日本帝国時代の日章旗と軍艦旗だが、戦後版では日の丸と星条旗を並べて、日米親善を謳歌している。時局につれて変化する折り紙の例である。「フクスケ」は一種の「からくり」で、「扇子」「お多福」「三番叟」から「福助」に変化させている。折り手順の途中で遊ぶわけである。「み(箕)」は、元来穀物のカラなどを取り除くための農具だが、ここではお多福面を取り付け、裏に「福」と書いて縁起ものの飾りにしている。これと同じ形の図が明治11年のお茶の水幼稚園教材集「幼稚園恩物図形」に載っているが、題名が無いので何に見立てたものか判らない。「いえ」とともにもとはヨーロッパ系と思われる作品である。それにしても両者とも見事な日本化と言えよう。

異質な色刷り展開図

江戸時代後期、文化時代ごろから盛んに展開図に着色した(モノクロの場合も)印刷物が売り出されている。「かや草」に記録されたような豪華な多色刷りもあり、その一部は両面刷りされていた可能性もあるほど発達していた。山谷の折りの違

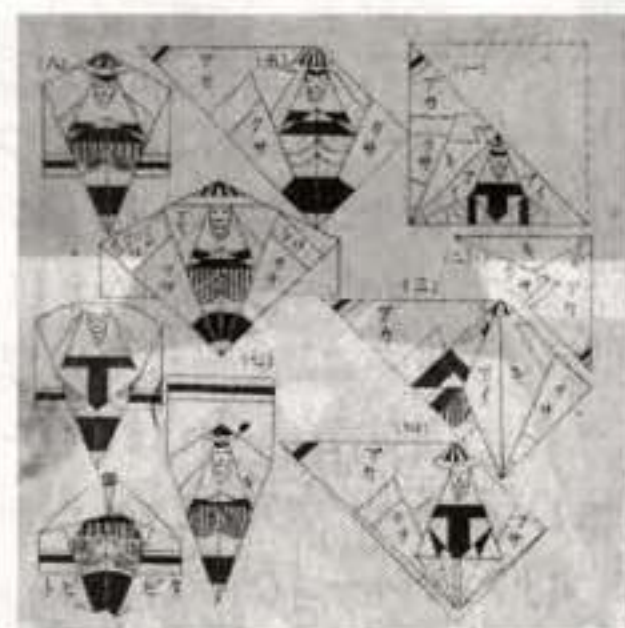
いを線種で区別したり、折り順を数字で示し、山谷の違いを鏡文字で表すような工夫もなされていた(『折るころ』参照)。

これらは、説明や数字、記号などが、完成したときには内部に隠れてしまうようになっているが、自分で彩色する手間を省くためというよりも、未発達だった折り図を補うための折り方伝授の方法としての意味が大きかった。

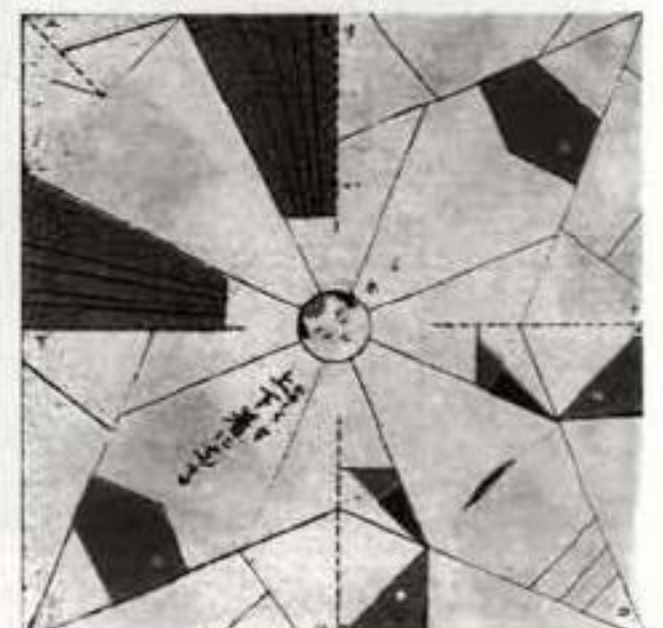
明治末年以後に、内山光弘が盛んに同種の展開図を出版したが、初期のものには山谷の区別もなく、江戸以来の工夫が受け継がれていなかった。内山はすぐに実用新案の登録をしたので、その後同種の商品の販売は困難になったものと思われる。

ここで紹介したものは、従来の展開図のように、折り線を中心に描き、表面に出る部分にだけ着色するという方法を取らずに、面を中心にして、隠れてしまう部分にも着色している点が変わっている。新案たるゆえんであろう。

説明の折り図は極めて素朴なもので、「アカ」「キ」「クサ」「アイ」などの隠れる部分の色がどこに来るかという図によって折り手順を示している。中には折り方を知らないで理解困難と思われるものもある。幼少時代の私の場合は「タビビト」がどうしても折れなかった。



▲「タビビト」用紙裏面の説明



▲内山光弘の展開図

第1回

三つの教会

Three Churches

"Paper Church" by BAN Shigeru in Kobe

After the terrible earthquake, an architect and thousand volunteers built a community hall at the site of crushed church. It called "Paper Church" because it was made of paper tubes.

"St. Mary's Cathedral" by TANGE Kenzo in Tokyo

This cathedral have the surface of hyperbolic paraboloid that isn't a developable surface, but is approximated by a concentric square crease pattern.

"Ohura Church" in Nagasaki

This is the oldest church in Japan. I found crease patterns of bird bases on stained glasses.

相も変わらず折紙散歩

Doing Origami Sampo
as (For) ever

へーパーアーキテクトという言葉がある。「建築学には飽キテクチャ」という語呂合わせがあったなあ、てなもんで、アーキテクトは建築家のこと、すなわち、ペーパーアーキテクトというのは、紙の建築家ということだ。ただし、ここでペーパーの意味するところは設計図である。じっさいに建てられた建築物を持たない建築家、とくに奇抜なデザインをひねり出す建築家を、いくぶん冷やかし気味に評する言葉、それがペーパーアーキテクトである。

建築物は、ふつう、実用に供するものである。使われてなんぼである。しかし、その一方で、それはアートでもある。つまり、何の役にたつかわからないという側面も持っている。ものごとには優先順位というものがあり、また、公的機関には説明責任というものがあるので、赤字で困っている自治体が勝手に凝りまくった巨大建造物をつくりました、となると、批判されるのは当然で、先日もTVでそうした建築物がやり玉にあがっていた。しかし、その批判での、凝った意匠を指して言う「何の役にたつのか」という言葉それ自体には大きな疑問もある。役にたたなきゃいけないのか。

じっさい、「何の役にたつのか」というのは、きわめて難しい質問だ。いわく「数学なんか勉強して何の役にたつのか」「天文学は何の役にたつのか」これには、「ほとんど役にはたちません、それ自体に価値があると思っていますだけです」としか答えようがない。ファラデーが初め

て電磁誘導の法則を発表したときの最初の質問も同じだったと言われている。ファラデーはこう答えたという。「あなたは生まれたばかりの子供に、何の役にたつのかと聞くのか」 いまとなつては電磁誘導の法則は、数々の技術の基本になっているわけだが、科学や数学の理論でも、実際上は何の役にもたらず、これからはうちそうもないものは多い。いわんやアートにたいして実用性を期待するのは、八百屋で魚を注文するようなものである。というわけで、ペーパーアーキテクトは、役にたつたないの彼岸にいる建築家だとも言える。アーティストとしてのアーキテクト、夢想郷に住む建築家である。

話が『折紙散歩』からずれており、役にたたないことを弁護する主張になっているが、今回は、じつは、みごとに役にたつた「ペーパーアーキテクト」の話なのである。しかも、ある種の極限状態において。ただし、ここでのペーパーは設計図のことではない。文字通りの紙のことである。神戸市長田区にある鷹取教会・コミュニティーホール。通称「紙の教会」。今回の主役はこれだ。このホールは紙によってつくられている。斬新なコンセプトと、強い作家性の主張。しかし、どこか控え目で、社会とともにあることを忘れない思想の背景を持った建築。それは、ペーパーアーキテチャーではない「ペーパーアーキテチャー」なのである。

この教会の存在は以前から気になっ



紙の教会(神戸市)の内部
Inside of "Paper Church" (Kobe)

ていて、同じ設計者による渋谷区大山町にある「紙の家」も見たことがあるが、紙の教会の実物を見たのは今回が初めてだった。建造から10年、もともと仮設として建てられたこのホールが近く解体されると聞いて、見にいってきた。

神戸市長田区と10年という年数、極限状態といった表現でピンと来たひともいるだろう。そう、このホールは、阪神淡路大震災で焦土となった地に建てられたものである。復興のシンボルのひとつでもある。設計者は坂茂(ばんしげる)氏。資金と建築ボランティアはすべて彼が集めたものであるという。彼は、そういった活動を含めた全体として、建築というものをとらえているようだ。

さて、このホールがなぜ紙の教会と言



神戸市長田区の大国公園にて

前川 淳 Maekawa Jun

われるのか。それは、構造材のほとんどが紙管によって構成されているからである。紙管、つまり、トイレットペーパーの芯のごときものである。外側に半透明の波板のサッシがあるが、全体を支えているのは紙管の列柱である。楕円の天蓋には膜が使われ、ワイヤーで持ち上げられている。折り紙観察的には、この中央の膜構造部分のほうが折り紙らしいとも言える。しかし、この建築の特徴は、なんと言っても、構造を支えているのが正真正銘の紙であるということだ。

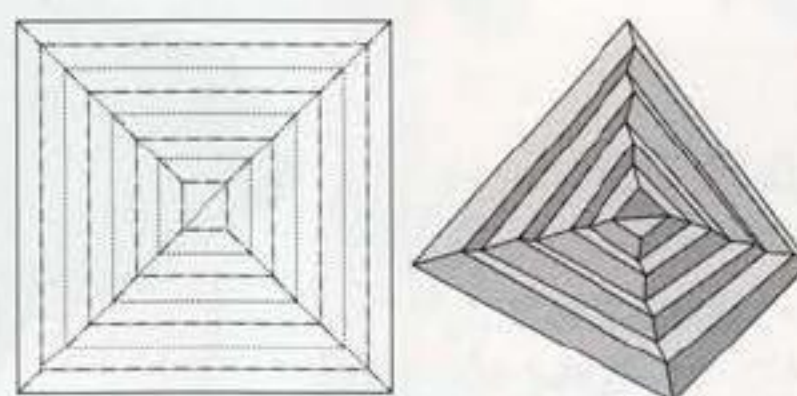
日本の伝統建築を揶揄して、紙と木でできた家と称することがある。もろい家ということだ。例の、グリム童話「三匹の子豚」(藁、木、レンガの家)なども、そうした考えをすり込むお話である。だが、じっさいの木造建築は脆弱ではない。法隆寺などの古建築がその例である。そして、紙管の建築も弱くはない。坂氏は「紙は進化した木である」とも宣言している。前述のように、紙の教会は近く解体されるということだが、それは、もともと仮設として建てられたためであり、劣化のためではないと聞く。じっさい、わたしが見てきたときも、傷みはほとんど感じられなかった。

案外丈夫であるということの他にも、紙管の利点は多い。まず軽いこと。このホールがボランティアの人力によって建てることができたのも、この特徴による。コストも低い。再生紙を使うのでエコロジカルでもある。紙の家は、21世紀の家なのかもしれないのだ。

教 会と言え、折り紙的な建築として、文京区関口にある、丹下健三氏設計の東京カテドラル聖マリア大聖堂にも触れておきたい。鷹取教会・コミュニティーホールとはきわめて対照的だが、有無を言わせない存在感を持った名建築である。双曲放物面を大胆に使った構造が見るものを圧倒する。双曲放物面というのは、直線の軌跡だけで表すことができる曲面だが、それ自身は折り畳むこと(平面に変形させる)ことはできない。しかし、正方形の折り紙に山谷で同心状に折り目をつけていくと、双曲放物面の近似曲面がきわめて自然に現れることが、よく知られている。折り紙的な曲面なのである。



東京カテドラル聖マリア大聖堂
St. Mary's Cathedral (Tokyo)



折り紙でつくる双曲放物面
Hyperbolic paraboloid by origami

もうひとつ、日本最古の教会にも、折り紙関連物件があるということを報告しておこう。日本最古の教会。長崎市の大浦天主堂である。その正面、マリア像の上にあるステンドグラスのパターン、これが、まぎれもなく折鶴の基本形なのである。わたしは、そこに美しい22.5度の分割線を発見したとき、なんだか折り紙も祝福されているようで、小さく快哉をあげた。

以上、紙の教会を中心に、三つの教会の話をした。以前も、イギリスのゴシックの大聖堂に折鶴の基本形のパターンを見たことを報告した。教会は、案外折り紙と相性がよいらしい。まあ、「カミの家」というぐらいなので…。と、やっぱりこの駄洒落を使ってしまった。



大浦天主堂の折鶴の基本形
Bird bases of Ohura Church (Nagasaki)

■ 昨日はあの花が、今日はあの虫が、そして道路からたちのぼる熱気。さまざまなものが文字通り、次から次へと湧き出してくる季節になりました。折り紙のアイデアも、次から次へと浮かんで…くればいいなあ。



「ペア・ブレード／6枚組み(赤)、12枚組み(青、黄)、30枚組み(緑・紫)」

作：川村みゆき(P.4)

PAIR BLADE (6 sheets (Red), 12 sheets (blue, yellow), 30 sheets (green, violet))
Kawamura Miyuki (P.4)

多面体の辺の印象を強調し、面の部分を大きくあけた構造となっていて、内部構成までも同時に鑑賞できる作品です。写真の作例では、インサイドアウトによる金属的なラインがシャープに出現。近未来から届いた宅配便のような、ちょっとSFっぽい雰囲気となっています。



「正三角形からの花によるコサージュ」 作：やまぐち真(P.8)

Corsage with Flowers from Right Triangles :
Yamaguchi Makoto (P.8)

一瞬、「折り紙ではあり得ない」と思ってしまうほどの軽快なデザインは、正三角形用紙の2枚複合から導き出されています。気軽に大量生産でき、たまってきたら束ねてみたくなる。大事にストックしておいた、とっておきの紙を使うのはここですよ!

「黒出目金」 作：ロナルド・コウ
Blackmoor Goldfish: Ronald Koh

金魚特有の量感を強くイメージさせる立体加工が魅力的。非常にユーモラスで、かつ臆病そうな雰囲気まで表現され、的確な技術力を感じさせる仕上がりとなっています。





「コウモリ」 作：宮島 登 (P.34)
Bat : Miyajima Noboru (P.34)

変則的な角度構成を極力避け、「折り紙」であることの意味を前面に強く打ち出す宮島作品。各部に必要な十分な情報量を確実に配置するバランス感覚は、技術の大きな余裕があって初めて実現するものだと思います。ワルそうな表情ながらもどこか抜けていて憎めない、絵本に登場するコウモリのようなキャラクター性までも感じられます。

「色刷り展開図」 岡村昌夫・蔵 (P.16)
Color-Painted Crease Patterns
(from Okamura Masao Archives) (P.16)

以下、岡村氏による解説です。

そのまま折れるようになっている商品を仮に「色刷り展開図」と名付けたが、江戸時代(文化期)から各種あったものと違って、この写真のような、線ではなく面を重視し、隠れてしまう部分にも色付けした形式のものは大正時代から販売されていた。ここに掲載した資料は昭和初期のもので、同じ内容の戦後版も出ている。

昭和初期版の
パッケージ



「サンボ」



「ツバメ」



「ミ」



「フクスケ」



ゴールデン・レトリバー Golden Retriever

神谷哲史

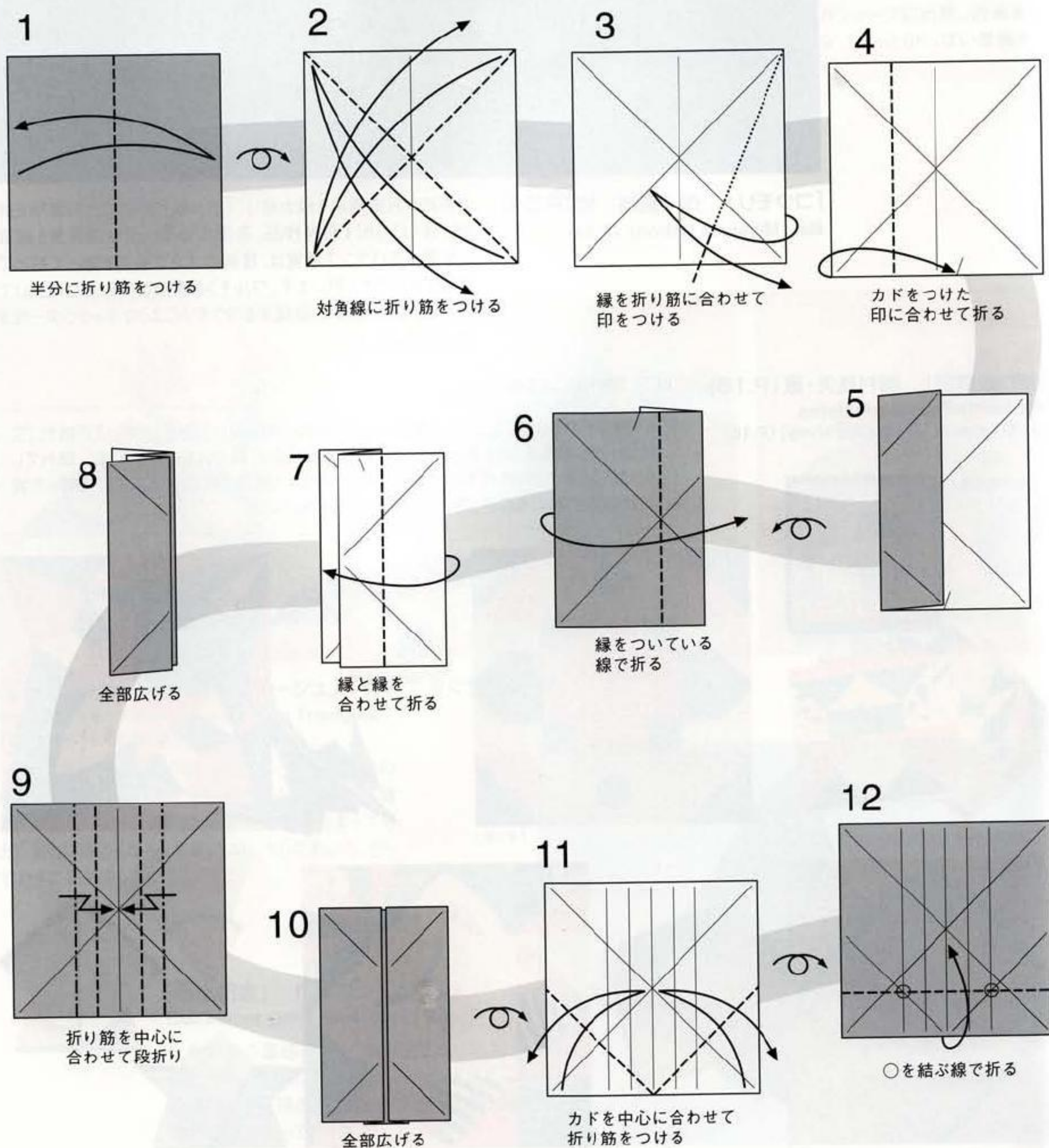
Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

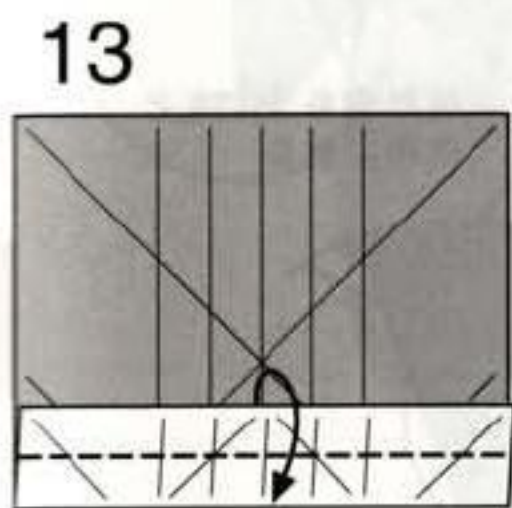
作 2004/09/xx

図 2005/05/xx

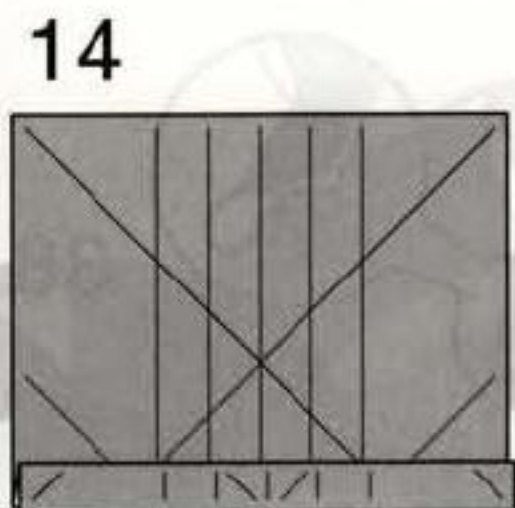
昨年のTVチャンピオンで創ったイヌです。実はこの時、事前にイヌを折らなければいけない事は知らされていませんでした。初めの3種はある程度準備が出来ていたのですが、今回の折り図の2種はほぼ完全に即興で創ったものです。ただ、なぜか即興で創ったものの方が完成度が高い……なぜだろう。

全てのイヌは今回の折り図の基本形の比率を変えて創りました。かなり自由度が高い基本形なので、興味のある方は他の種類にも挑戦してみてください。

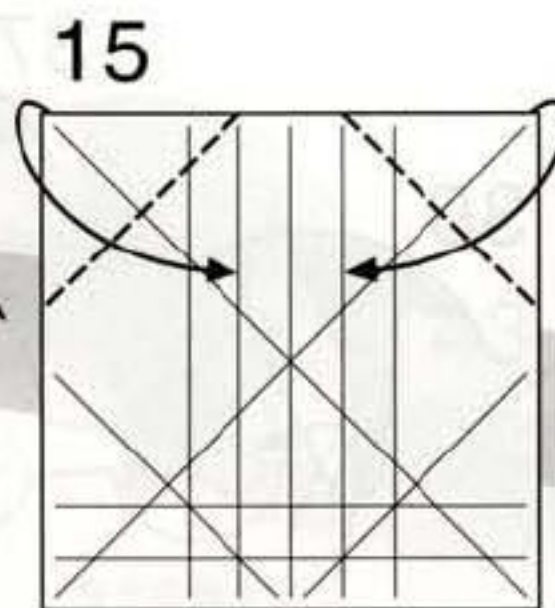




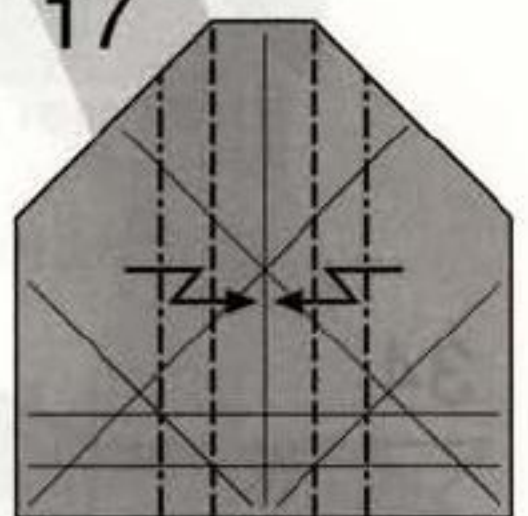
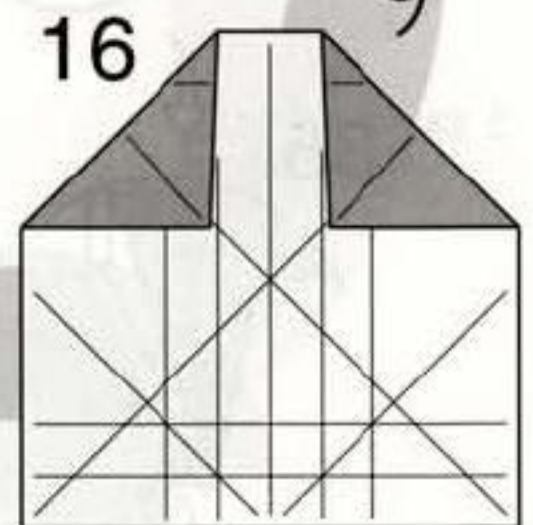
縁と縁を
合わせて折る



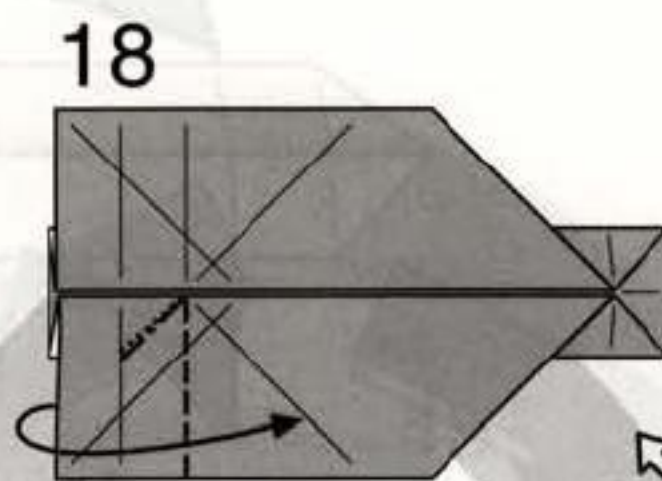
全部広げる



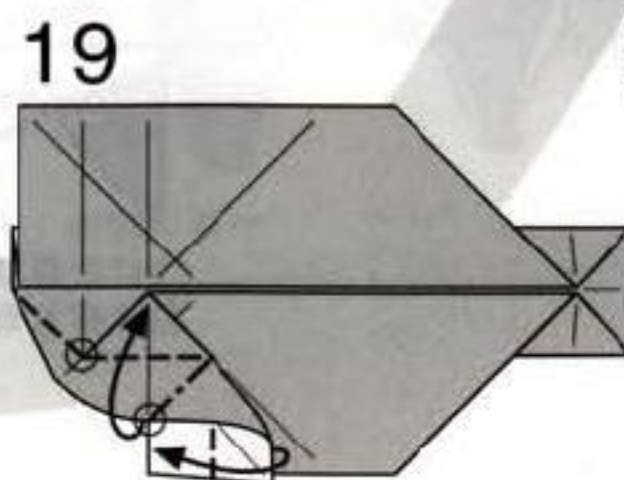
縁を折り筋に
合わせて折る



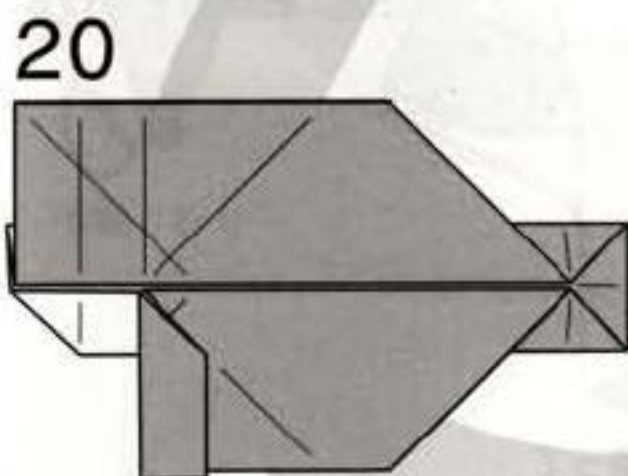
ついている折り筋の
ところで段折り



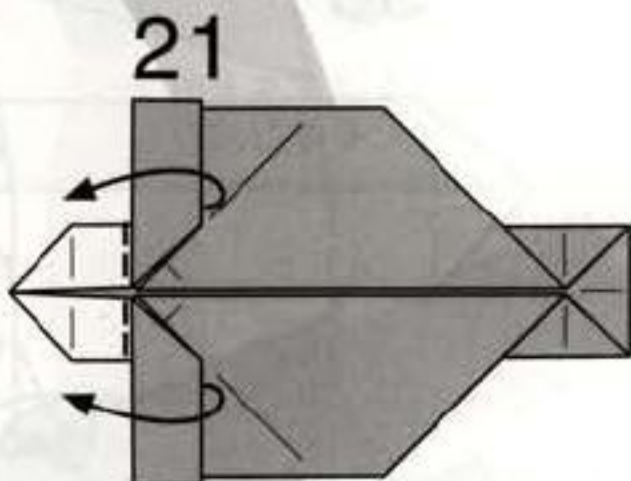
内側を広げて
次の図の○を基準に
つぶすように折る



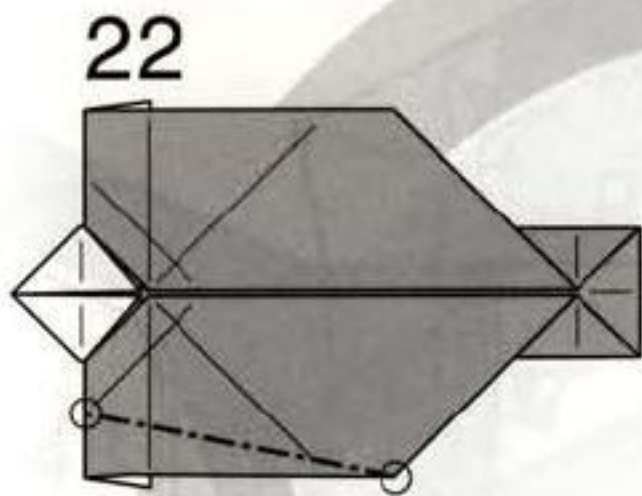
ついている折り筋を使って
折り畳む



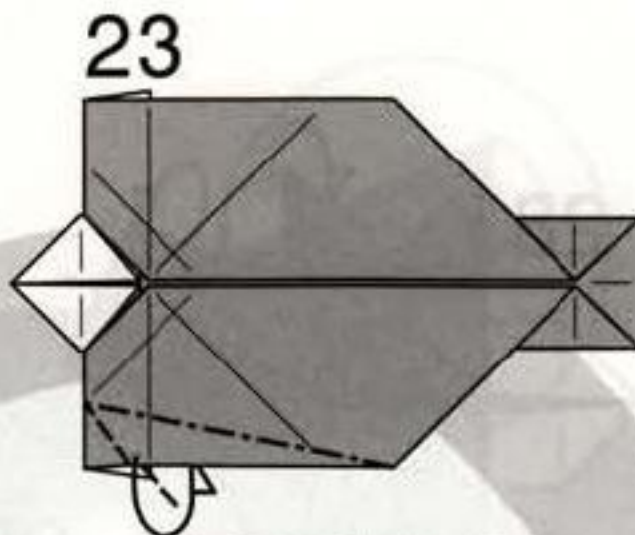
反対側も 18-19 と
同様に折る



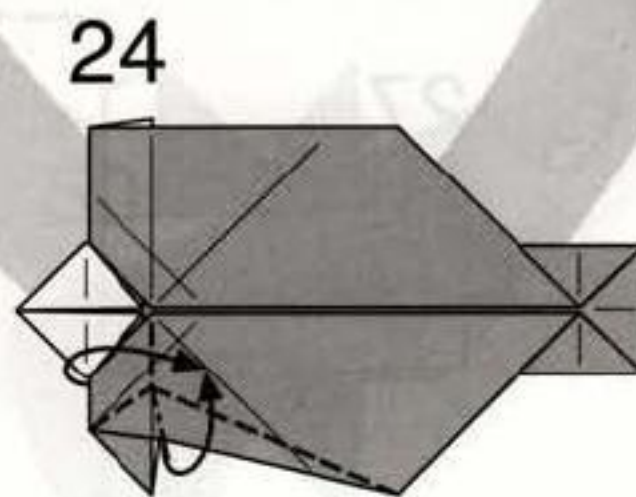
縁を反対側に折る



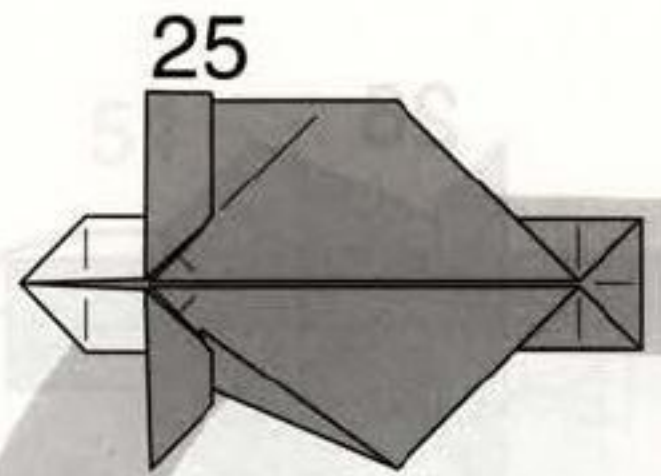
○を結ぶ線で
折り筋をつける



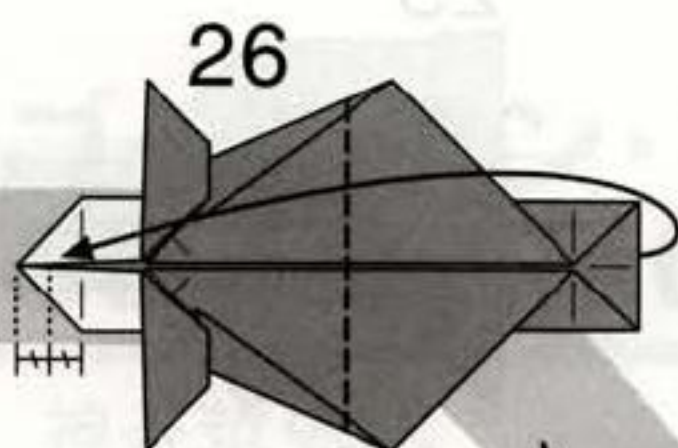
つけた折り筋を使って
縁を後ろへ折り込む



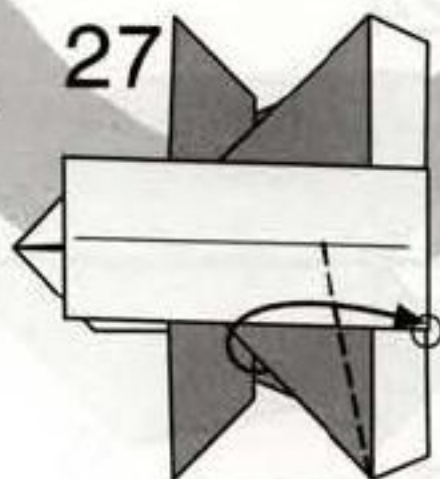
縁を後ろの縁の
ところで折りながら
つまむように折る



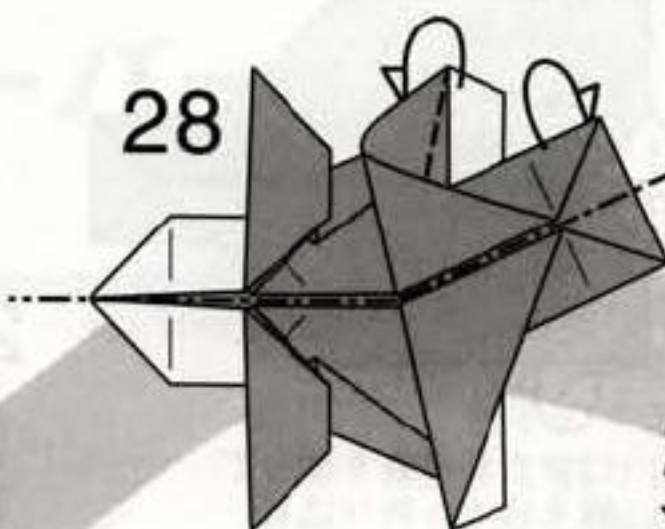
反対側も 22-24 と
同様に折る



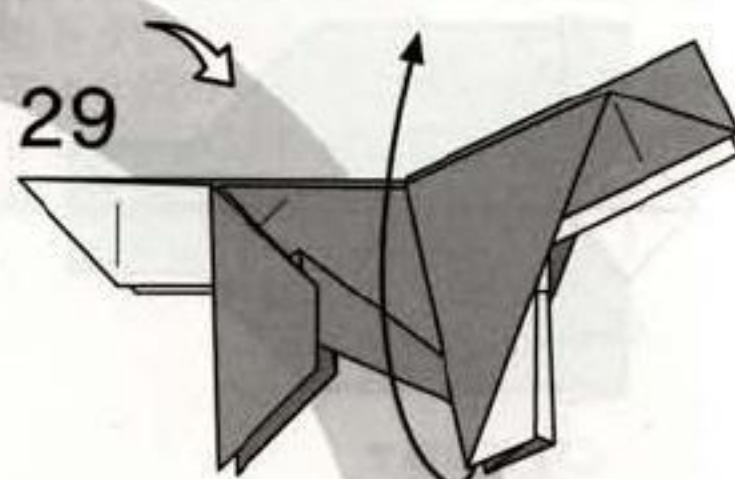
26
カドと折り筋の
まん中に合わせて
左へ折る



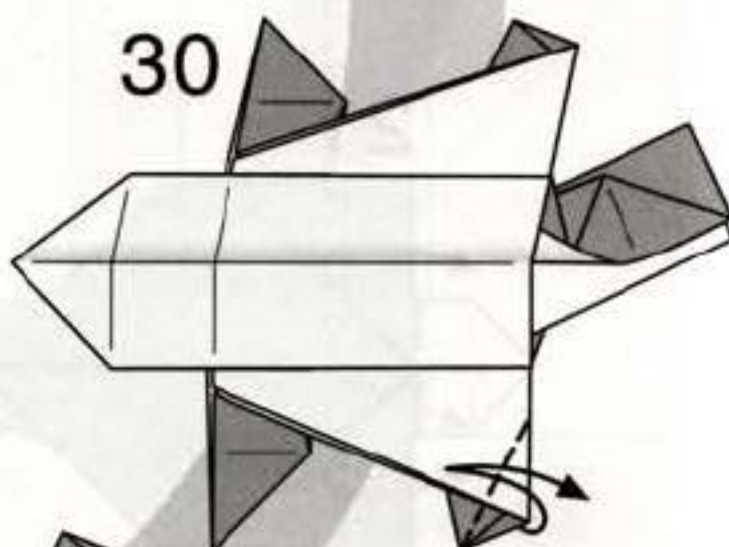
27
縁を○に合わせて
中心のところまで折る



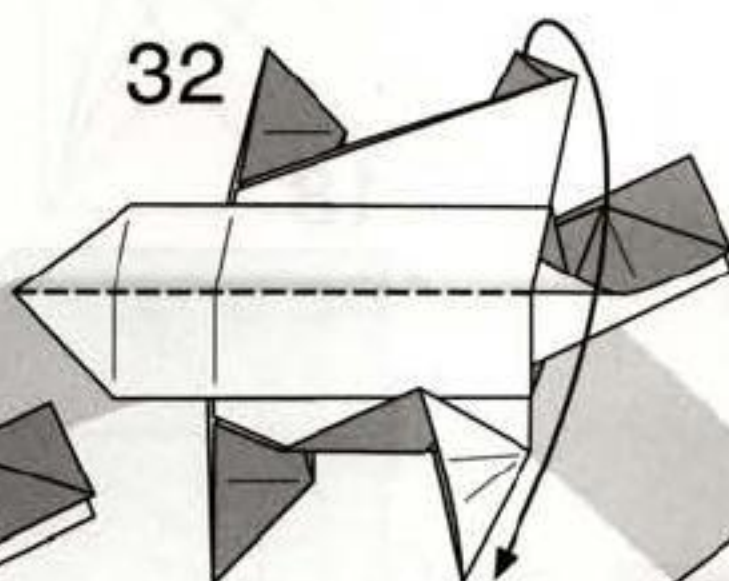
28
全体を半分に折る



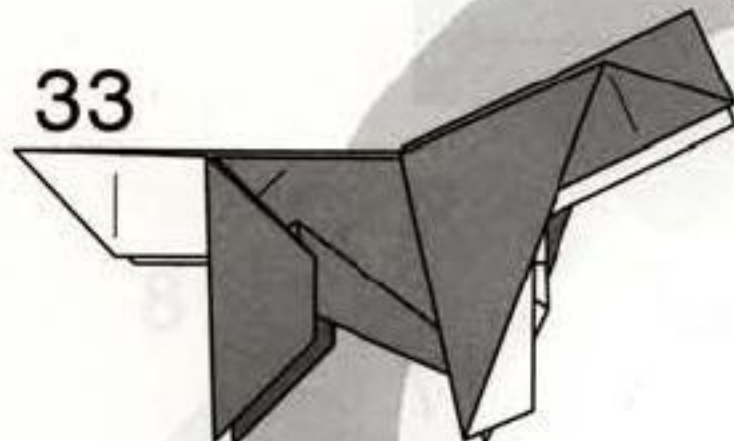
29
上の1枚を
かるく開く



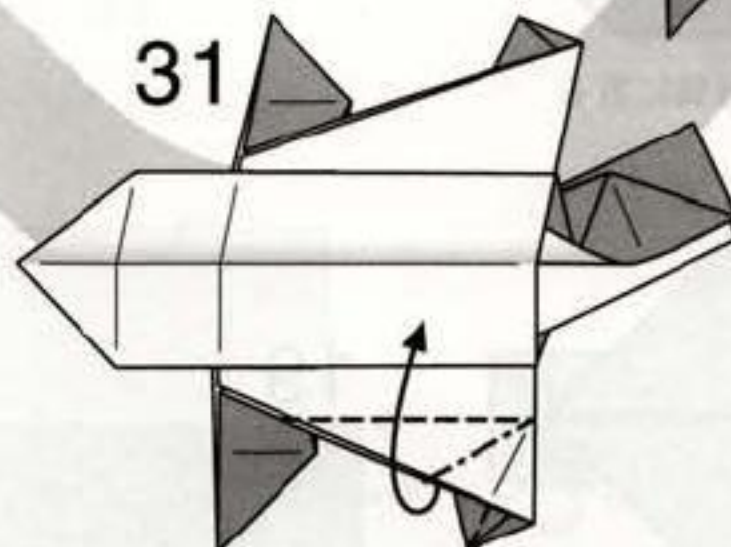
30
縁と縁を合わせて
折り筋をつける



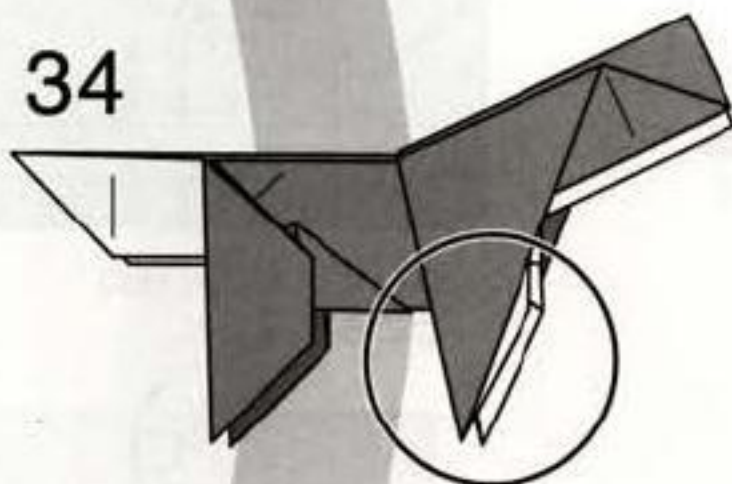
31
閉じる



32
反対側も 30-31 と
同様に折る



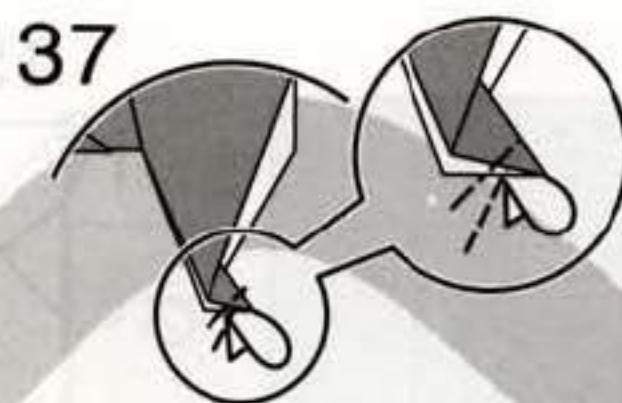
33
つけた折り筋を使って
引き寄せるように折る



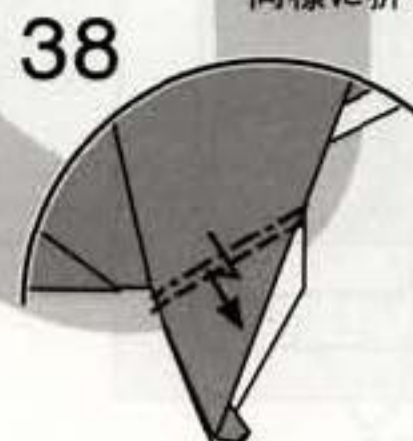
34
中割り折り



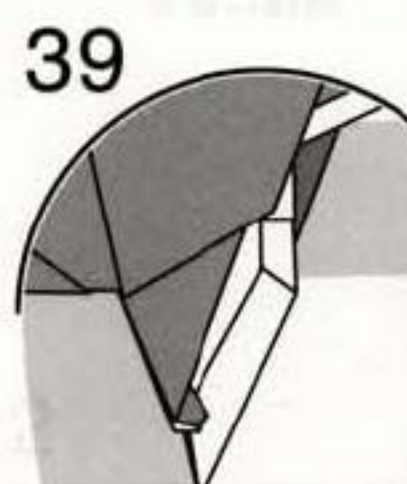
35
1つめの隙間で
中割り折りする



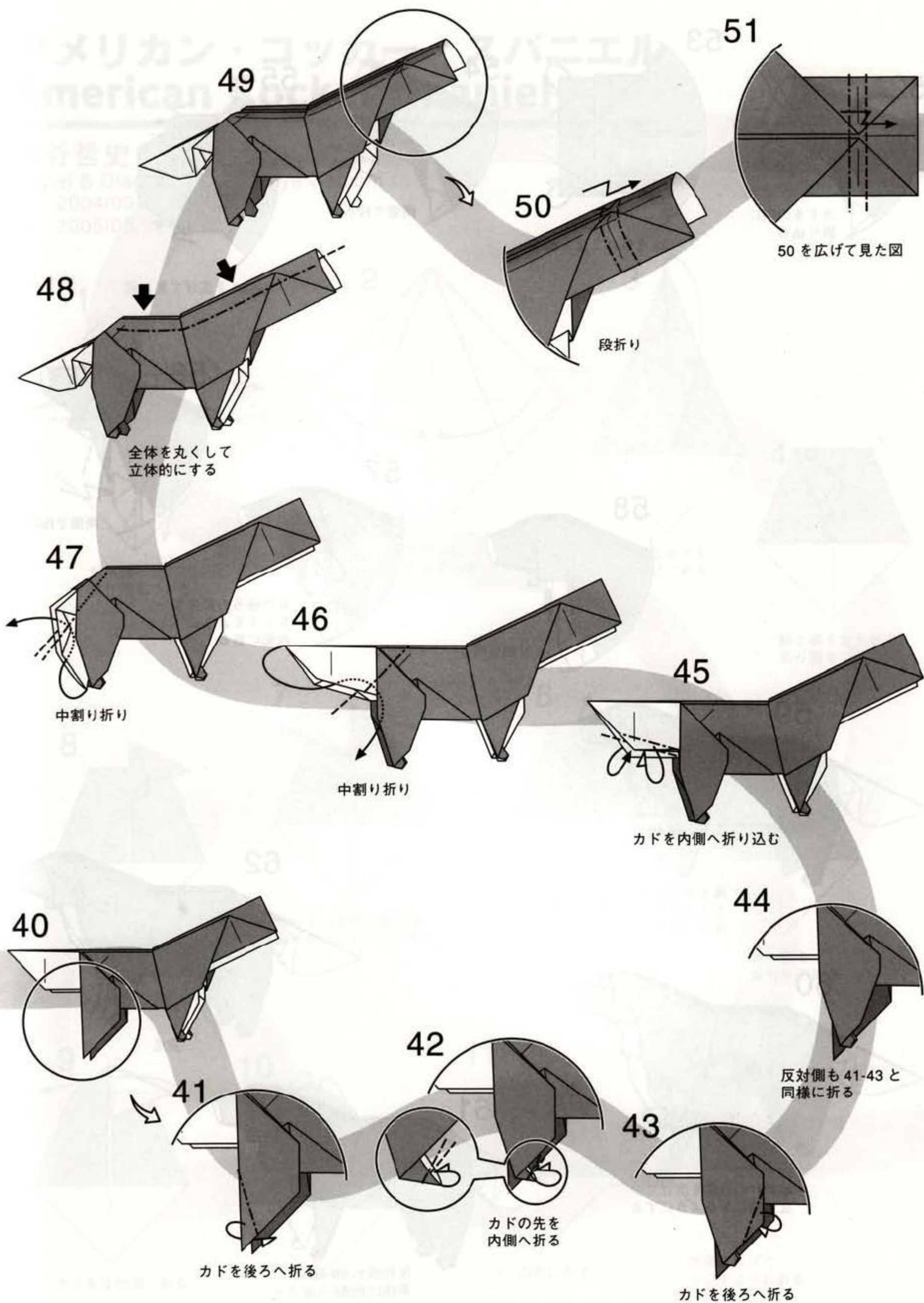
36
カドの先を
内側へ折る



37
段折り



38
反対側も 35-38 と
同様に折る

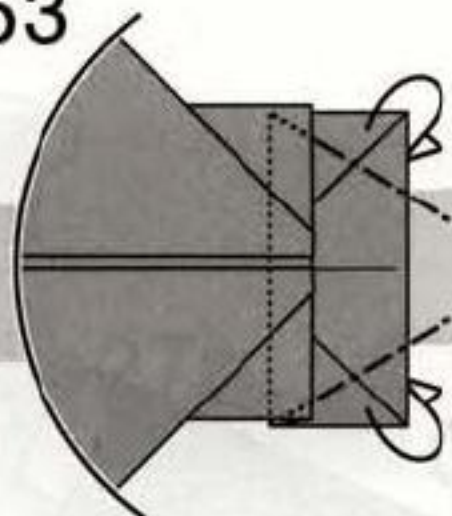


52



カドを内側に
折り込む

53



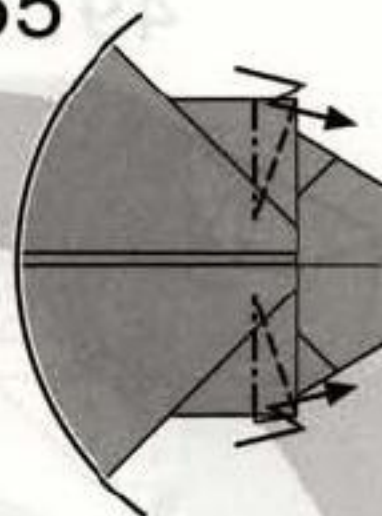
52 を広げて見た図

54



両側で段折り

55



54 を広げて見た図

56



両側で段折り

57



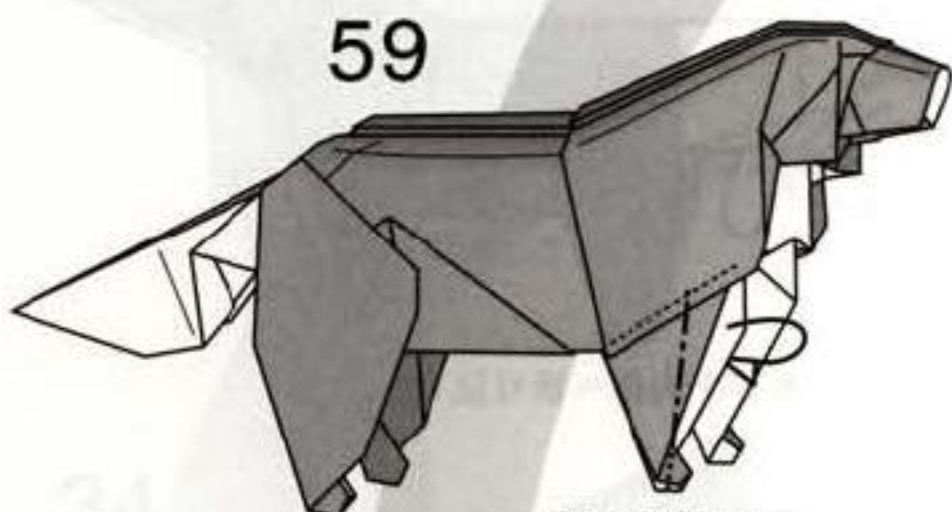
耳の後ろの部分を
丸くするように
内側に折る

58



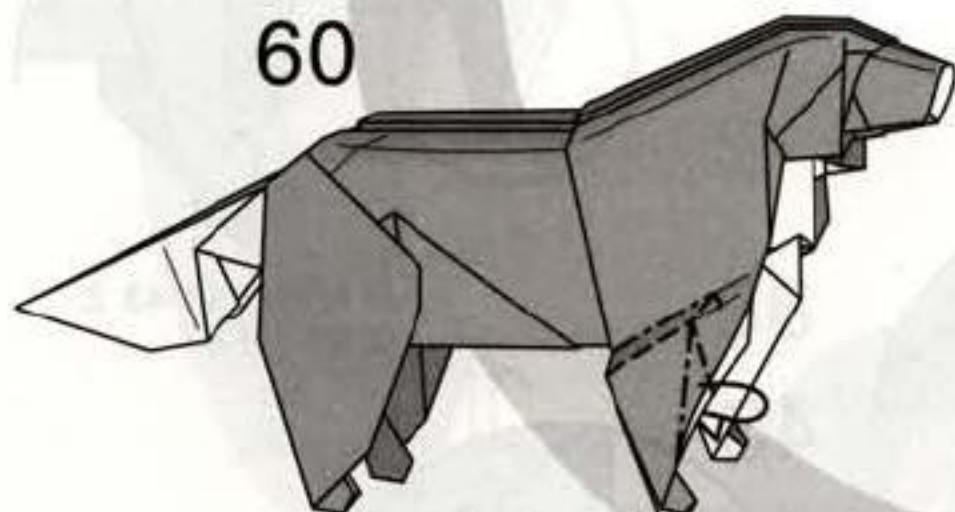
反対側も同じ

59



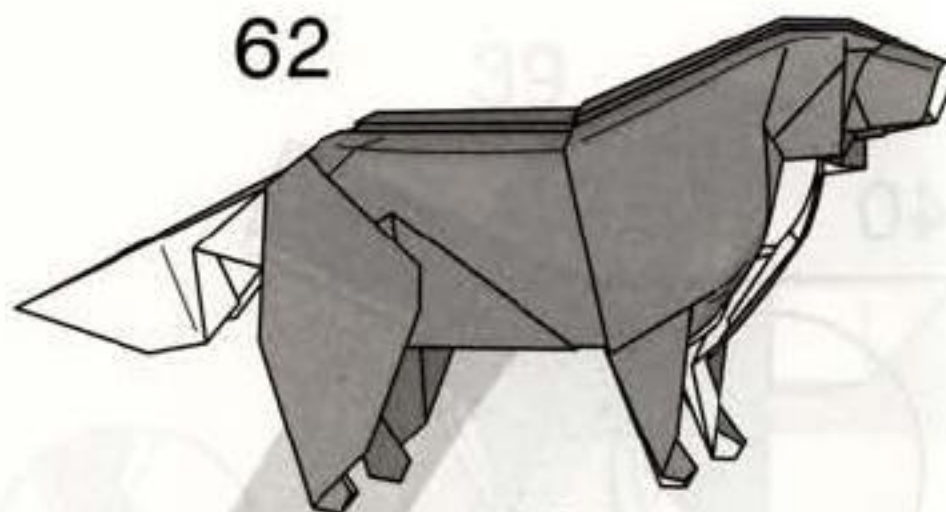
縁を段折りの
ところまで
後ろへ折る

60



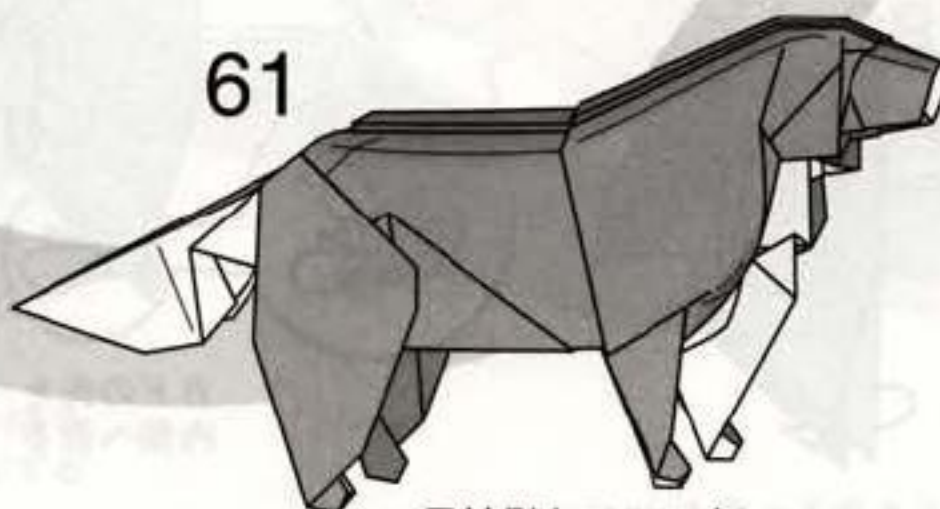
途中の図
段折りの右側を広げて
立体的になるようにする

62



完成

61



反対側も 59-60 と
同様に折る

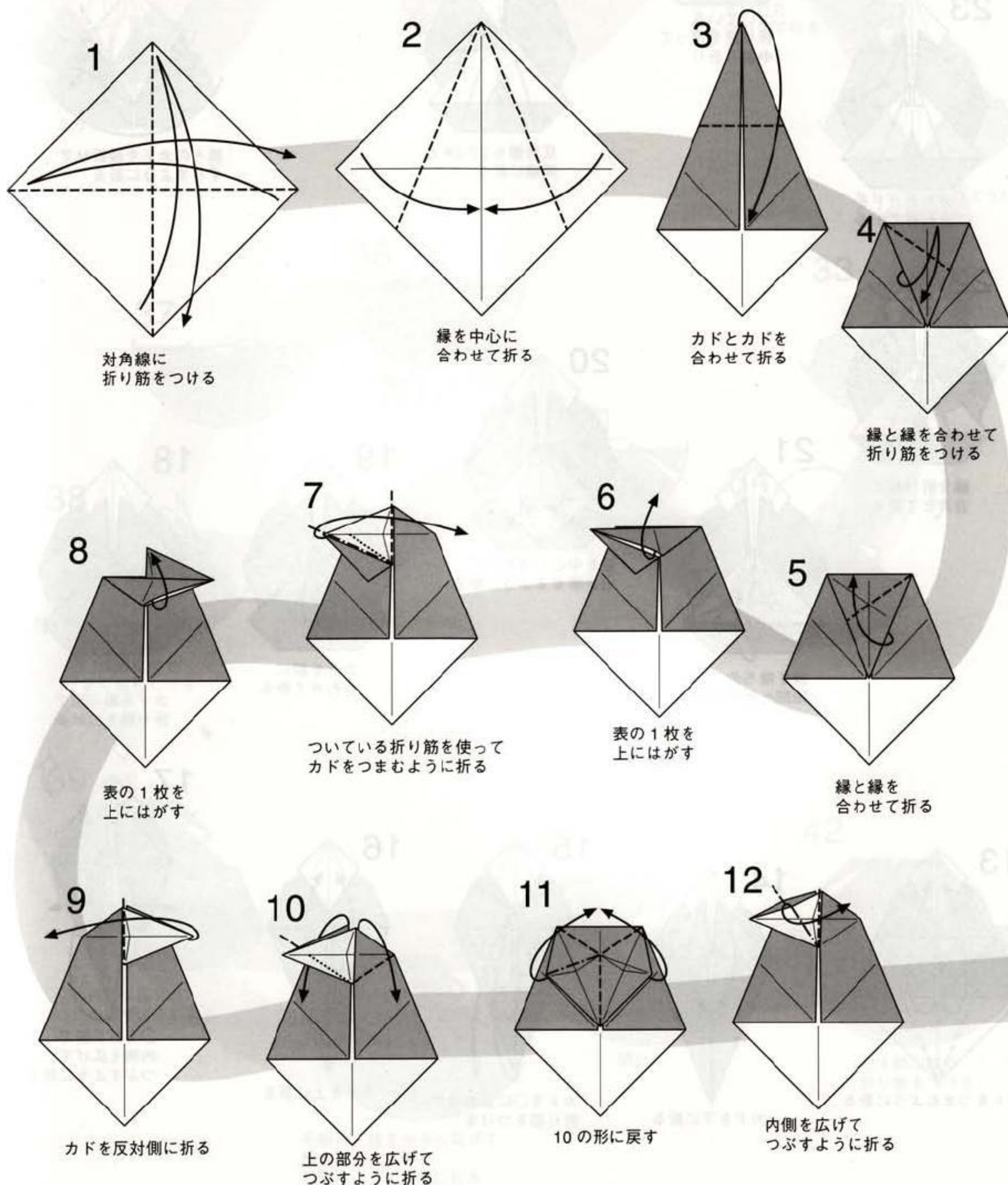
アメリカン・コッカー・スパニエル American Cocker Spaniel

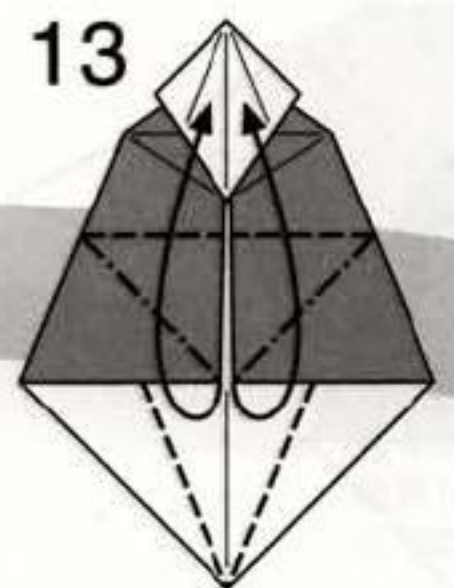
神谷 哲史

Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

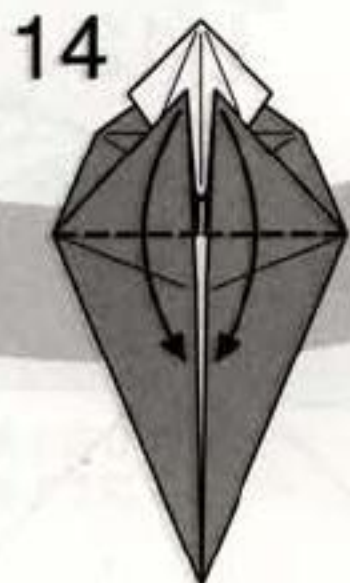
作 2004/09/xx

図 2005/05/xx

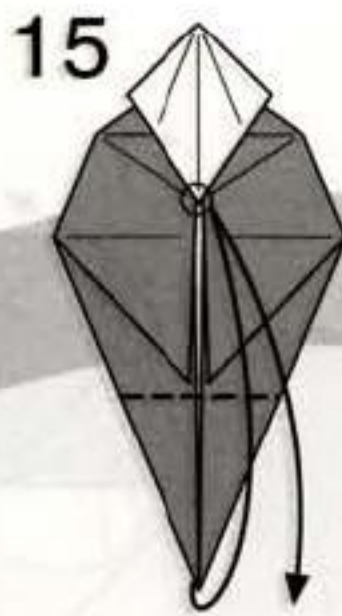




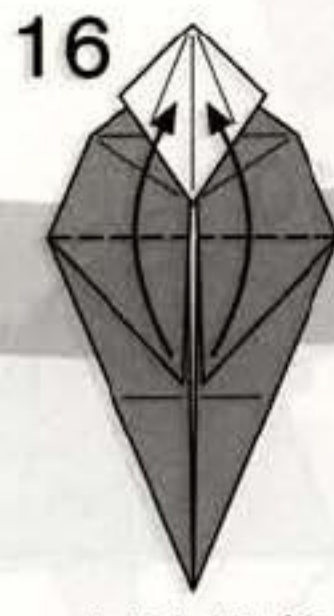
カドをつまむように折る



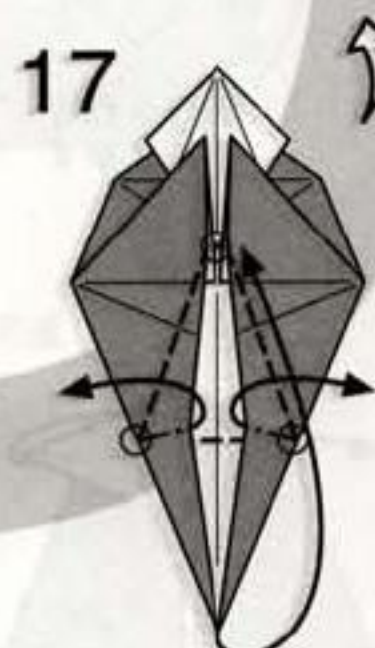
カドを下に折る



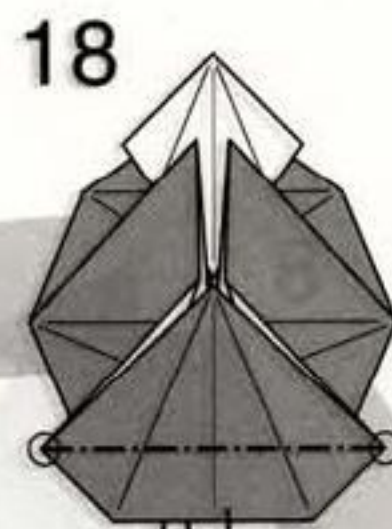
カドを○に合わせて折り筋をつける



カドを上折る



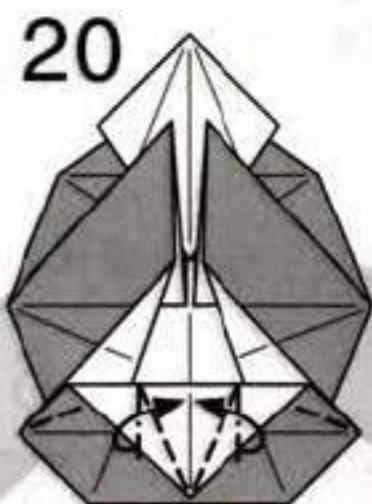
○を結ぶ線で内側を広げてつぶすように折る



カドを結ぶ線で折り筋をつける



カドを縁に合わせて折る



縁を中心に合わせて引き寄せるように折る



縁を後ろの隙間へ折り込む



縁を折り筋に合わせて折る



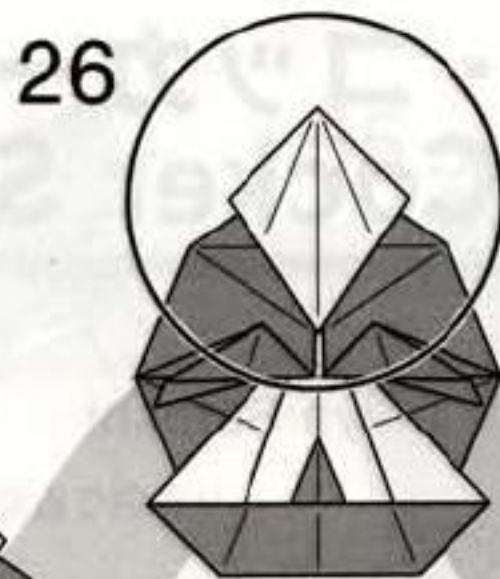
カドとカドを合わせて折る



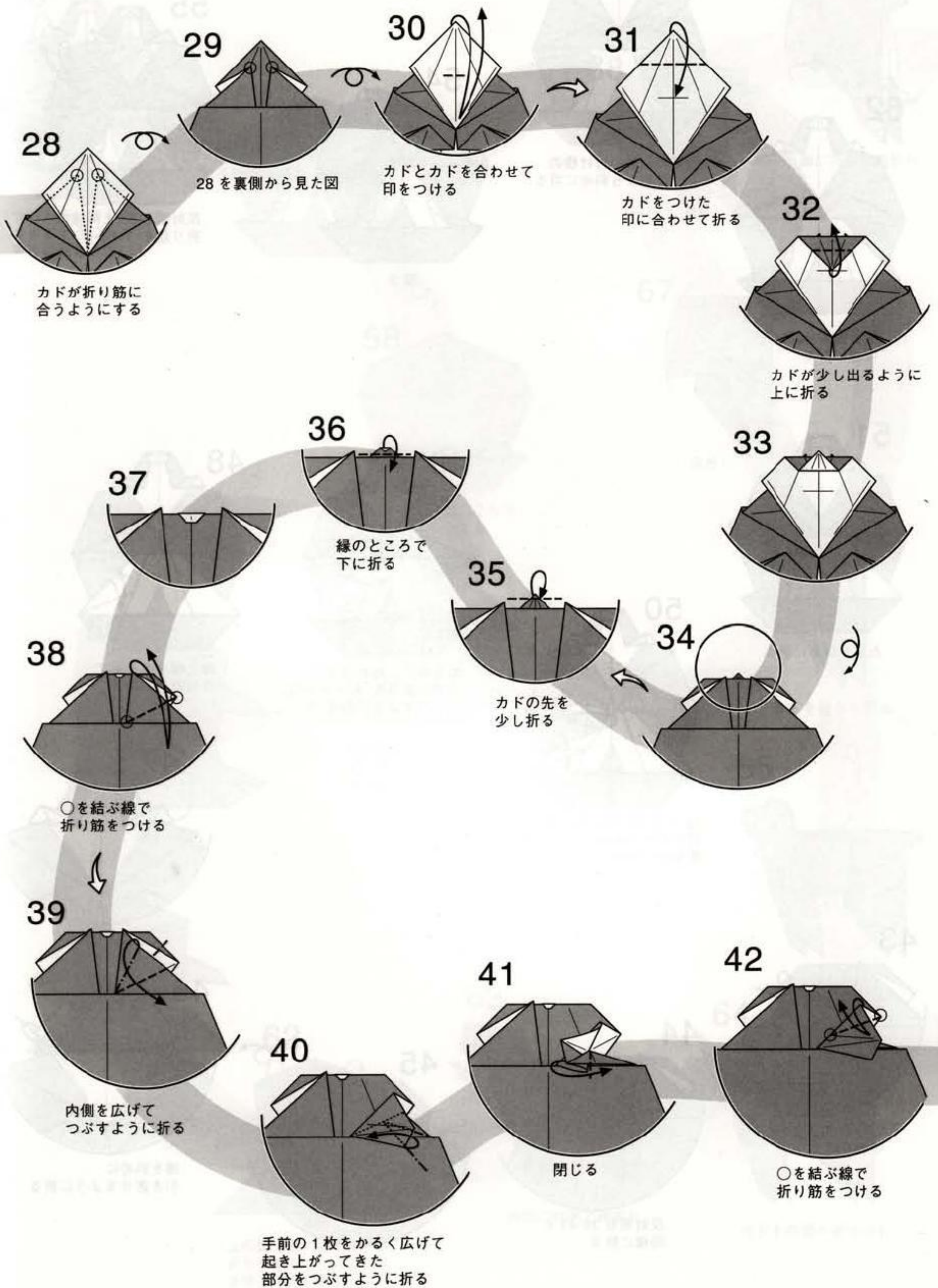
ついている折り筋を使って中割り折り



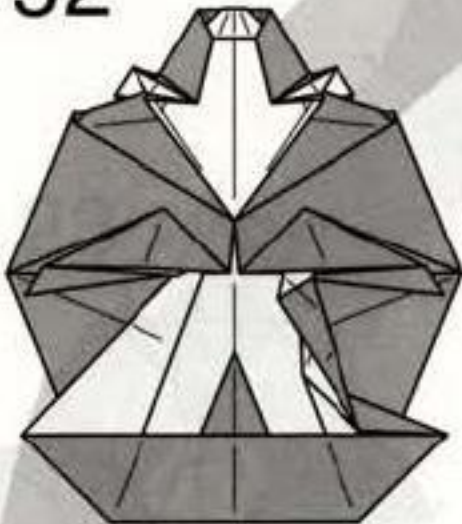
反対側も 22-24 と同様に折る



後ろのカドを段折りですらすように折る



52



反対側も 48-51 と
同様に折る

53



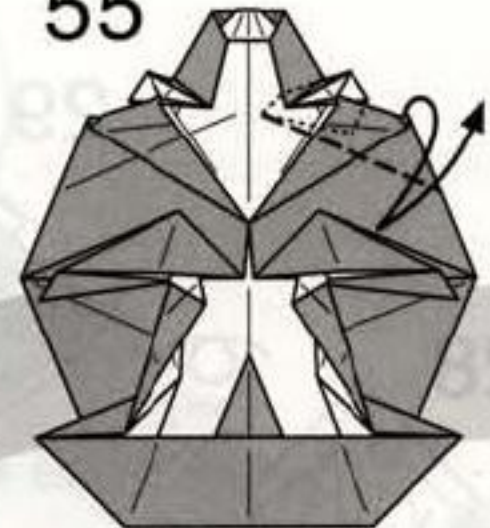
裏側の耳の付け根の
ところから斜めに折る

54



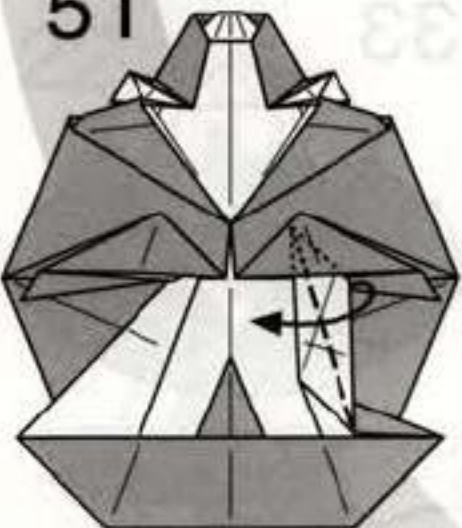
戻す

55



反対側も 53 と同様に
折り筋をつける

51



カドを斜めに折る

50



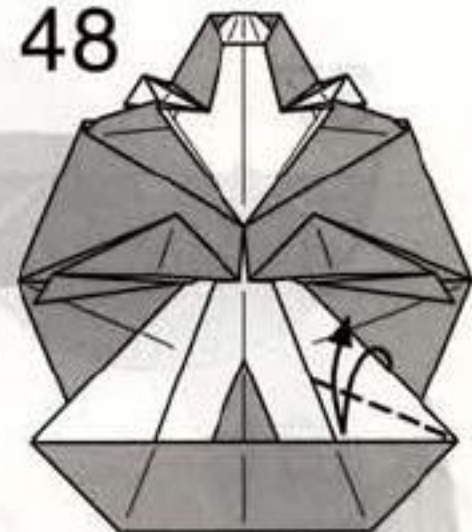
48 でつけた折り筋を使って
引き寄せるようにしながら
縁を右に折る

49



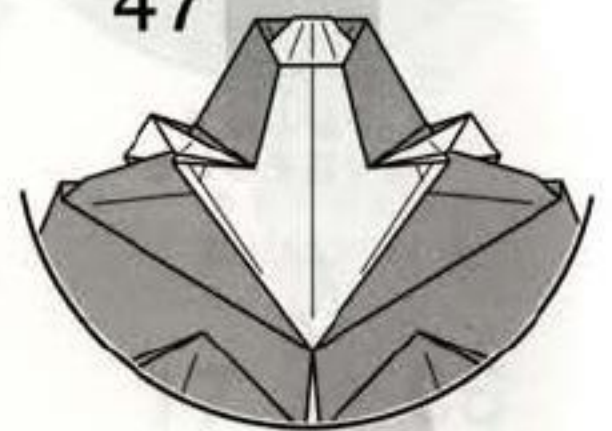
縁を中心に合わせて
内側の部分を
引き出すように折る

48

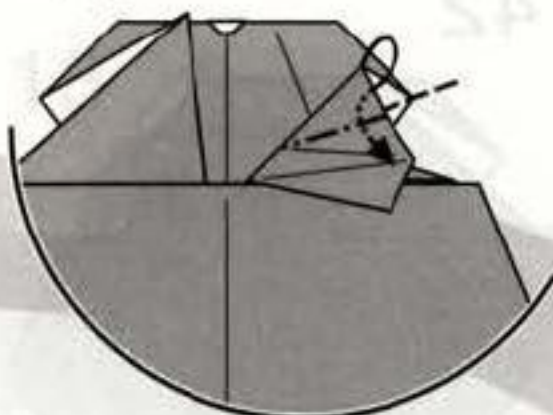


縁と縁を合わせて
折り筋をつける

47

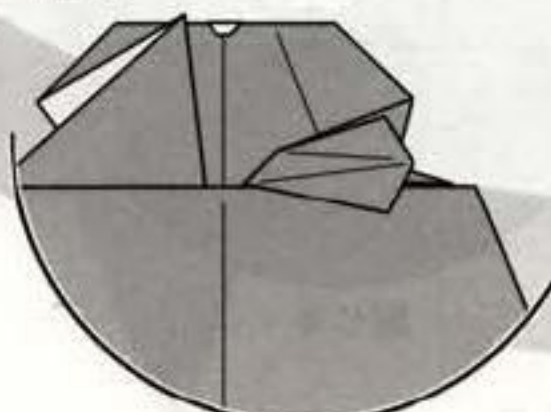


43



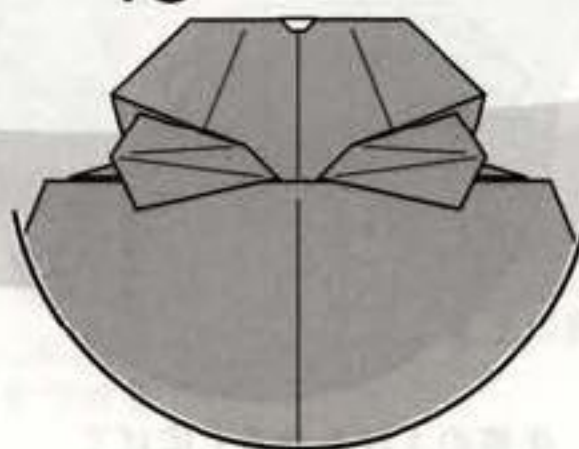
つけた折り筋で
中割り折り

44

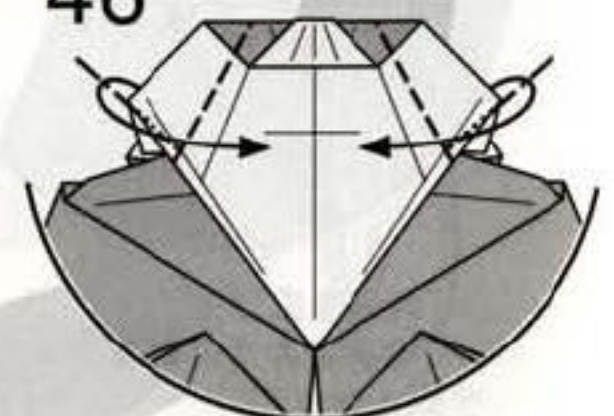


反対側も 38-43 と
同様に折る

45

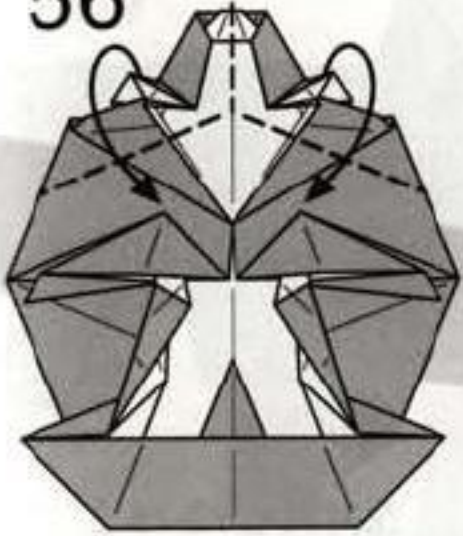


46



縁を斜めに
引き寄せるように折る

56



つけた折り筋を使って
つまむように折る
平らにはならない

57

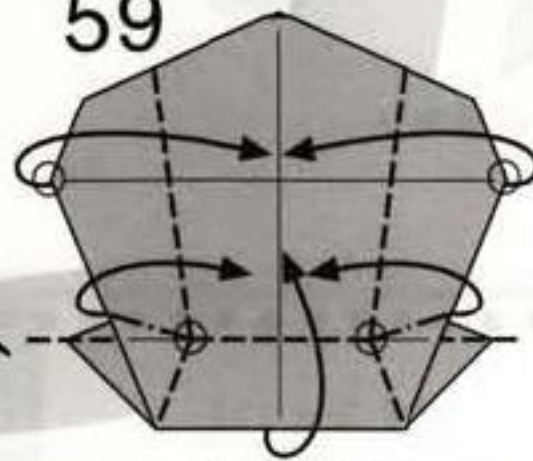


58



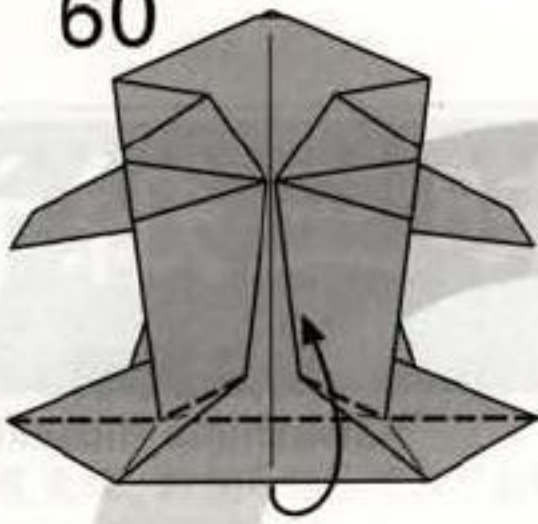
いっぱいところで
折り筋をつける

59



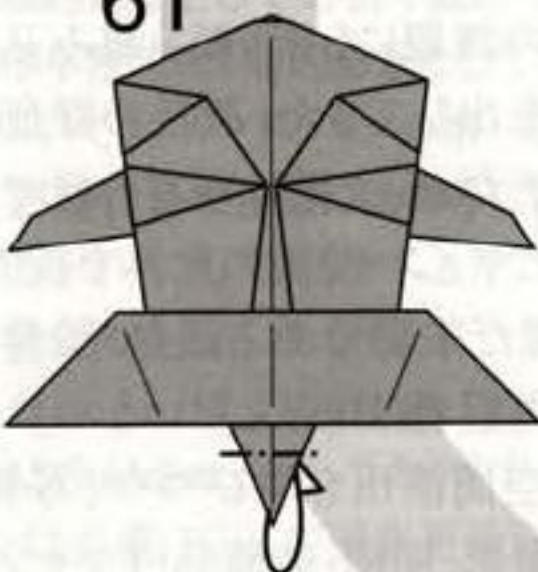
つけた折り筋を使って
カドを中心に合わせて
折りながら下の縁を上折る

60



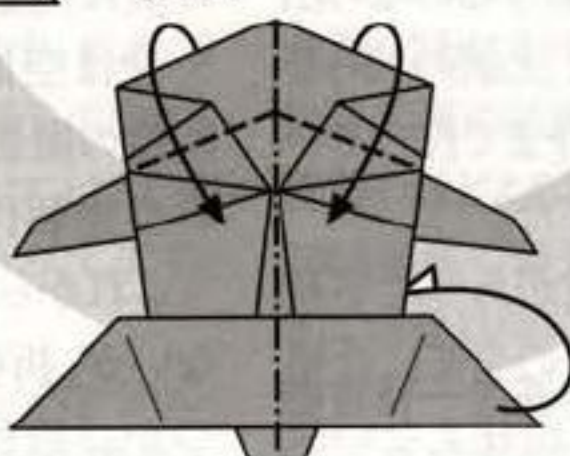
途中の図

61



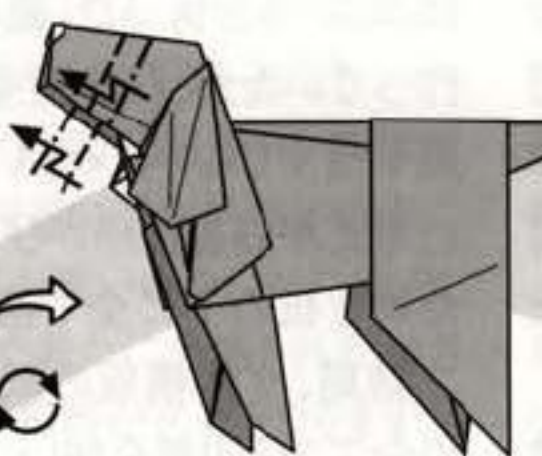
カドを後ろへ折る

62



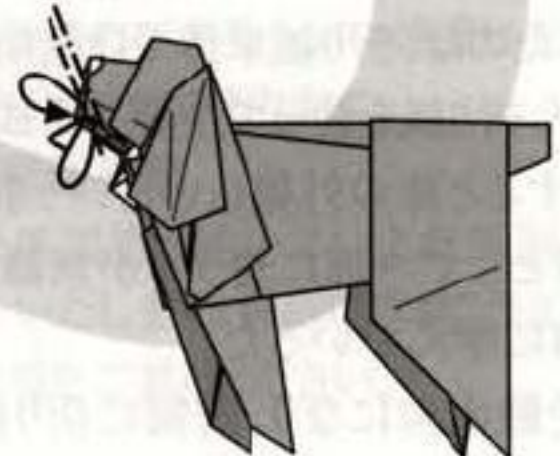
上の部分をつまむように
折りながら
全体を半分に折る

63



内側に両側で段折り

64



カドを内側へ折り込む

68



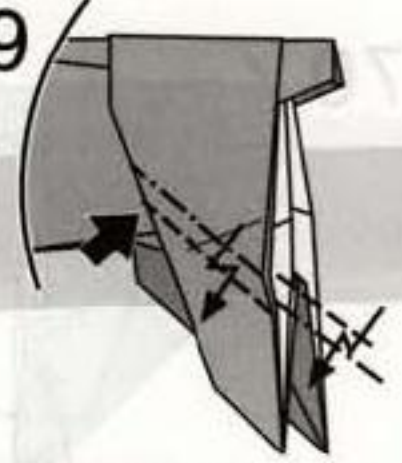
戻す

67



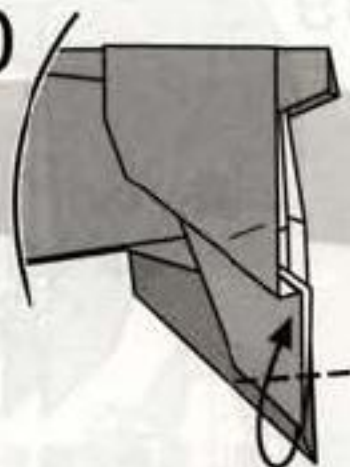
段折り

69



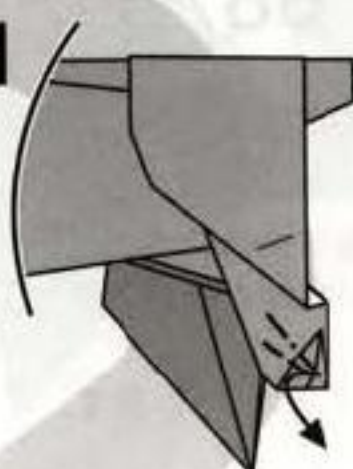
内側に両側で段折り

70

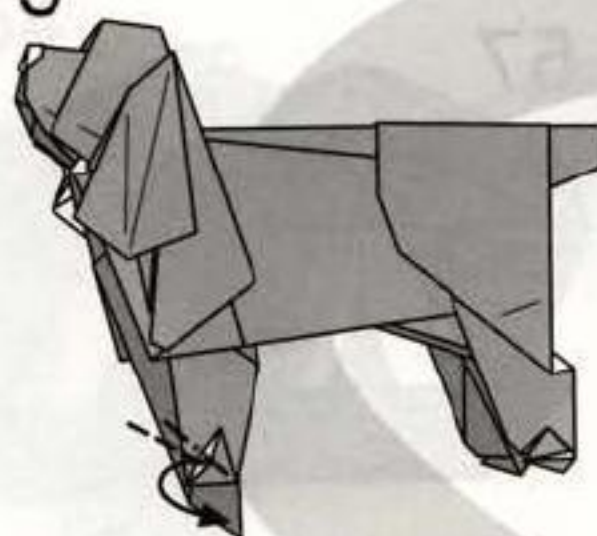


カドを上折る

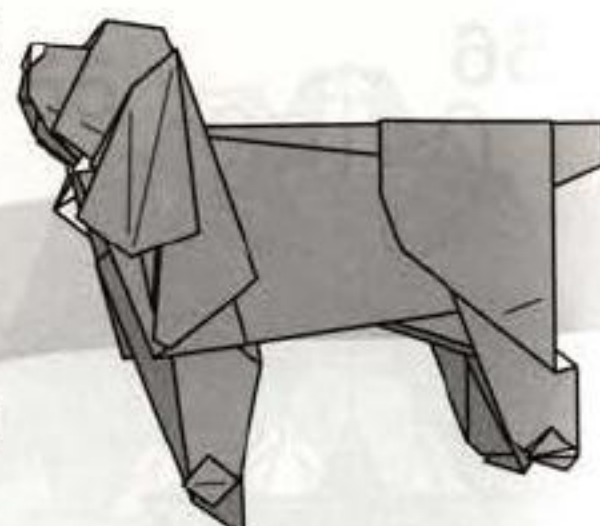
71

内側を広げて
つぶすように折る

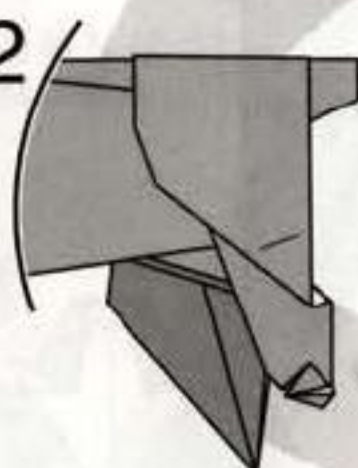
75

内側を広げて
つぶすように折る

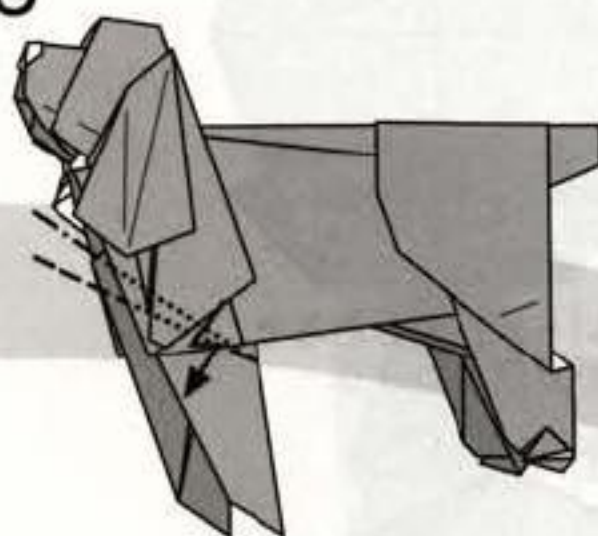
76

反対側も 73-75 と
同様に折る

72

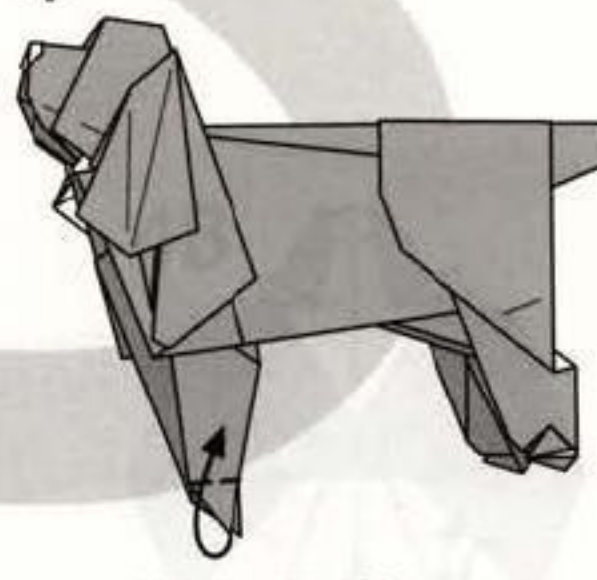
反対側も 66-71 と
同様に折る

73



斜めに段折り

74



カドを上折る



Orisuzi ("Fold-Creases")

美大で折り紙

Origami in an Art University

川島英明

Kawashima Hideaki

もう1年以上も前の事だが、美大の受験で折り紙を使った。

進路を決めたのは高校2年の冬だったと思う。美術予備校に1年余り通い、立体構成の試験対策で折り紙を組み込んでみたりもした。その度に感じたのは、折り紙単体では素晴らしいが、折り紙を使って空間を構成しようとすると殊の外難しいという事だ。素材として一部に使うのが無難だと次第に学んでいった。

受験直前になり、講師に折り紙禁止令を出された。これにはちゃんとした理由があり、自分も納得していた。

けれども、いざ立体構成の試験になると、どう考えても折り紙を使わない手が無い問題ばかり。「螺旋」がテーマの時は角柱をねじった紙を基本構成にし、矩形の紙だけが素材の試験ではここぞとばかりにユニットを折った。最初は別の構成を作っていたが、「どうせ受験するのなら伝説を残すぐらいじゃないと」と訳の判らない考えが脳裏に浮かび、今まで作っていた物を机の下に全て捨てた。

結局、立体構成の試験があった学科の全てで折り紙を使い、その全てに合格した。裏を返せば、折り紙が使えない試験は全て落ちた。(美大受験生は真似し

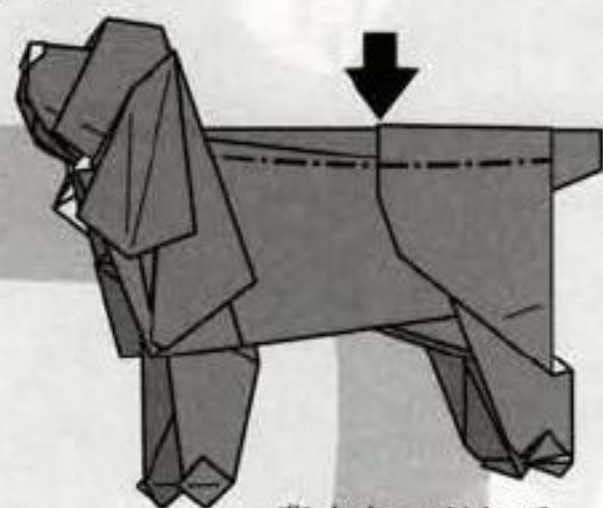
ないように。)

大学の課題にも折り紙を組み込んだ作品を出してきた。教授の評価はマチマチだが、大抵は稀有の目で見えてくる。デザイン・美術の世界で折り紙がまだまだ未開である証拠だ。自分の前に先駆者はほとんどいない。

今は空間演出を学びつつ、写真・映像の撮影、照明・装飾品・Tシャツ等の自主製作もしている。

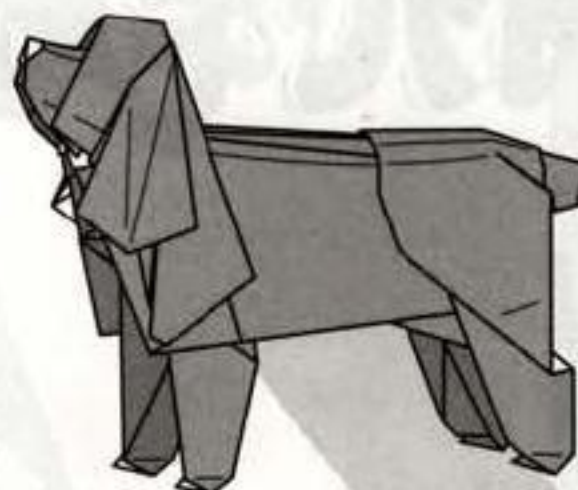
これからどういう方向に進むか判らないが、折り紙は続けていく。そしていつか、「道程」のように「おりすじ」という足跡を記したい。

77



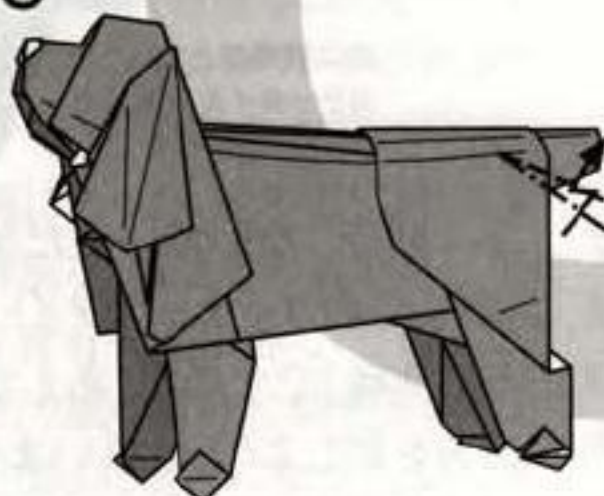
背中をつぶして
立体的にする

81



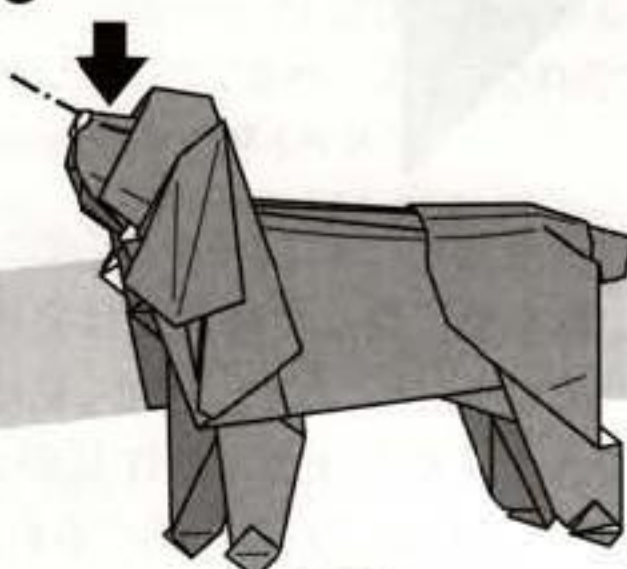
完成

78



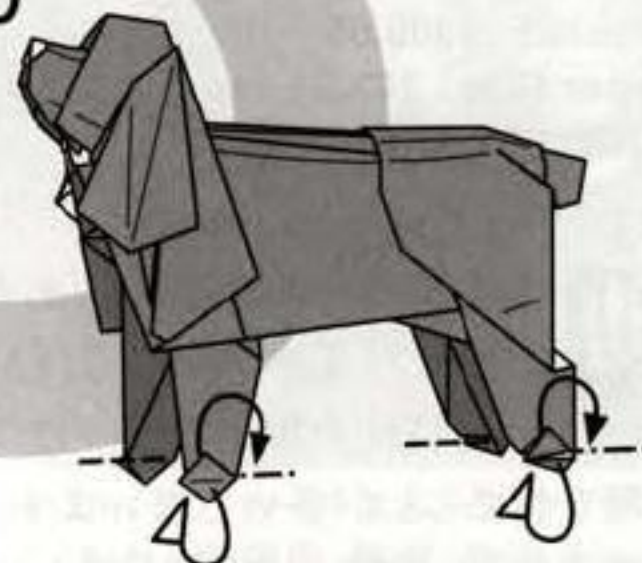
尾の部分を段折り
反対側も同様に折る

79



鼻の部分をつぶして
形を整える

80



足の先を水平になるように折る

折紙三昧 24

Origami-Zanmai (This Origami and That)

JOASより

A Message from JOAS

昨年度末来、お知らせしてきております日本折紙学会の各種事業の進捗状況についてお知らせします。

●知的財産としての折り紙について

昨年度末に「知的財産としての折り紙について」のガイドラインの第一版を策定し、15期会員の皆様には90号に同封してお知らせいたしております。5月より日本折紙学会のウェブサイト上で一般に公開 (<http://origami.gr.jp/New/JOASGuideline.pdf>) しております。ガイドラインは必要に応じて適宜更新して参ります。最新版につきましてはウェブ上でご確認いただきますようお願いいたします。

●JOAS折紙指導員

第7回折紙探偵団関西コンベンションでの第4回審査でも新たに5名の審査を行い、合格者は48名となっております。現

在、2004年度の審査会(第1回～3回までの審査)で認定した折紙指導員の皆さまに今年度の指導員認定証(有効期限2006年3月31日)を随時発行、送付いたしております。2004年度に行われた審査会で合格されたかたのうち、16期会員登録(購読ではありません)を済ませられた皆さまが対象です。認定更新のご希望の方は会員登録をお願いいたします。17期以降は、毎年更新料として1,500円をお支払いいただくことになります。認定証発行・各種通信費用等の経費相当の更新料です。ご理解のほどよろしくお願いいたします。なお、2005年度の審査で新たに合格された皆さまは18期以降に更新料が必要となります。

●吉野一生基金

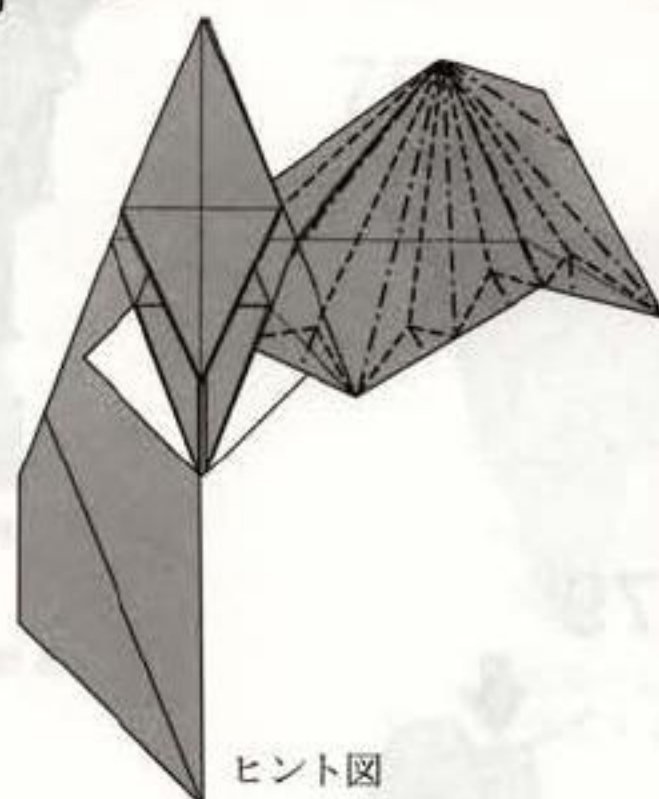
海外交流を促進するため、コンベンションへの国外作家招待を続けている吉野一

生基金ですが、新たに若手育成のための奨学金としての用途に運用できるように規約改訂することを検討しております。日本折紙学会規約では吉野一生基金規約は評議員会にて改訂できるようになっておりますが、海外との交流資金としてご賛同いただいている基金の用途拡大につきましては、今夏のコンベンション初日に行う第6回総会において会員の皆様のご意見を伺い慎重に進める予定にいたしております。

●折紙図書館

折紙図書館もいよいよ仮運用をスタートいたします。詳細は本誌「つまみおり」の項をご参照ください。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表



ヒント図



紙は雲竜紙と
カラーホイルの裏打ち

動 物などの作品を折るにあたっては、(1)基本形を折る、(2)基本形に表現技法を加えるという2つの段階を経ることが多いと思います。私は勝手に「二段階行為説」と呼んでいますが、基本形を畳んで必要な角を折り出すのが第1段階、基本形に細かい折りを加えて完成形に至るのが第2段階です。展開図というのはこの第1段階における設計図のようなものです。

基本形のデザインについては設計理論が整理されてきているので、これを短時間で身につけることは可能だとは思いますが、しかし表現技法の獲得は一朝一夕でできるものではなく、人の作品を沢山折って、「折りのポキャブラリー」を蓄積していく必要があると思います。

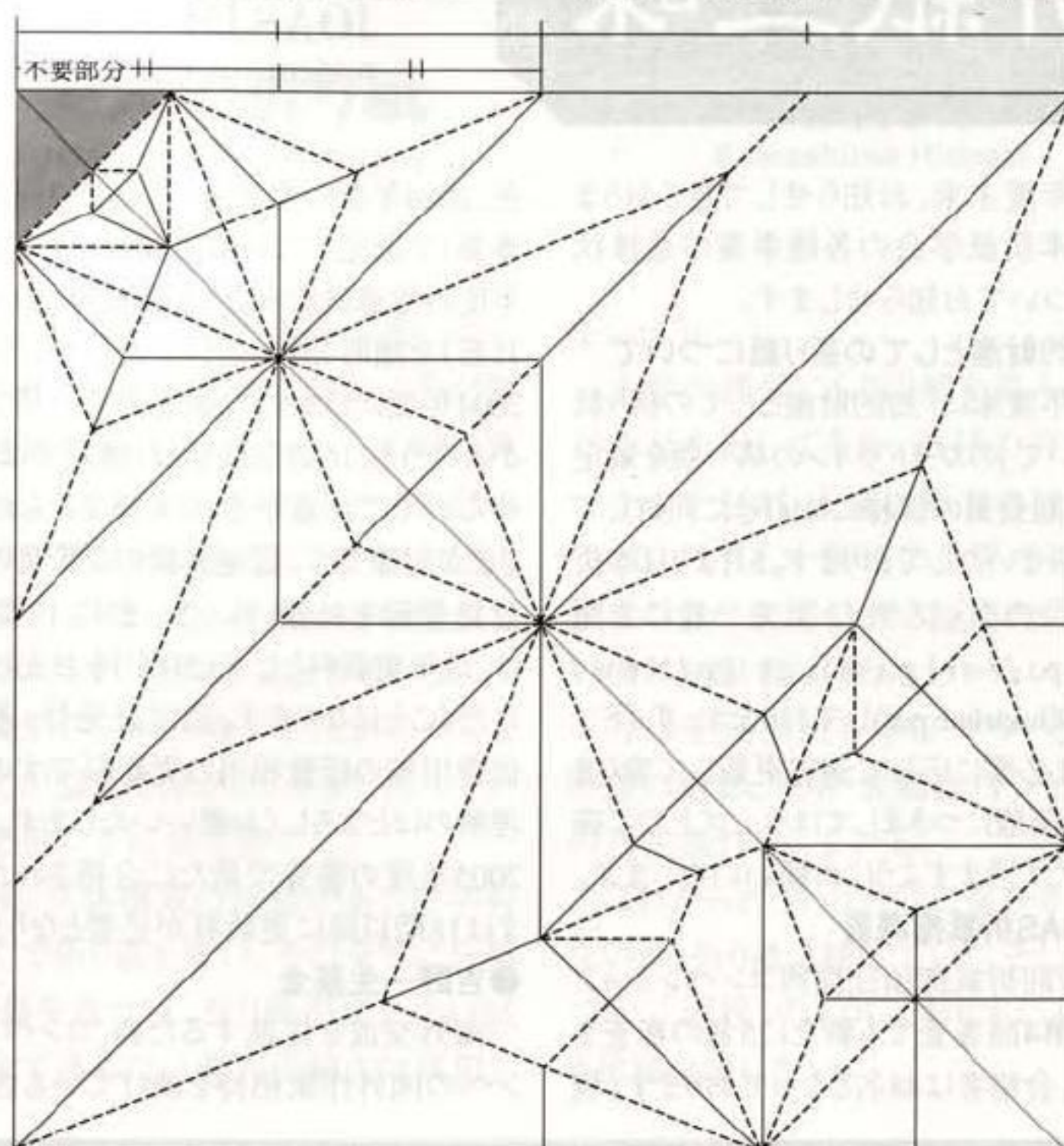
自分の場合は、少なくとも優れた基本形のデザイナーではないなと思っています。この「コウモリ」の構造を見てお分かりの通り、自分は複雑で精緻な基本形をデザインできる人間ではありません。比較的シンプルな基本形から、経験で獲得した様々な表現技法を投入して作品を作り上げる(もしくは、拙い基本形を小手先のテクニックでごまかして完成までこぎつける!?)。そんな作品が自分のレパートリーには多いようです。

つまり何を言いたいのかというとですね、この「コウモリ」は基本形を畳むことができたとしても、そこから完成形までの道のりは実に遠いということなのです。基本形を畳んだ後も、折って引っ張り返して伸ばして引っ張って(?)、さまざま

な加工を加えた末にようやく完成に至ります。基本形に畳んだ時点では完成度は50%といったところでしょうか。私は前川淳さんや小松英夫さんの作品が大好きですが、このお二方の作品であれば、基本形の時点で完成度は80%くらいまで達しているのではないかと思います。しかし優れた基本形の折り手ではない自分にはそれは出来ない相談です…。

私が描く展開図は、作品の大まかな構造を知ってもらう以上の意味はありません(きっぱり)。「こんな構造なんだあ」「きれいなパターンだなあ」と感じる以上のこ

とは期待しないでいただきたいのです。しかし、このコーナーのタイトルは「展開図折りに挑戦」ですので、あえて挑戦しようという方を制しようとは思いませんが(笑)、その辺のことをお含みいただいた上でご挑戦をいただきたいと思います。展開図を畳めば作品ができるという「展開図幻想」はそろそろ捨てていただきたいと思う今日この頃です(と妙に挑発的なことを書いていますが、私の中にわずかばかり残っているサービス精神がこんなヒント図を描かせています。『魁!!男塾』の影慶のごとく「フッ、俺も甘いな」と思わずつぶやく自分が…)。



File-15

藤田文章さんご逝去

Obituary: Huzita Humiaki

第1回折り紙の科学国際会議の議長、公理的折り紙作図の研究者として知られる、イタリア、パドヴァ在住の藤田文章先生が3月26日に亡くなられた。享年80歳。昨年冬の自動車事故による大怪我から散歩できるまでに回復し、復活祭の前の土曜日の朝に病院を出たあとの死であった。

藤田文章(ふじた・ふみあき)=イタリア、パドヴァ大学教授。2005年3月26日、永眠。享年80歳。



道を創ってきた人 川崎敏和

先生の専門は実験物理学。研究のために若くしてイタリアに渡り、ガリレオが教鞭をとっていたヨーロッパ有数の大学、パドヴァ大学教授の職にあった。定年退官後は、数年に一席の特別な(講義等の義務無し・研究施設と研究費有り、期限無し)ポストにつき、物理学と折り紙の研究に情熱を傾けられていた。折り紙は、晩年になって、師である伏見先生の勧めで始められたそう。先生の功績を理解するには、会議が開催された1989年の状況を知らなければならない。

・ギャラリーおりがみはうす誕生(探偵団新聞発刊は翌年)

・布施知子さん長野に移住

・笠原邦彦著『おりがみ新世紀』、『おりがみ新世界』出版

・インターネット、電子メール?それ、何?

・NOAの雑誌『おりがみ』が主な発表の場前川さんや私の作品も、個人的交流で、笠原氏の著書を通して紹介される時代だった。

科学的なものは、1979年の伏見康治著『折り紙の幾何学』やビバシリーズくらいしかなかった。そんな時代に突然、60代半ばの折り紙歴の浅い人が定年退官後「折り紙の科学国際会議をやる!」と決意し、一人で実現させた。驚くべきことである。

研究者がどれくらいいるかわからない(“origami”とWeb検索することもできない)。

案内状を出しても来てくれるかわからない(前例がない)。何も無いところから始めること、それが第1回なのだ。先生は世界中から折り紙に関する論文を集めて、筆者たちに次々と案内の手紙を出

された。研究発表を増やすために、同僚に、折り紙に関する研究を依頼し、論文を書かせるなど会議の成立のためにあらゆる手を打たれた。すべてをお一人でなされた苦勞はいかばかりであったろう。

かくしてイタリア北部の都市フェラーラで開催された会議では17の発表がなされ、グリーンブックとよばれる会議論文集にまとめられた。この本には、先生が収集された論文も収録されており、折り紙科学のバイブルとなっている。第3回会議の議長T・ハル氏が、この本が研究の始まりであったと述べているように、その後の研究者に大きな影響を与え続けることになる。

先生の興味は、数理面ではおもに公理的折り紙作図に向けられていた。近年もっとも活発に研究されているテーマで、阿部恒氏の角三等分折りに触発されて考案された公理系はHuzita's Axiomsとよばれ、この分野の出発点となっている(90号のハル氏の記事参照)。また作品としては、「教授の書類入れ」(笠原邦彦著『おりがみ新世界』)に代表される、実用折り紙で手腕を発揮された。フェラーラ会議の資料もこのファイルに納められて配付され、今でも使用できる。1988年のパドヴァ折り紙展の作品写真集も出版されている。OrigamidoやMINGEIに先駆けること10年。



1991年10月イギリス・バーミンガムでの折り紙教育とセラピー国際会議にて。休み時間に談笑する故トキ・エン氏(左)と藤田氏



1991年ドイツ・カールスルーエのピアホールにて(左から藤田氏、筆者、妻淳子)

書いているうちに気づいた。折り紙だけで科学国際会議が開催できること、折り図のない本が出版できること、先生以外の誰が思いついただろう。それほど折り紙に夢を持ち、折り紙の研究にのめりこんだ人。折り紙の世界でなすべきことを見極め、新たな道を創ってきた人。行動の人。それが藤田文章先生である。先生、素敵な道をありがとう。

追悼

布施知子

先生はダンディだった。あらゆる美しい形や考えに敏感で、年齢性別肩書き等、世間一般の価値観とはちがうものをもっておられた。19年前、藤田先生のお骨折りで私は初めて海外のコンベンションに行くことができ、それから毎年のようにどこかに出かけるようになったのも、このとき藤田先生がいろいろな人を紹介してくださったからだ。「中学生程度でいいから、英語を話せるようになりなさい」「偉い折り紙の先生にはならない方がいいよ」などなど教えてくださった。現在の私は藤田先生のおかげなくしてあり得ない。折り紙の数理と科学に光をあてたという大きな業績の他に、ヨーロッパと日本の折り紙人物交流の橋渡しを初めてなさった方だと思う。おもしろい折り紙に出会った時「は、は、は」と笑って心底うれしそうな顔をなさった。もっと笑っていただきたい。先生、ありがとうございました。



第1回折り紙の科学国際会議の論文集

Rabbit Ear つまみおり Information

Folding Australia: オーストラリア コンベンション2005 レポート

報告: ジョナサン・バクスター



▲メイン展示作品である「Origami House」の前に立つ、「おりがみはうす」の山口真氏(右はジュン・サカモト氏)



去る4月8日は、折り紙界の歴史に新しいページを刻むこととなりました。初のオーストラリア国際折り紙コンベンションが開催されたからです。メルボルンの南東100kmの町モーウェルにオーストラリア及び数カ国から80名以上のフォルダーが集結。私はニュージーランドから飛んで来たのですが、着いた時(土曜日の朝)にはもう折り紙教室が始まって大盛況でした。

コンベンションは「ラトロブ地区ギャラリー」という、レストラン・店・ギャラリー・教室などを備えた複合アート施設を借り切って行われました。建物内の通路には展示ケースがあり、オーストラリアの折り紙愛好家によるバラエティに富んだ作品が飾ってありました。

中でも圧巻は、メイン・ギャラリーに展示された実物大の折り紙の家です。両側から実際に通り抜けでき、家具、柱、洗濯物付きの物干し台、ソファ、いす、コーヒーテーブル、ノートパソコン付きコンピュータ机、本棚、電気のスイッチまであります。

これはダレン・スコットさんの思いつきから始まったものが、ディレクターのマット・ガーディナーさん、ギャラリー、新聞社、そして折り紙愛好家たちの協力で実現されたものです。世界最大の折り紙の家となるであろうこの作品は、1平方km以上の紙を使い(もちろん不切1枚ではありません!）、15000以上の折り工程、8週間の肉体労働と、5日間の組み立て期間を要したそうです。私自身も大きな作品のプロジェクトに関わったことがあるので、どれだけ大変だったかということがよく分かります。これは40人以上の参加者のチームワークがあってこそなのでしょう。そしてスティーブ・ケイシーさんによる、きっちりとかみ合うレンガ折りの手法が加わって、鬼に金棒、すばらしい作品に仕上がったわけです。

折り紙教室は他のコンベンションと同様に、初心者・初中級者・中級者・上中級者・そしてコンプレックスといったクラスに分かれていました。1日目の午前には前川淳さんの-15°ペンギン、クリス・パルマーさんの複雑なフラワー・タワー、パット・エリスさんとマーティン・リュウさんによる沢山のシンプル作品講習があり、午後には山口真さんや神谷哲史さんの講習もありました。

夜はギャラリーのレストランでパーティーが開けられました。最後のチョコレート・デザートを食べながら死んでもいいような、とても豪華なメニューの晩餐会でした。このとき私は、若いオーストラリア人ピーター・モエルさんの隣に座りましたが、彼は最近オリジナル作品集を出版し今後折り紙界への貢献が期待される作家のひとりです。さらに、世界中のコンベンションに必ずと言っていいほど出役している(笑)おなじみのオーストラリアの面々にも会うことができました。

この場では、今回のコンベンションに貢献した多くの人からのスピーチがありました。クレア・チャンパーレイさんは20年前からコンベンションの開催を考えていて、それがいかに人材・作品不足で困難だったか、そして20年待ったことが本当にいい結果を生み出したと話しておられました。スピーチでは皆、マット・ガーディナーさんたちの貢献こそがこのコンベンションを実現可能にしたと讃えていました(編注:彼はこ

の準備・勉強のために、昨年夏の折紙探偵団コンベンションにスタッフとして参加していました)。

深夜も、私のホテルの部屋で徹折りとなる予定でしたが、小さな部屋に20人以上が大量の黄褐色の液体(笑)と紙を少しばかり持ち込んで入るのを見たホテルの主人が、集会室を使わせてくれることになりました。そこで我々は快適にテーブルにつき、我々の一番得意なこと、すなわち折って、飲んで、笑って、冗談を言い合って早朝まで過ごしました。

次の日、日曜の10時には皆持ち場に帰って、元気に2日目の始まりです。この日もバラエティに富んだ折り紙教室が開かれました。今回の折り図集に収録されている作品の講習もありましたが、この折り図集はきれいなペーパーバックにまとめられ、フォルダーなら必ず欲しくなる本に仕上がっています(ご購入は<http://www.airstrip.com.au>から、30オーストラリアドル)。

2日間の折り紙の祭典はあっという間に終わりに近づいていきました。今回のFolding Australia 2005の貢献、そしてオーストラリアにおいて多くの才能と創造性豊かな折り紙愛好家が見出されたことは、オーストラリアのみならず世界中の各地で語り継がれることでしょう。折り紙界の拠点がまたここに1つ増え、ここから生まれる作品がアートとしての折り紙の普及に役立つことでしょう。

多くのオーストラリアの人たちのすばらしい努力に感謝致します。本当に世界規模でプロフェッショナルな、非常に誇らしいコンベンションでした。世界中のフォルダーは次回のコンベンションまでの間に、南半球に行くための資金を貯めておくべきだと思います。



▲今回のオーストラリア折り紙コンベンションを成功させたマット・ガーディナー氏とミ・ディン・ハさん。彼らは6月から3ヶ月間、折り紙を勉強するために日本に滞在する予定



▲クリス・バルマー氏が折った作品(帽子?)をかぶって嬉しそうな前川淳氏。隣は純子夫人



▲オーストラリアといったらやはりこれ、スティーブ・ケイシー氏のカンガルー



▲コンベンションの陰の功労者マーティン・リュウ氏。

オーストラリアコンベンション2005 &

第6回折紙探偵団関西コンベンションフォトレポート



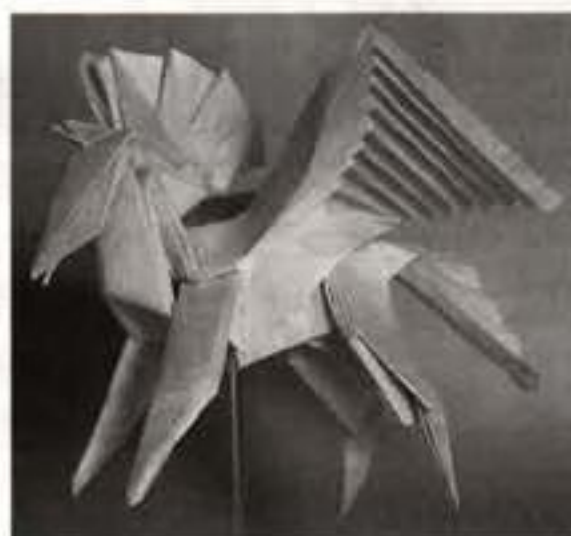
▲▶ 関西コン名物巨大折り紙。原作者の北條高史氏とバイオリニストと制作者の中村和也氏(上)、仏像制作者の坪正氏(右)



◀▶ 宮島登氏のナイト(左)とヘラジカ(右)



▶ 竹内啓氏の天馬



▶▶ 田中将司氏が最近のめり込んでいるユニット作品の一部



◆「折紙図書館」仮運用開始のお知らせ

JOAS図書館構想担当スタッフ

「折紙図書館」は、学会規約にある「折り紙の専門研究と折り紙の普及」の目的に沿って、折り紙に関する書籍などの資料を収集、整理、管理し、研究活動を行う方々に活用してもらうことを目指す活動として、日本折紙学会によって運営されるものです。

本誌15期89号の本欄でも予告しましたとおり、このたび6月より運用開始致します。

しかしながら、資料データベースの構築作業が予定より遅れております関係で、当面はデータベース無しの仮運用として始めさせていただきます。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、仮運用期間中にデータベース化を継続して行っていくとともに、利用いただいた方のご意見も反映し、来るべき本格運用に向けて努力していきたいと考えております。

閲覧予約方法など詳細は以下の利用案内をご覧ください。運用開始時の公開資料についてですが、書籍約500点に加え、各折り紙団体の機関誌などが閲覧いただけます。資料をご提供いただいた方々には改めてお礼申し上げます。

「折紙図書館」(仮運用)利用案内

場所

ギャラリーおりがみはうす(東京都文京区)

開館時間

毎週土曜日(第1週を除く)

午後13:00~17:00 要予約

(臨時休館日は、折紙探偵団ウェブサイトにてアナウンスしますのでご確認ください)

利用対象者

日本折紙学会(JOAS)会員

予約手続き

氏名・住所・来館希望日・来館予定時刻を、library@origami.gr.jp(専用アドレス)までe-mailでお知らせください。JOAS会員であることを確認後、折り返し手続き終了のメールをお送りしますので、プリントアウトして来館時にお持ちください。このプリントア

ウトをもって、本人確認とさせていただきます。

資料閲覧時の注意事項

ご利用に際しては、担当スタッフ(日本折紙学会のボランティア)の指示にしたがってください。

・折り図資料を見ながら折り紙を折ることはかまいません。

・資料のコピーはできません。

・資料は大切に取り扱いってください。

・私語は原則禁止です。図書館は、おりがみはうす/JOAS事務局内の一角です。業務のさまたげにならないよう、静かにお願いします。

お問い合わせ先

library@origami.gr.jp(専用アドレス)

◆
最後になりますが、現状でボランティアによる体制であることに加え、どれほどのご利用があるか事前予想がしづらいなど、スタッフも手探りの状態での仮運用開始となります。そのため、行き届かない点も多々あることと思いますが、新しい試みとしてどうかご理解くださいますようお願いいたします。ご利用をお待ちしています。

開催日の変更にご注意ください!
8月19,20,21日となりました。

◆第11回折紙探偵団コンベンション 参加募集開始

会場の都合により、前号でお知らせした8月26,27,28日から8月19,20,21日に変更となりましたのでご注意ください。昨年の第10回記念大会を終えて、通常の規模に戻ってのコンベンションとなりますが、作品講習は例年通りバラエティ豊かなものとなることでしょう。

◆参加募集開始

本誌到着から受け付け開始となります。同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵送またはファックスで日本折紙学会事務局までお送りください。

事務局＝〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216 TEL&FAX/03-5684-6080

本誌の購読等に関わらずどなたでも参加できます。お知り合い同士お誘いの上、お申し込み下さい。申込用紙が複数必要な場合、コピーをとって使用してください。

6月10日到着分の申し込みまで、初日到着分としてシャッフルし、教室受付優先番号をつけます。11日以降は到着順となります。お早めに。

◆初日特別講演会

現在決定している講演者は、筑波大学大学院講師の三谷純氏。ペーパークラフトの展開図を3DCGから自動作成するソフトウェアの開発・研究などで知られる方です。

近年の研究である、3DCGによる折り図的表現などについて、お話ししていただく予定。

◆折り図集投稿募集中

毎年のように力作が投稿されて充実のコンベンション折り図集。選考する側も毎回うれしい悲鳴をあげている。

折り図の募集要項が折紙探偵団ウェブサイトからダウンロードできます。投稿締め切りは7月2日。

◆第9回吉野一生基金招待者紹介

ニック・ロビンソン (Nick Robinson)

現在、British Origami Societyの機関誌『British Origami』の編集長を務めている。

ユーモアあふれるシンプル作品を得意とし、著書には、『The Origami Bible』『Adult Origami』など。

Web site: <http://www.nickrobinson.info/>

ジェイソン・クー (Jason Ku)

アメリカの若手注目株のひとり。18歳の若さながら、昆虫や空想動物などのスーパーコンプレックス作品を数多く創作して

いる。折り図制作にも積極的で、第10回の折紙探偵団コンベンション折り図集にも、労作の折り図「Balrog」を投稿している。

Web site: <http://www.bluegoo.net/~jason/>

作
品
▶
ジェイソン・クー氏の
「Balrog」



東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=文京シビックセンター／参加費=300円(中学生以下100円)／講習会=14:00～／研究会=16:00～

●6月4日(土)／地下1階生涯学習センター・学習室／講師:西川誠司／作品:畳紙各種

●7月2日(土)／地下1階生涯学習センター・学習室／講師:未定／作品:未定

関西友の会

●6月19日(日)／会場=長岡京市立産業文化会館／14:00～17:00／参加費=500円／講師:坪 正／作品:意地悪ペンギン

静岡友の会

●7月24日(日)会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費=500円／時間=10:30～12:00／問い合わせ:054-254-4541(増武内山口16～20時)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.91 / Published on 25, May 2005 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "American Cocker Spaniel and Golden Retriever" Produced by Kamiya Satoshi / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

◆折り紙教室講師募集

受講生として参加してきた人も、この機会に、自信作・お気に入りの作品をコンベンションで教えてみませんか。もちろん講師経験者も大歓迎。指導員資格を持っているなら、実力を発揮するチャンスです。詳しくは、同封されている「講師参加のご案内」をご覧ください。

◆海外交流も盛ん

お互いのコンベンションに参加しあう中で培われてきた海外の愛好家との友好。

今年は、シンガポールから、カラーページで作品紹介しているロナルド・コウ氏が、またオーストラリアからはマーティン・リュー氏、マット・ガーディナー氏、さらに今号から連載が始まったデビッド・ブリル氏からも参加意向が伝わってきています。

◆懇親会ゲーム参加者募集

懇親会会場は、昨年と同じ東洋大学のスカイホールが借りられることになりました。

その懇親会の呼び物の一つであるのが折り紙を使ったゲーム。今年企画しているゲームは「折り鶴早折り選手権」。といっても単純に鶴を折るわけではなく、ナイフとフォークで折るといった過酷(?)なもの。そこで今、ゲームに参加してくれる方を募集しています。(優勝賞品には幻の絶版本が出る可能性もあります。)

参加希望の方は今からでも練習しておいてください。なお、出場にあたっては事前登録が必要になります。事務局にお問い合わせください。

編集後記

■コンベンションが盛んでどこへでも行きたいと思っているところがそうはいかなくなってきた。体力の衰えというやつだ。■まあ、それだけが理由ではないのだがブリルさんと約束していたスペインコンベンションに行くことができなかった。■そのブリルさんからの言づけが宮島氏から届いた。「2度は許さないぞ」ということだった。■次の約束はまだしていない。

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
 団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2005年5月25日発行 第16巻1号通巻91号
 発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

I♥ORIGAMI おりがみはうす商品案内

広告のコーナー

website = <http://www.origamihouse.jp/> E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only. For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第10回記念 折紙探偵団 折り図集vol.10
国際コンベンション
日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁
国内・外から集まった秀作55作品を収録
好評発売中!
王蟲:津田良夫、フレキシブル・ボール:川崎敏和、コスモスフィア:川村みゆき、ガメラ:笹出晋司、猿の面:露 誠志、ネコ:デビッド・プリル、ラット:エリック・ジョワゼル、ハクトウワシ:ネイサン・ゲラー 他



神谷哲史作品集 神谷哲史 著
山口 真 編 立石浩一 訳
4,000円/送料420円
B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録
超複雑系折り紙を得意とする神谷氏の8年間の集大成。大幅に加筆されて折りやすくなったバハムート、初期バージョンから改良されたエンシェントドラゴンの折り図等19作品の折り方を収録。
大好評発売中! ※第10回折り図集と神谷作品集の2冊同時注文の送料は530円です。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 おりがみ スーパーコンプレックス 吉野一生 著	2,900円		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
第9回折紙探偵団 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第8回折紙探偵団 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第7回折紙探偵団 折り図集vol.7 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外の創作家の秀作51作品を収録

※第1回~第6回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍複数の送料ご案内 書籍2冊の送料は530円になります。(同じ書籍2冊でも同様)
書籍3冊の送料は670円になります。(例外を除く・右記参照)

例 「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合
外 (例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ530円です

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 花だより 30cm判	490円	国内一律 1~3セット 440円※	30×30cm/16枚入(2色×8枚) 桜柄の春らしい色調 ※和紙ではありません
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 木の葉 30cm判	490円		30×30cm/16枚入(4色×4枚) 葉っぱをモチーフにしたシックな柄 ※和紙ではありません
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
北條高史作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

おりがみでつくる昆虫の世界

世界の昆虫おりがみ

作品5種類

315円
(本体価格300円)

- カブトムシ
- ヘラクレスオオカブト
- コーカサスオオカブト
- セアカフタマタクワガタ
- オウゴンオニクワガタ



株式会社トヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所